



ユーザーガイド



デジタルミキシングコンソール

MGX16V MGX16
MGX12V MGX12

目次

はじめに 9

本製品について	9
マニュアルの構成	10
付属品	11
本ガイドの表記方法について	12
お知らせ	13
ソフトウェアについて	14

各部の名称と機能 15

トップパネル	15
トップパネルの概要	15
チャンネルストリップセクション	18
リアパネル	20

準備する 23

TOOLS for MGX/URXをインストールする	23
電源を接続する	24
電源をオン/オフする	26
コンピューターと接続する	27
ファームウェアをアップデートする	28

接続する 29

アナログ入出力と接続する	29
使用するUSBケーブルについて	30
コンピューターと接続する(Windows)	31
コンピューターと接続する(Mac)	32
モバイル端末と接続する	34
映像機器と接続する(Videoモデル)	36

コンピューターへの映像の入力設定(Videoモデル) 37

画面概要と基本操作 **38**

画面の概要 38

画面の基本操作 39

Operation Mode(操作モード)について **43**

操作モードの設定 43

Simpleモード 45

Standardモード 46

HOME画面(Overview) **47**

画面構成 47

ツールバー 48

メインエリア 49

 チャンネル表示 49

 チャンネルエリア 51

サイドメニュー 53

SETUP画面 55

トップメニュー	55
GENERALメニュー	55
Versionメニュー	56
Licenseメニュー	57
Languageメニュー	58
Brightnessメニュー	59
User Defined Knobsメニュー	60
User Defined Keys メニュー	61
Sampling Frequencyメニュー	62
Output Patchメニュー	63
Peripheralメニュー	66
Power Managementメニュー	69
Date/Time メニュー	70
Software Integrationメニュー	71

MONITOR画面 72

トップメニュー	72
Monitorメニュー	73
Phonesメニュー	75
Oscillatorメニュー	76

SCENE画面 78

トップメニュー	78
Scene Listメニュー	79

SOUND PAD画面 82

トップメニュー	82
Pad Playメニュー	83
Pad Settingメニュー	84
Pad Recordメニュー	86

microSD画面 88

トップメニュー	88
USB Storage Mode ボタン	90
RECORDERメニュー	91
SAVE/LOADメニュー	97
TOOLSメニュー	100

チャンネルビュー 103

画面構成	103
ツールバー	104
チャンネル設定画面	105
メインエリア	107

チャンネル専用画面 113

チャンネル設定画面	113
INPUT画面	114
GATE画面	117
COMP画面	118
EQ画面	120
SSMCS (Sweet Spot Morphing Channel Strip)画面	122
メイン画面	122
COMP画面	124
COMP Side Chain画面	125
EQ画面	127
INS FX画面	128
DUCKER画面	129
DELAY画面	130
SEND TO画面	131

Simpleモード操作ガイド 132

Simpleモードの入り方	132
プリセット、ユースケースの選択	135
選択メニュー画面	135
「ライブ音楽、イベント」の概要	136
「配信」の概要	137
「DAW録音」の概要	138
Simpleモード画面	139
HOME(Overview)画面構成	139
ツールバー	140
入力エリア	141
ミックス選択と出力エリア	143
パラメーター操作例：「配信」ユースケース	145
チャンネルビュー画面	147

音に関する操作 149

HOME画面(Overview)からゲートを操作する	149
HOME画面(Overview)からコンプレッサーを操作する	150
HOME画面(Overview)からゲインを操作する	151
HOME画面(Overview)からEQを操作する	152
HOME画面(Overview)からインサートを操作する	153
HOME画面(Overview)からSSMCSを操作する	154
HOME画面(Overview)からダッカーを操作する	155
HOME画面(Overview)からディレイを操作する	156
HOME画面(Overview)からSEND TOを設定する	157

その他の操作 158

シーンをストアする	158
シーンをリコールする	159
シーンを削除する	160
シーンタイトルを変更する	161

microSDカードに録音する	162
microSDカードに録音した音声を再生する	163
モニター機能を使用する	164
PHONESを使用する	165
オシレーターを使用する	166
キュー機能を使用する	167
SOUND PAD(サウンドパッド)を使用する	168
サウンドパッドに録音する	168
オーディオファイルをサウンドパッドに割り当てる	169
サウンドパッドの設定をする	171
サウンドパッドの音源を再生する	174
User Definedノブに機能をアサインする	175
User Definedキーに機能をアサインする	177
ファームウェアをアップデートする	178

Software Integration機能を使用する 180

準備 (DAW Integration)	180
DAW Integration設定手順	181
DAWとの連携	183
Cubaseシリーズ専用画面	183
画面の開き方	184
入力設定画面	185
ハードウェア設定画面	189
MixKeyチャンネルエディター	190
画面の開き方	191

工場出荷時の状態に戻す 193

本体を初期化する	193
----------------	-----

EIA標準ラックにマウントする 194

別売品のラックマウントキットRK-MGX16、RK-MGX12を取り付ける	194
---	-----

よくあるご質問 196

困ったときは(音声のトラブル)	196
音が出ない	196
音が歪む	198
困ったときは(その他のトラブル)	199

資料 201

商標	201
一般仕様	202
入出力仕様	204
アナログ入力規格	204
アナログ出力規格	205
デジタル入出力規格	206
ビデオ入出力規格 (MGX16V、MGX12V)	207
Bluetooth仕様	208
エフェクトリスト	209
User Definedノブに割り当て可能な機能	211
User Definedキーに割り当て可能な機能	212
USB MAIN信号名対照表	213
寸法図	216
ブロックダイアグラム	218

はじめに

本製品について

MGXシリーズは、小規模なライブイベントや施設音響のPAはもちろん、ホームレコーディングや音楽制作、ポッドキャスト、ストリーミングまで、あらゆるシーンで活躍するデジタルミキシングコンソールです。

USBオーディオインターフェース機能も備え、対面・オンラインを問わず、ハイブリッドなライブや配信の音声をこの1台でカバーできます。

ライブサウンドPAからポッドキャスト配信、録音、制作をこの1台で

MGXシリーズは、ライブPA、オンライン配信、音楽制作を1台でこなす強力で柔軟な接続・ルーティングオプションを備えています。複数機器とコンピューター内部の音声も含む多岐にわたる音声ソースを使った複雑なセットアップも1台ですっきりまとめられます。

MAINとSUBの2系統のUSBポートにより、コンピューターやスマートフォンなど2台の端末からの音声の集約や、サブ録音・配信システムの構築が可能になります。

さらに、SDカードマルチトラック録音機能を備え、MGX16V、MGX12Vは、HDMIでの映像信号のキャプチャ/スルーアウト機能も搭載しています。これ1台で、バックアップ録音や映像信号処理もカバーした制作・配信システムを構築できます。

直感的に使えるハイブリッド操作

タッチパネルと各種物理コントローラーノブは、ミキサーが本来持つ基本的なチャンネルフェーダーやノブとともに、直感的な操作体験を提供します。ステージや配信の演出、音楽制作におけるアイデアをスムーズに形にできます。

音に磨きをかけパフォーマンスをも強化する内蔵DSP

製品本体に内蔵されたカスタムDSPチップ“SSP3”による様々なエフェクトは、録音から音楽制作、ライブ配信まで、あらゆるシーンの音を磨き上げプロフェッショナルなサウンドクオリティを実現します。さらに、演奏や配信のパフォーマンスをする上で理想的な低レイテンシーかつ高品位なモニター環境を提供します。

ヤマハとスタインバーグが届ける信頼のソリューション

ヤマハとスタインバーグ、それぞれがハードウェアとソフトウェア専門領域で培った技術や強みを結集し、ElgatoやOBS Studioなどの業界定番のブランドやソフトウェアとの協業を通して、皆様の創造的活動を支えるソリューションを提供します。

マニュアルの構成

本製品に関連するマニュアルは、次のとおりです。

紙マニュアル

- セーフティーガイド(同梱)
本製品を安全にご使用いただくために必要な情報が掲載されています。ご使用前に必ずお読みください。巻末に保証とアフターサービスを記載しています。
- スタートガイド(同梱)
本製品をご購入後、最初に行う操作を説明しています。

電子マニュアル

- セットアップガイド
本製品を使うための準備手順や、バンドルソフトウェアのダウンロード方法を説明しています。本体USBドライブ内の「Getting Started」ファイルを開くか、以下のリンクからアクセスできます。
https://manual.yamaha.com/audio/portable_pa_systems/mgx16_mgx12/sp/
- ユーザーガイド(本ガイド)
本製品のすべての機能について説明しています。
- エフェクトリファレンスガイド
エフェクトのパラメーターについて詳細に説明しています。以下のリンクからアクセスできます。
https://manual.yamaha.com/audio/music_audio_production/effect_rg/
- Technical Specifications (英語版のみ)
仕様一覧、ブロック図、寸法図などの資料が掲載されています。以下のリンクからダウンロードできます。
<https://www.yamaha.com/2/mgx/>

同梱のマニュアルはいつでも見られるところに大切に保管してください。また、各マニュアルはヤマハウェブサイトからダウンロードできます。必要に応じてご活用ください。

<https://download.yamaha.com/>

付属品

本製品には次のものが付属します。付属品がすべて揃っていることをご確認ください。

- 電源アダプター (電源コード含む) × 1
- セーフティーガイド × 1
- スタートガイド × 1
- Cubase AI License Card × 1
- Basic FX Suite License Card × 1
- Steinberg Plus License Card × 1

本ガイドの表記方法について

- 本ガイドでは、パネル上の操作子や、画面内に表示される仮想のボタンやノブ類は、名称を[]でくくって表記します。操作子によっては、[]の前にセクション名などを表記する場合もあります(例：USER DEFINED KEYS [1] キー)。
- 本文中の説明でモデルごとに仕様が異なる場合、該当するモデル名を()でくくって表記します(例：[MIC/LINE INPUT 1～8]端子(MGX16V、MGX16)/[MIC/LINE INPUT 1～4]端子(MGX12V、MGX12))。
- 本文中では、すべてのモデルをひとまとめにして「MGXシリーズ」と表記します。また、MGX16V、MGX12Vをひとまとめにして「Videoモデル」と表記します。
- 本ガイドでは、特にことわりがない場合、イラストはMGX16Vを使用しています。
- 本ガイドは、最新ファームウェアの仕様を基に作成されています。アップデートの内容は、製品サイトのダウンロードページをご確認ください。

お知らせ

■ データの著作権に関するお知らせ

- ・ ソフトウェアおよび本ガイドの一部または全部を無断で複製、改変することはできません。
- ・ 著作権法などで認められている場合を除いて、第三者のコンテンツ(市販の音楽/サウンドデータ/映像など)を権利者に無断で複製または転用することは禁止されています。

■ 著作権法保護について

- ・ 本製品を国や地域の法律が定める著作権をはじめとする第三者の権利を侵害する用途で使用しないでください。
- ・ あなたが本製品を使用して第三者の権利を侵害しても、弊社は一切責任を負いません。

■ 本ガイドの記載内容に関するお知らせ

- ・ 本ガイドでは、注意事項などを次のように分類しています。

・ 警告

「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

・ 注意

「傷害を負う可能性が想定される」内容です。

・ ご注意

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、また環境保護のため、お守りいただく内容です。

・ お知らせ

使用時の注意点や機能の制約、知っておくと便利な補足情報です。

- ・ 本ガイドに掲載されているイラストや画面は、すべて説明のためのものです。

■ シリコンボタンについてのお知らせ

シリコンボタンの表面には品質保持のためコーティング剤を塗布しています。保存環境や使用環境によってはこれらの成分が表面に現れ、白く汚れたように見えることがあります。人体にも製品の性能や機能にも影響はありませんので安心してお使いください。見た目が気になる場合は、乾いた柔らかい布、または水を固く絞った柔らかい布で拭いてください。

ソフトウェアについて

MGXシリーズには、各種バンドルソフトウェアが用意されています。

各ソフトウェアの詳細については、セットアップガイドをご参照ください。

セットアップガイドは、本体USBドライブ内の「Getting Started」ファイルを開くか、次のリンクからアクセスできます。

https://manual.yamaha.com/audio/portable_pa_systems/mgx16_mgx12/sp/

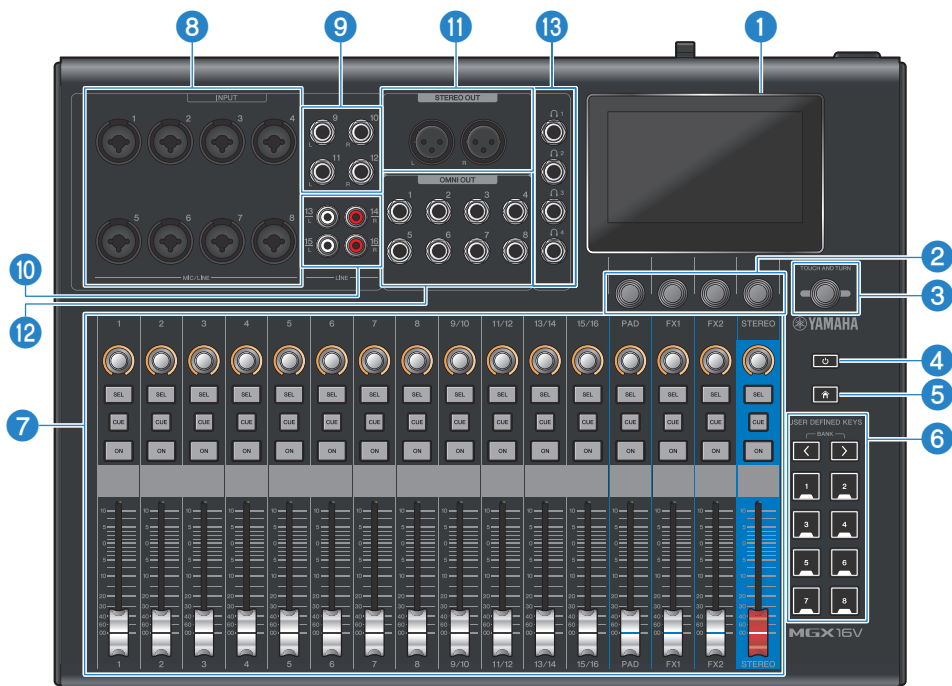
各部の名称と機能

トップパネル

トップパネルの概要

お知らせ

イラストはMGX16Vを使用しています。モデルによって入出力端子数が異なります。



1 ディスプレイ

静電タッチパネルを搭載したカラー液晶画面です。手袋などを着用して操作すると、正しく動作しません。

ご注意

- 先のとがったものや、爪などの硬いもので、画面を操作しないでください。画面を傷つけたり、タッチパネルでの操作ができなくなるおそれがあります。

お知らせ

ディスプレイには、工場出荷時に透明の保護フィルムが貼られていますので、はがしてからご使用ください。

2 マルチファンクションノブ

ディスプレイに表示された、4つの主要なパラメーターを操作します。

3 [TOUCH AND TURN] (タッチアンドターン)ノブ

ディスプレイで選択したパラメーターを操作します。

4 [⏻](電源)スイッチ(26ページ)

電源のオン/オフを切り替えます。電源がオンのときに点灯します。

長時間使用しないときは、必ず電源コードをコンセントから抜いてください。

5 [⏴](HOME)キー

画面表示をHOME(ミキサー)画面に戻します。

6 [USER DEFINED KEYS](ユーザー定義キー)(18ページ)

任意に割り当てた機能进行操作します。[BANK]選択キーで操作するバンクを切り替えます。

7 チャンネルストリップセクション(18ページ)

各チャンネルの主要なパラメーターを操作します。

8 [MIC/LINE INPUT 1~8]端子(MGX16V、MGX16)

[MIC/LINE INPUT 1~4]端子(MGX12V、MGX12)

マイクや楽器を接続します。XLRタイプ、TRS フォーンタイプの両プラグに対応したコンボ端子です。

9 [LINE INPUT 9/10、11/12]端子(MGX16V、MGX16)

[LINE INPUT 5/6、7/8]端子(MGX12V、MGX12)

楽器やオーディオプレーヤーなどラインレベルの信号を入力するバランスTRSフォーン端子です。

10 [LINE INPUT 13/14、15/16]端子(MGX16V、MGX16)

[LINE INPUT 9/10、11/12]端子(MGX12V、MGX12)

楽器やオーディオプレーヤーなどラインレベルの信号を入力するRCAピン端子です。

11 [STEREO OUT L/R]端子

アナログ音声信号を出力する XLR-3-32 タイプの出力端子です。主にSTEREOチャンネルとMIXチャンネルの信号を出力するのに使用します。

12 [OMNI OUT 1～8]端子(MGX16V、MGX16)

[OMNI OUT 1～6]端子(MGX12V、MGX12)

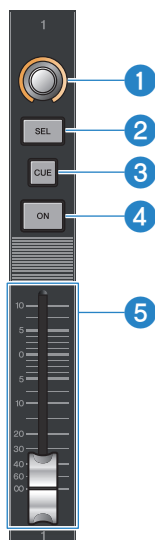
アナログ音声信号を出力するTRSフォーン端子です。主にMIXチャンネルとSTEREOチャンネルの信号を出力するのに使用します。

13 [PHONES 1～4] (ヘッドホン)端子

ヘッドホンを接続するTRSフォーン端子です。

チャンネルストリップセクション

各チャンネルの主要なパラメーターを操作します。



① [SEND]ノブ

センドレベルを調節します。センドレベルはLEDで表示されます。センドの送り先は、HOME画面のサイドメニューにある[Sends]ボタンで選択します。(53ページ)。

② [SEL]キー

ディスプレイで操作するチャンネルを[SEL]キーで選択します。ステレオのチャンネルでは、[SEL]キーを押すたびにL/Rのチャンネルが交互に選ばれます。

③ [CUE]キー

各チャンネルからモニターするチャンネルを選択します。選択されたチャンネルはインジケータが点灯します。

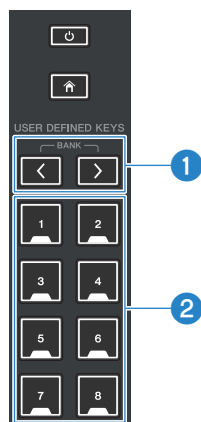
④ [ON]キー

チャンネルごとのオン/オフを切り替えます。オンに設定されたチャンネルはインジケータが点灯します。

⑤ チャンネルフェーダー

STEREOバスに送る各チャンネルの信号レベルを調節します。

[USER DEFINED KEYS BANK](ユーザー定義キーバンク)セクション



1 [BANK]選択キー

[USER DEFINED KEYS]のバンク(A～D)を選択します。BANK A～DはLEDの輝度によって表現されます。



BANK A



BANK B



BANK C



BANK D

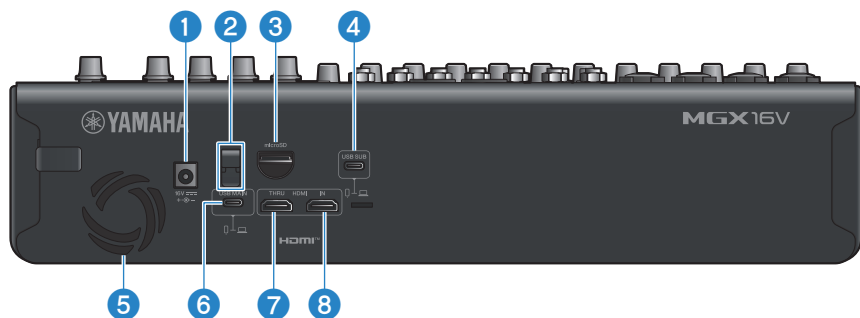
2 [USER DEFINED KEYS 1～8]

任意に割り当てた機能を実行する8つのスイッチです。

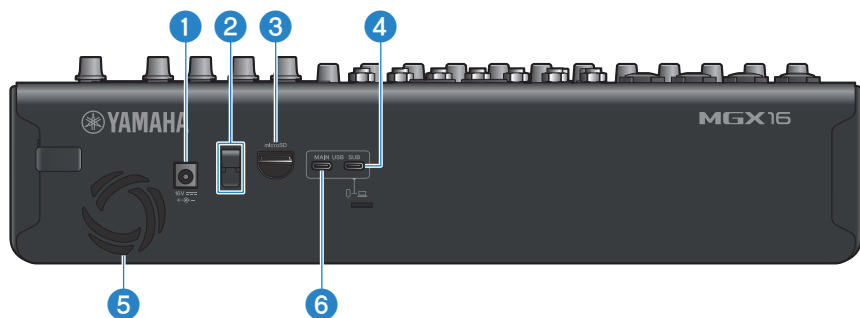
機能のアサイン方法や、動作については「その他の操作」→「User Definedキーに機能をアサインする」(177ページ)をご参照ください。

リアパネル

MGX16V、MGX12V



MGX16、MGX12



① [16V] DC IN 端子

付属の電源アダプターを接続します。

② コードフック

電源アダプターのコードを引っ掛けるフックです。引っ掛けるとプラグが抜けにくくなります。

③ [microSD]スロット

microSDカードを挿入するスロットです。

④ [USB SUB]端子 (USB-C™)

コンピューターのUSB端子(USB-C/USB-A)とUSB-C to USB-CケーブルまたはUSB-A to USB-Cケーブルで接続します。

コンピューターやモバイル端末を接続して2 in/2 out、48 kHz、16 bitのオーディオ信号を送受信します。

iPad、iPhone、Android端末などのモバイル端末の場合、端末のUSB-C端子と直接USB-C to USB-Cケーブルで接続します。端末にUSB-C端子がない場合は、適切なアダプターを使用して接続してください(34ページ)。

ご注意

- USBバスパワーには対応していません。
- コンピューター、iPad、iPhone、Android端末などのモバイル端末やコンソールゲーム機以外の機器は接続しないでください。
- コンピューターと接続するときは、コンピューターや本製品の停止(ハングアップ)によるデータの損失を防ぐため、以下のことを行ってください。
 - ・USBケーブルは、3 m未満のものをご使用ください。
 - ・USBケーブルの抜き差しをする前に、すべてのアプリケーションを終了させてください。
 - ・[USB SUB]端子にケーブルを接続する前に、[⏻] (電源) スイッチをオフにするか、音量を最小にしてください。
 - ・本製品の電源オン/オフやUSBケーブルの抜き差しは、6秒以上間隔を空けてください。
- コンピューターや本製品が停止したときは、アプリケーションやコンピューターを再起動するか、本製品の電源を入れ直してください。

⑤ 通風孔

本製品には冷却用ファンが装備されています。本体内部の温度が高くなると、ファンが自動で回転します。ここから排気が行われますので、障害物などで排気口をふさぐことのないようにご注意ください。



注意

- 本製品の通風孔(放熱用スリット)をふさがないようにください。内部の温度上昇を防ぐため本製品のリアパネルには通風孔があります。通風孔をふさぐと、製品内部に熱がこもり、故障や火災の原因になることがあります。

⑥ [USB MAIN]端子 (USB-C)

コンピューターのUSB端子(USB-C/USB-A)とUSB-C to USB-CケーブルまたはUSB-A to USB-Cケーブルで接続します。

コンピューターなどを接続して、最大22 in/22 out (MGX16V、MGX16)または18 in/18 out (MGX12V、MGX12)、44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、32 bitのオーディオ信号を送受信します。Videoモデルは、[HDMI IN]端子に入力された映像を送信します。

iPad、iPhoneなどのモバイル端末の場合、端末のUSB-C端子と直接USB-C to USB-Cケーブルで接続します。

ご注意

- USBバスパワーには対応していません。
- コンピューター、iPhone、iPad以外の機器を接続しないでください。
- コンピューターと接続するときは、コンピューターや本製品の停止(ハングアップ)によるデータの損失を防ぐため、以下のことを行ってください。
- USBケーブルは、3 m未満のものをご使用ください。
- USBケーブルの抜き差しをする前に、すべてのアプリケーションを終了させてください。
- [USB MAIN]端子にケーブルを接続する前に、[⏻](電源)スイッチをオフにするか、音量を最小にしてください。
- 本製品の電源オン/オフやUSBケーブルの抜き差しは、6秒以上間隔を空けてください。
- コンピューターや本製品が停止したときは、アプリケーションやコンピューターを再起動するか、本製品の電源を入れ直してください。

7 [HDMI THRU]端子(MGX16V、MGX12V)

モニターディスプレイなどのHDMI入力端子とHDMIケーブルで接続します。

8 [HDMI IN]端子(MGX16V、MGX12V)

カメラ/ブルーレイプレーヤー/コンソールゲーム機などのHDMI出力端子とHDMIケーブルで接続します。

準備する

TOOLS for MGX/URXをインストールする

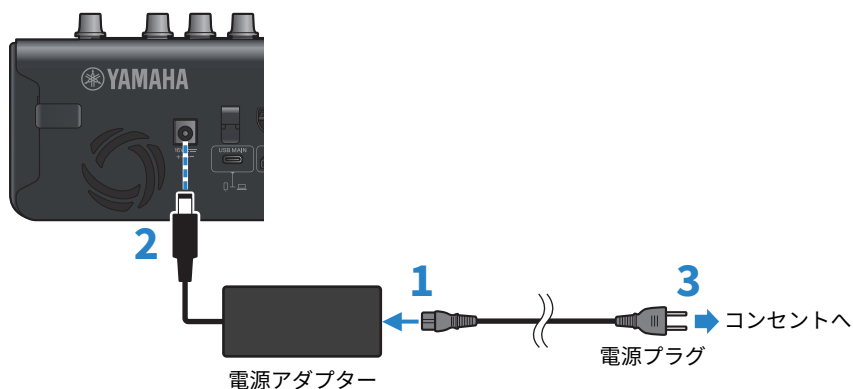
TOOLS for MGX/URXは、本製品をコンピューターに接続して使用するために必要なソフトウェア一式です。以下の手順に従って、TOOLS for MGX/URXをコンピューターにインストールしてください。

- 1** 次のURLにアクセスし、TOOLS for MGX/URXをダウンロードします。
<https://www.yamaha.com/2/mgx/>
- 2** ダウンロードしたファイルを解凍(展開)します。
- 3** TOOLS for MGX/URX Installerを起動します。
- 4** 画面の指示に従ってインストールします。

以上で、TOOLS for MGX/URXのインストールは完了です。

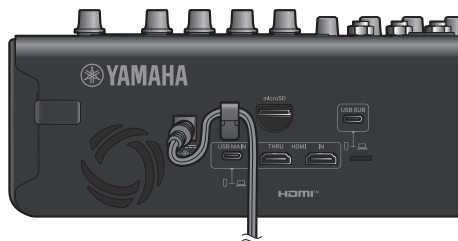
電源を接続する

リアパネルのDC IN端子に、図の順序で付属の電源アダプターを接続します。



お知らせ

- 電源アダプター/電源コードを外すときは、電源をオフにしてから、逆の手順で行ってください。
- 電源プラグの形状は国や地域によって異なる場合があります。
- 電源アダプターのコードをフックに引っ掛けると、電源プラグが抜けにくくなります。



警告

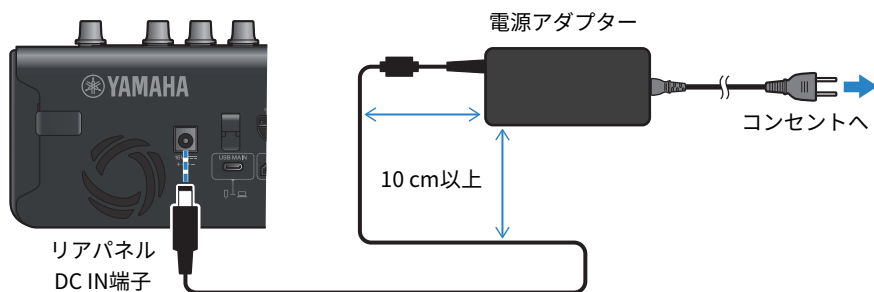
- 電源アダプターと電源コードは、必ず付属のものをお使いください。他の電源アダプターと電源コードを使用した場合、故障、発熱、火災などの原因になります。
- 本体はコンセントの近くに設置してください。異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチをオフにして、電源プラグをコンセントから抜いてください。

ご注意

- 本体が電源オフの状態でも微電流が流れています。長時間使用しないときは必ず電源アダプターを電源コンセントから抜いてください。
- 電源アダプターのコードをフックに引っ掛けた状態でコードを強く締めこんだり、コードを引っ張ったりしないでください。コード表面の磨耗やフックの破損につながります。

■ 電源アダプターの設置に関するご注意

下のイラストのように、電源アダプターのコードを電源アダプター本体から10 cm以上離して設置してください。10 cm以上離して設置しないと、電源アダプターが発する電波の影響で、周囲の機器が誤動作したり、一時的に性能が低下したりすることがあります。



電源をオン/オフする



警告

- 電源をオンにする前に、必ず機器音量(ボリューム)を最小にしてください。聴覚障害、感電または機器の損傷の原因になることがあります。

電源オン

トップパネルの[⏻](電源)スイッチを押します。[⏻](電源)スイッチが点灯します。

お知らせ

初めて本製品の電源をオンにしたときは、使用する言語、日時、操作モード(43ページ)を設定する画面が表示されますので、画面に従って操作をしてください。

電源オフ

トップパネルの[⏻](電源)スイッチを長押しします。ディスプレイの指示に従い、[OK]を選択すると、[⏻](電源)スイッチが消灯します。

ご注意

- [⏻](電源)スイッチのオン/オフを連続して素早く切り替えると、誤動作の原因になることがあります。
- [⏻](電源)スイッチをオフにしてから再度オンにする場合は、6秒以上の間隔を空けてください。
- 電源をオフにするときは、必ずトップパネルの[⏻](電源)スイッチを長押しし、ディスプレイの指示に従ってください。
- 電源アダプターのプラグを抜くなど直接電源を遮断した場合は、データのバックアップに失敗したり、microSDカードのファイルシステムが壊れたりする場合があります。

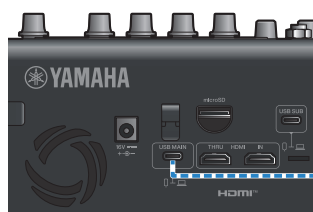
コンピューターと接続する

用意するもの

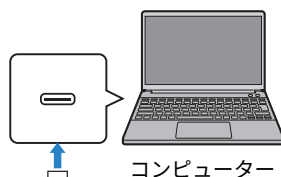
- WindowsまたはMacコンピューター(インターネット接続推奨)
- 下記規格の市販のUSBケーブル(USB-C to USB-C または USB-A to USB-C)
MGX16、MGX12 : USB 2.0 (High Speed) 以上
MGX16V、MGX12V : USB 3.0 (Super Speed) 対応

1 リアパネルのUSB MAIN端子とコンピューターのUSB端子を接続します。

MGX16V、MGX12V



MGX16、MGX12



2 トップパネルの[⏻](電源)スイッチを押して、電源をオンにします。



警告

- 電源をオンにする前に、必ず機器音量(ボリューム)を最小にしてください。聴覚障害、感電または機器の損傷の原因になることがあります。

3 USB Audioを使用する場合は、コンピューターの「サウンド」(Windows)または「オーディオ装置」(Mac)の設定をします(31ページ、32ページ)。

ファームウェアをアップデートする

本製品のすべての機能を最適な状態で使用するために、ファームウェアを最新のバージョンにアップデートしてください。

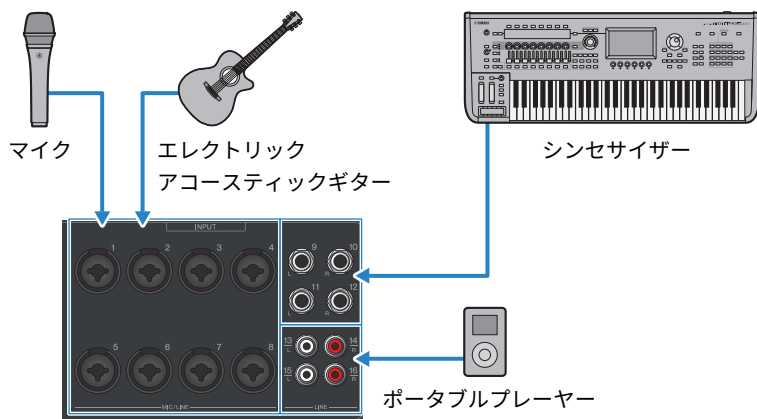
ファームウェアのアップデート方法は、「ファームウェアをアップデートする」(178ページ)をご参照ください。

接続する

アナログ入出力と接続する

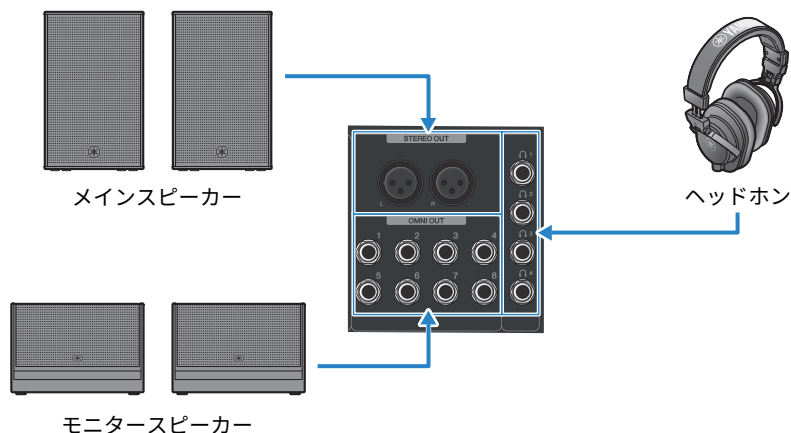
■ アナログ入力の接続例

INPUT端子には、マイクや電子楽器、オーディオ機器などのラインレベルの機器を接続します。



■ アナログ出力の接続例

OUT端子にはスピーカーやヘッドホンを接続します。



使用するUSBケーブルについて

- 本製品のUSB端子はUSB-Cタイプです。USBケーブルは同梱されていませんので、市販のUSB-C to USB-CケーブルまたはUSB-A to USB-Cケーブルをご用意ください。
- USBケーブルは、3 m未満のものをご使用ください。
- MGX16V、MGX12Vをご使用の場合は、USB MAIN端子はUSB 3.0以上、USB SUB端子はUSB 2.0以上に対応したUSBケーブルをご使用ください。
- MGX16、MGX12をご使用の場合は、USB MAIN端子、USB SUB端子ともにUSB 2.0以上に対応したUSBケーブルをご使用ください。

コンピューターと接続する(Windows)

はじめに、「TOOLS for MGX/URX」をインストールすると、本製品をコンピューターに認識させるドライバー「Yamaha Steinberg USB Driver」が自動的にインストールされます。「TOOLS for MGX/URX」は、次のウェブサイトからダウンロードしてインストールします。

<https://www.yamaha.com/2/mgx/>

コンピューターとの接続手順については、「準備する」→「コンピューターと接続する」(27ページ)をご参照ください。

お知らせ

- 手順はコンピューターのOSや設定によって異なる場合があります。
- 対応OSについては、上記のヤマハウェブサイトをご参照ください。

コンピューターの設定

コンピューターの出力/入力の設定をMGXへ変更します。

- 1 「スタート」メニューから「設定」を開きます。
- 2 「システム」→「サウンド」を選択します。
- 3 「サウンド」画面上で、出力/入力デバイスとしてA～C (Yamaha MGX**)を選択します。
**にはモデル名(16V、16、12V、12)が入ります。
- 4 「サウンド」設定を終了します。

コンピューターと本体ディスプレイの信号名について

コンピューターのサウンド/DAWアプリで見える信号名と、Input Source(入力ソース)として本体ディスプレイに表示する信号名については、「USB MAIN信号名対照表」(213ページ)をご参照ください。

各チャンネルの入力ソースはINPUT画面で選択してください(114ページ)。

コンピューターと接続する (Mac)

はじめに、「TOOLS for MGX/URX」をインストールすると、本製品をコンピューターに認識させるドライバー「Yamaha Steinberg USB Driver」が自動的にインストールされます。「TOOLS for MGX/URX」は、次のウェブサイトからダウンロードしてインストールします。

<https://www.yamaha.com/2/mgx/>

コンピューターとの接続手順については、「準備する」→「コンピューターと接続する」(27ページ)をご参照ください。

お知らせ

- 対応OSについては、上記のヤマハウェブサイトをご参照ください。
- USB-Cコネクタを装備していないMacの場合は、市販のUSB-A to USB-Cケーブルで接続します。

コンピューターの設定

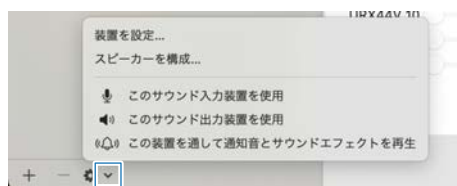
1 「Finder」→「移動」→「アプリケーション」→「ユーティリティ」→「Audio MIDI設定」を開きます。

2 オーディオ装置の画面左側のリストからYamaha MGX** DAWまたはYamaha MGX** A～Cを選択します。

**にはモデル名(16V、16、12V、12)が入ります。

オーディオ装置画面が表示されていない場合は、メニューの「ウィンドウ」→「オーディオ装置を表示」を選ぶと表示されます。

3 画面左下の[▼]をクリックして「このサウンド出力装置を使用」を選択します。



4 同様に「このサウンド入力装置を使用」を選択します。

手順3と手順4を完了すると、リストの[Yamaha MGX**]の右下にマイクとスピーカーのアイコンが表示されます。

5 Audio MIDI設定を終了します。

接続する > コンピューターと接続する (Mac)

コンピューターと本体ディスプレイの信号名について

コンピューターのサウンド/DAWアプリで見える信号名と、Input Source(入力ソース)として本体ディスプレイに表示する信号名については、「USB MAIN信号名対照表」(213ページ)をご参照ください。各チャンネルの入力ソースはINPUT画面で選択してください(114ページ)。

モバイル端末と接続する

お知らせ

対応OSについては、次のヤマハウェブサイトをご参照ください。

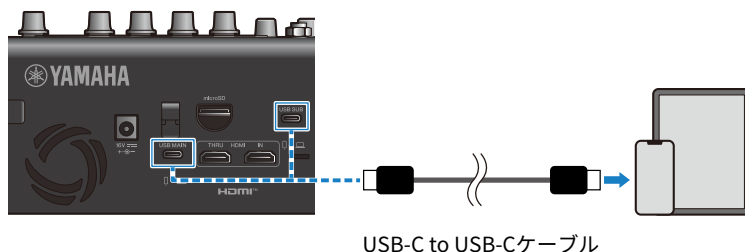
- <https://www.yamaha.com/2/mgx/>

■ USB-C端子搭載のiPad、iPhone、Android端末の場合

用意するもの

- USB-C to USB-Cケーブル(市販品)
 - ・ MGX16、MGX12 : USB 2.0 (High Speed) 以上
 - ・ MGX16V、MGX12V : USB 3.0 (Super Speed) 対応

- 1 市販のUSB-C to USB-Cケーブルを使って、本製品の[USB MAIN]端子または[USB SUB]端子とiPad/iPhoneを接続します。Android端末は本製品の[USB SUB]端子と接続します。



接続が完了すると、本製品が自動的にiPad、iPhone、Android端末で認識されます。
iPad、iPhone、Android端末の設定は必要ありません。

お知らせ

配信/長時間使用時は、iPad/iPhoneの場合はApple社製USB-C Digital AV Multiportアダプタ(市販品)、Android端末の場合は市販のUSB Power Delivery (USB PD)対応オーディオ変換アダプターなどで給電しながらお使いいただくことをおすすめします。

■ Lightning端子搭載のiPad/iPhoneの場合

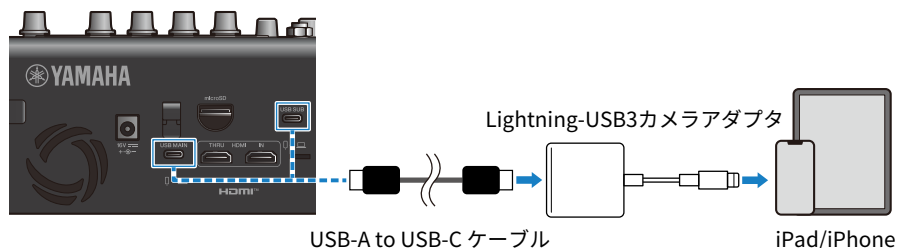
用意するもの

- Apple 社製Lightning-USB3カメラアダプタ(市販品)

接続する > モバイル端末と接続する

- USB-A to USB-C ケーブル(市販品)
 - ・ MGX16、MGX12 : USB 2.0 (High Speed) 以上
 - ・ MGX16V、MGX12V : USB 3.0 (Super Speed) 対応

- 1** 市販のUSB-A to USB-C ケーブルを使って、本製品の[USB MAIN]端子または[USB SUB]端子とApple社製Lightning-USB3カメラアダプタを接続します。
- 2** Apple社製Lightning-USB3カメラアダプタとiPad/iPhoneを接続します。



接続が完了すると、本製品が自動的にiPad/iPhoneで認識されます。

iPad/iPhoneの設定は必要ありません。

iPad/iPhoneと本体ディスプレイの信号名について

iPad/iPhoneのDAWアプリで見える信号名と、Input Source(入力ソース)として本体ディスプレイに表示する信号名については、「USB MAIN信号名対照表」(213ページ)をご参照ください。

各チャンネルの入力ソースはINPUT画面で選択してください(114ページ)。

コンピューターへの映像の入力設定(Videoモデル)

コンピューターのアプリケーション(アプリ)の映像入力として[Yamaha MGX/URX Video]を選択してください。本製品の設定は必要ありません。

お知らせ

- HDMI入力がHDCPで保護されている場合、音声および映像はキャプチャできません。
- HDMIソース機器側でHDCPを無効にできる場合は、無効に設定してください。また、本製品側のHDCPを無効にする(66ページ)ことで問題が解決する場合もあります。

■ HDMIについて

MGX16V、MGX12Vは4K/60 Hz(音声はPCM 8ch、192 kHz/24 bit)までのHDMI信号入力に対応しています。

- HDMI IN: 映像～4K60 Hz、音声～8ch/192 kHz/24 bitです。ただし本製品内部で2chにダウンミックスされ、本体サンプリング周波数に合わせてリサンプリングされます。
- HDMI THRU: 映像音声ともにパススルーします。ただし本体設定でHDMI入力のマルチチャンネル音声をオンにした場合は、HDMI THRU端子には音声は出力されません。

お知らせ

- 本製品がスタンバイ中は、HDMI信号のパススルーはできません。
- 本製品はARC/eARCには対応していません。
- 機器の接続には、HDMIロゴ入りのHDMIケーブル(19ピン)をご使用ください。また、信号の品質劣化を防ぐため、短いケーブルのご使用をおすすめします。

画面概要と基本操作

画面の概要

トップパネルのディスプレイ画面は、大きく4つのエリアに分かれています。タッチによる選択やノブを使用して、対応する詳細設定や機能画面に移動できます。



1 ツールバー

頻繁に使用する機能やシステム設定画面へのアイコンが用意されています。メインエリアの表示を切り替えても、ツールバーは常に表示されます。表示する画面によって、アイコン数などが異なります。

2 メインエリア

画面やチャンネルの選択に合わせた内容を表示します。

3 サイドメニュー

メインエリアに表示するメニューを切り替えます。

4 マルチファンクションノブ切り替えボタン

USER DEFINED KNOBSモードをオン/オフします(39ページ)。

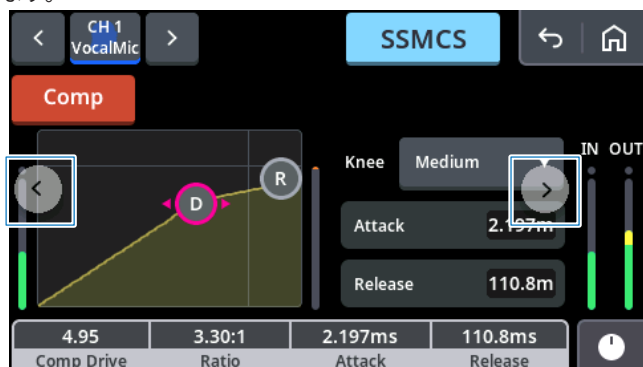
画面の基本操作

■ タッチによる直接操作

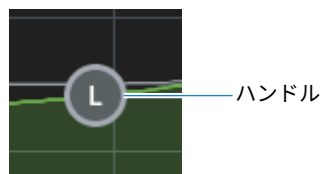
ツールバーの各アイコンボタンやメニューをタッチすると、画面が直接切り替わります。

お知らせ

- 複数ページに分割された画面では、左右端にある矢印ボタンをタッチすると、ページ間を移動できます。



- グラフ上のハンドルは、タッチして直接操作できます。

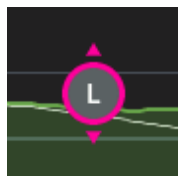


■ [TOUCH AND TURN](タッチアンドターン)ノブ

画面内の操作したいパラメーターをタッチすると、[TOUCH AND TURN]ノブですぐに操作できます。このとき、タッチしたパラメーターにピンク色の枠が表示されます。



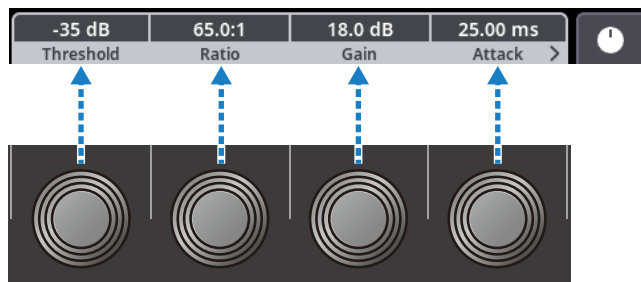
EQの操作中にノブを押し込むと、Gain(ゲイン)またはFreq.(周波数)に切り替えられます。



直接操作が可能な状態

■ マルチファンクションノブを利用した操作

マルチファンクションノブは画面上の主要パラメーター4つを直接操作できます。



パラメーター数が多い場合は、[<]または[>]をタッチして対象パラメーターを切り替えます。



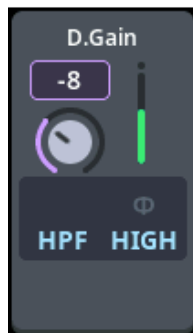
USER DEFINED KNOBSモードがオンのときは、設定したパラメーターの値を操作できます。USER DEFINED KNOBSの4バンク(1~4)は[<]または[>]をタッチしてバンクを切り替えます。選択しているバンク番号は、下図枠内に表示されます。



USER DEFINED KNOBSモードのパラメーター設定については、[SETUP]画面→[トップメニュー]→[User Defined Knobs]メニュー(60ページ)をご参照ください。

お知らせ

マルチファンクションノブで操作中のパラメーターは、薄紫色でフォーカスされます。



■ 画面内のユーザーインターフェース

ボタン

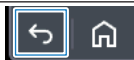
特定の機能を実行したり、パラメーターのオン/オフを切り替えたり、複数の選択肢から1つを選択したりするときに使用します。オン/オフを切り替えるボタンは、オンのときは色がはっきりと表示されます。オフに設定されているときは薄暗く表示されます。



詳細設定用の別画面がポップアップ表示されます。



プルダウンメニューを表示します。



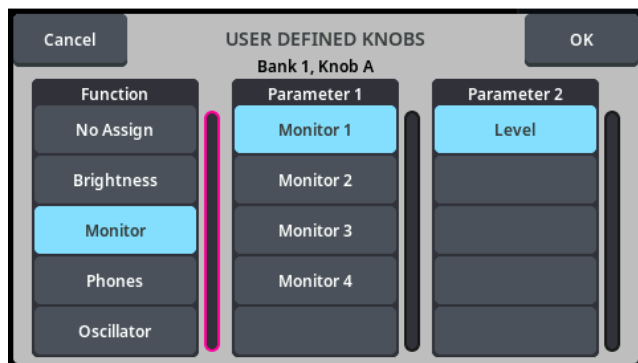
1つ前の画面に戻ります。



HOME画面に戻ります。HOME画面でタッチした場合は、選択しているチャンネルのチャンネルビュー画面を表示します。

リスト画面

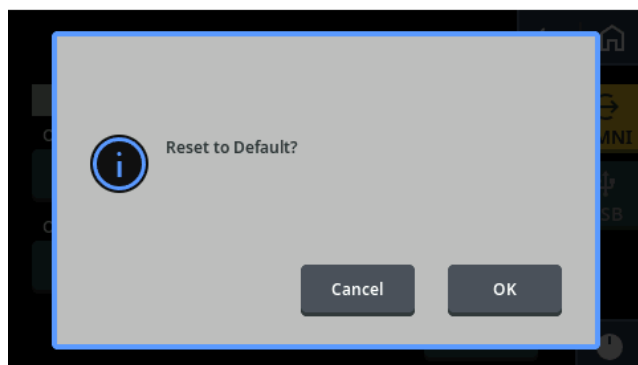
USER DEFINED KNOBSの設定画面など、リストから項目を選ぶ場合は、次のような画面が表示されます。



リスト内では、ピンク色の項目が操作対象として選択されます。[TOUCH AND TURN]ノブを使用してリストを上下にスクロールします。

ダイアログ

直前に行った操作に対して、確認が必要なときは次のようなダイアログが表示されます。[OK]をタッチすると操作が実行されます。[Cancel]をタッチすると操作が取り消されます。



スクロールする

スクロールバーが表示されている画面では、画面を上下または左右にスクロールすると、続きの画面が表示されます。

Operation Mode(操作モード)について

操作モードの設定

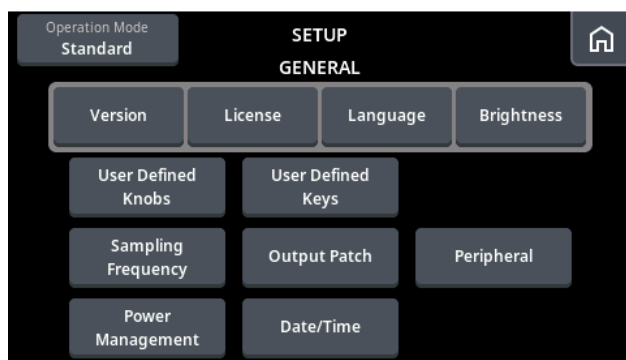
本製品の操作モードは2種類あります。Simpleモードは、あらかじめ用意されたユースケースに合わせて、使用できる機能が設計されています。チュートリアルに従って設定でき、シンプルなUI操作で運用できます。Standardモードはすべての機能を使用できます。

お知らせ

- 初めて電源を入れたときは、言語選択と日時設定画面に続いて操作モードの選択画面が表示されます。表示された画面で、SimpleモードかStandardモードを選択します。
- モード選択を行わずに電源をオフにした場合、次回起動時はStandardモードのOverview画面が自動で表示されます。

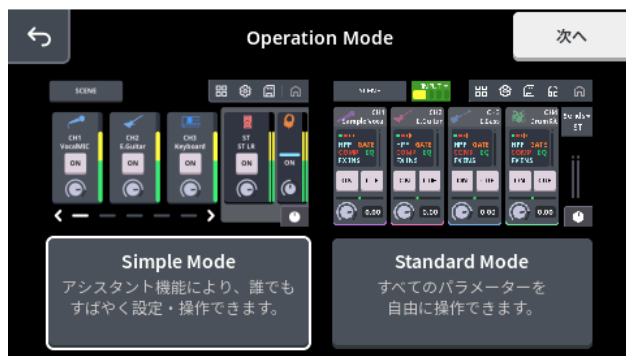
■ 操作モードの設定手順

- 1 ツールバーの[] をタッチして、SETUP画面を表示します。



- 2 画面左上の[Operation Mode (Simple/Standard)]をタッチします。

3 SimpleモードまたはStandardモードを選択します。



■ 操作モード切り替え時の設定値

- Simpleモード→Standardモード

Simpleモードで操作していた設定値はそのままStandardモードに引き継がれます。

- Standardモード→Simpleモード

Standardモードの設定値は破棄され、Simpleモード用に初期化されます。

Simpleモード

Simpleモードには、さまざまなユースケースに対応した設定が簡単に行える機能が搭載されています。

設定アシスタントの画面指示に従って、使用モードの選択や必要な設定を行うだけで、MGXシリーズを簡単に活用できます。



自動レベル調節機能

[Auto]ボタンをタッチして、入力レベルを自動で調節できます。調節中は、実際に使用する音量で話したり、歌ったり、演奏したりしてください。

自動調節が完了すると、最適な入力レベルに設定されます。



Simpleモードの詳細については、「Simpleモード操作ガイド」(132ページ)をご参照ください。

Standardモード

Standardモードは、すべての機能を使用できます。

本ガイド内の画面構成などは、Standardモードで説明しています(47ページ)。

必要な操作の詳細は、各項をご参照ください。

HOME画面(Overview)

画面構成

本製品のStandardモードのメイン画面です。起動時はこの画面が表示されます。

他の画面を表示中にツールバーにある  をタッチすると、この画面に戻ります。この画面を表示中に  ボタンをタッチすると、選択中のチャンネルのチャンネルビュー画面が表示されます。



ツールバー



- ① [SCENE]画面を表示します。(78ページ)
- ② メインエリアに表示するチャンネルバンクを選択します。(49ページ)
- ③ [SOUND PAD]画面を表示します。(82ページ)
- ④ [SETUP](設定)画面を表示します。(55ページ)
- ⑤ [microSD]画面を表示します。microSDの再生中/録音中は  /  が表示されます。(88ページ)
- ⑥ [MONITOR](モニター)画面を表示します。(72ページ)
- ⑦ [HOME]画面を表示します。(47ページ)

メインエリア

チャンネル表示

メインエリアの各チャンネル部分をタッチしてSEL(選択)します。選択したチャンネルは白色枠でフォーカスされます。黄色枠部分をタッチすると、チャンネルビューが表示されます(103ページ)。



チャンネルバンク

メインエリアには一度に4チャンネル表示されます。一度に表示されるチャンネルの塊をチャンネルバンクといいます。

チャンネルバンクの切り替え

チャンネルバンクは次の方法で切り替えることができます。

- ツールバーのチャンネルバンク選択ボタンをタッチ
- メインエリアの左右スワイプ

お知らせ

左右スワイプでは、インプットチャンネルバンクとアウトプットチャンネルバンクの切り替えはできません。

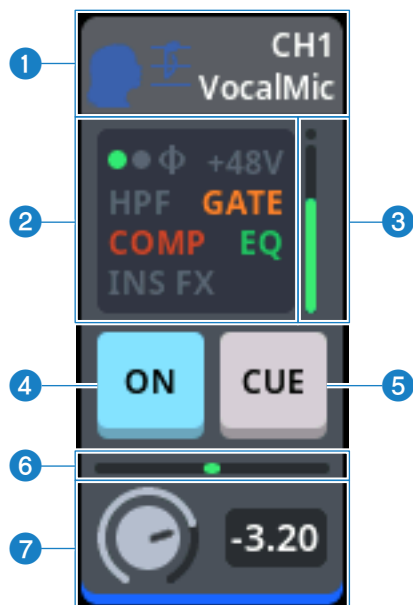
チャンネル表示バリエーション

 MONO INチャンネル	 ST INチャンネル	 PADチャンネル	 FXチャンネル
 STEREOチャンネル	 MIXチャンネル	 STREAMINGチャンネル	

お知らせ

- 画面操作によるチャンネル選択は、トップパネルの[SEL]キーと連動しています。連動した際の[SEL]キーの動作は以下のとおりです。
 - 画面操作で選択されたチャンネルに対応するトップパネル[SEL]キーのインジケーターが点灯します。
 - トップパネルの[SEL]キーを押した場合、メインエリアに表示されるチャンネルバンクは、該当するチャンネルを含んだチャンネルバンクに移動します。
 - MIX1～MIX8、STREAMINGチャンネルを選択した場合、対応するチャンネルがトップパネルになるため、トップパネルの[SEL]キーのインジケーターはすべて消灯します。
- 「チャンネル設定画面」(105ページ)のSignal TypeでSTEREOを選択すると、奇数/偶数チャンネルのPANスライダーの間にハートマーク(♡)が表示されます。該当チャンネルはMONO INチャンネル、MIXチャンネルです。

チャンネルエリア



① チャンネルネームエリア

チャンネルアイコン、チャンネルID、チャンネルネームを表示します。

お知らせ

ST INチャンネルでは、チャンネルネームエリアをタッチすると、②のインジケーターエリアに情報を表示するチャンネル(L/R)を切り替えられます。選択していないチャンネルは黒文字になります。



② チャンネルインジケーターエリア

チャンネルへの入力信号レベルや各種設定を表示します。詳細は「チャンネル専用画面」(113ページ)の項をご参照ください。チャンネルを選択した状態でタップすると、チャンネルビューが表示されます。

③ チャンネルメーター

-60 dB~0 dBまでのレベルインジケーターです。

ステレオのチャンネルは、ステレオメーターで表示されます。

4 [ON]ボタン

チャンネルのオン/オフを切り替えます。オンのときに点灯します。

5 [CUE]ボタン

チャンネルのCUEのオン/オフを切り替えます。CUEがオンのときに点灯します。

6 PAN/BALANCEスライダー

チャンネルのPANまたはBALANCEを表示します。

7 センドレベルノブ

ディスプレイ下のマルチファンクションノブで操作します。ノブを回すとセンドレベルを調節できます。サイドメニューの[Sends]ボタンの設定がST(STEREO)のときは、トップパネルのフェーダーでのみ操作ができます。

お知らせ

マルチファンクションノブをUSER DEFINED KNOBSモードオンにしている場合、センドレベルノブの操作はできません。

サイドメニュー



① [Sends]ボタン

メインエリアに表示されているチャンネルのSEND先を選択します。タッチすると、SEND先選択メニューが表示されます。ここで選択したSEND先のレベルを、トップパネルの[SEND]ノブで調節します。

② STEREO/CUEメーター

STEREOアウトチャンネルのポストフェーダーレベルを表示します。CUEがオンの場合は、CUEバスのレベルを表示します。メーターエリアにタッチすると全CUEがオフ(CLEAR CUE機能)となり、STEREOアウトチャンネルの表示に戻ります。



STEREOメーター



CUEメーター

③ マルチファンクションノブ切り替えボタン

USER DEFINED KNOBSモードをオン/オフします。



USER DEFINED KNOBSモードオフ時



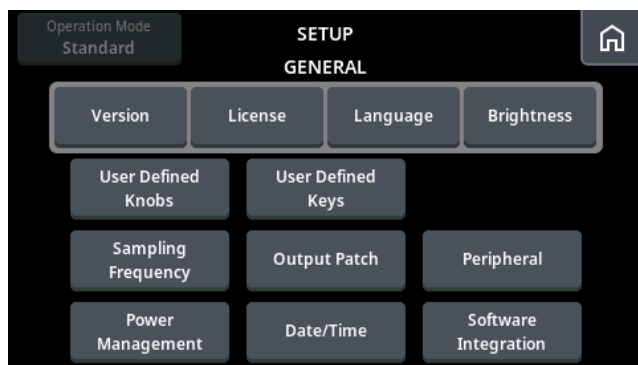
USER DEFINED KNOBSモードオン時

SETUP画面

トップメニュー

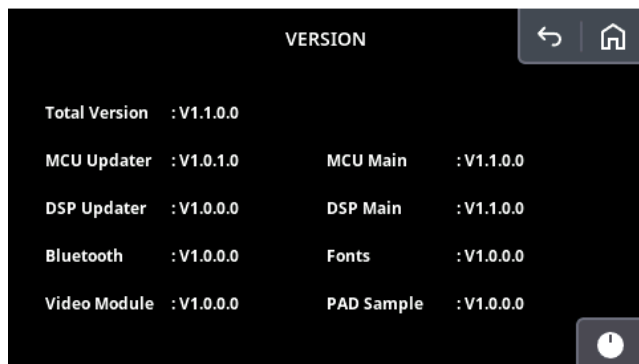
GENERALメニュー

ツールバーの  をタッチすると表示されるトップメニューです。各ボタンをタッチしてバージョン画面やライセンス画面の表示、各設定画面の呼び出しができます。



Versionメニュー

システムソフトウェアのバージョン情報が表示されます。



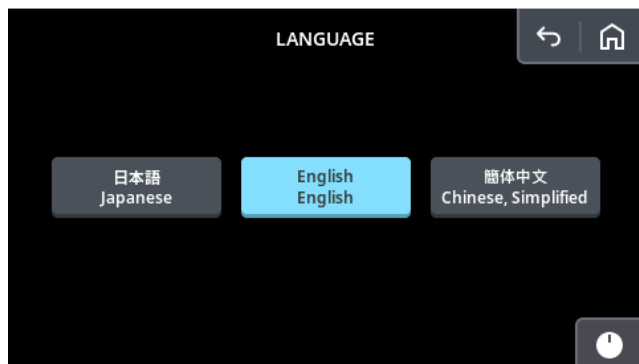
Licenseメニュー

システムソフトウェアのライセンス情報を表示するLICENSE画面が表示されます。



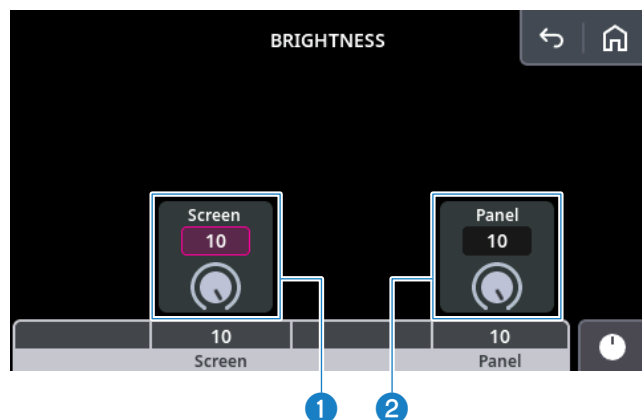
Languageメニュー

表示言語の選択ができます。



Brightnessメニュー

ディスプレイとパネルの明るさを設定します。



① Screen

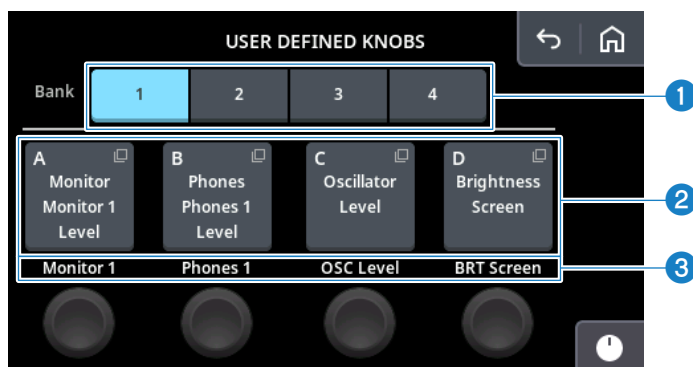
ディスプレイ(LCD画面)の明るさを設定します。

② Panel

トップパネルのLEDインジケーターの明るさを設定します。

User Defined Knobsメニュー

USER DEFINEDノブの設定をします。BANKは1〜4まで用意されており、A〜Dのノブに選択した機能を割り当てできます。



① [Bank] 1〜4

設定対象のバンクを選択します。

② [USER DEFINED KNOBS] A〜D

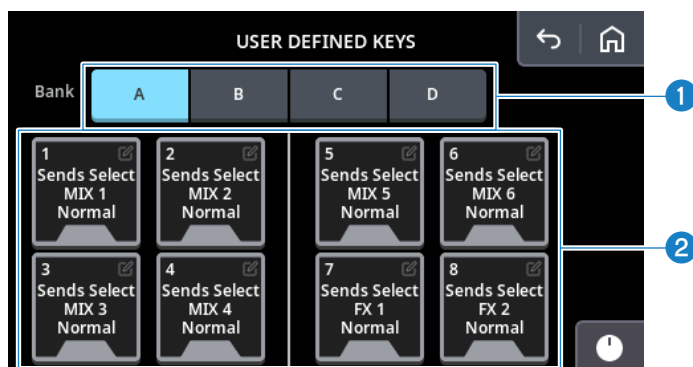
設定しているパラメーターを表示します。タッチすると、設定メニュー画面が表示されます。

③ [USER DEFINED KNOBS]表示文字列

USER DEFINED KNOBSの機能をオンにしたときに、画面下部の欄に略記で表示される文字列を表示しています。

User Defined Keys メニュー

トップパネルのUSER DEFINED KEYSを設定します。BANKはA～Dまで用意されており、1～8のボタンに選択した機能を割り当てできます。



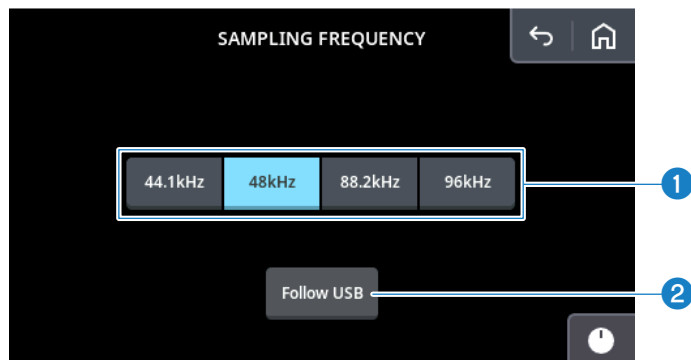
① [Bank] A～D

設定対象のバンクを選択します。

② [USER DEFINED KEYS] 1～8

設定しているパラメーターを表示します。タッチすると、設定メニュー画面が表示されます。

Sampling Frequencyメニュー



① [44.1kHz, 48kHz, 88.2kHz, 96kHz] ボタン

ミキサーおよび信号処理のサンプリング周波数を選択します。

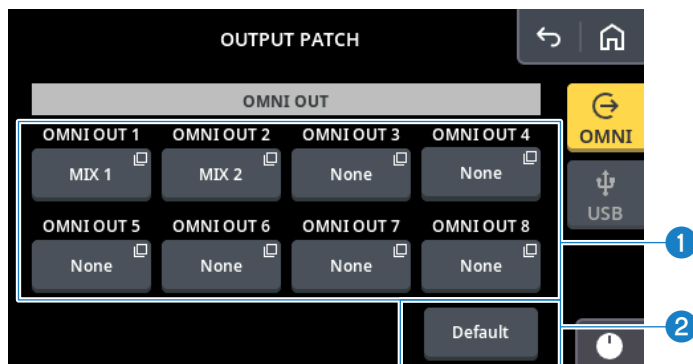
② [Follow USB]ボタン

オンにすると、USB MAIN端子に接続されたコンピューターのサンプリング周波数の設定と同じになります。

Output Patchメニュー

■ OMNI OUTメニュー

OMNI OUTの出力端子/出力ポートに出力する信号を設定します。



① 出力ソース選択ボタン

タッチすると出力ソースの選択メニューがポップアップします。表示された画面でソースを選択します。

選択ソース一覧

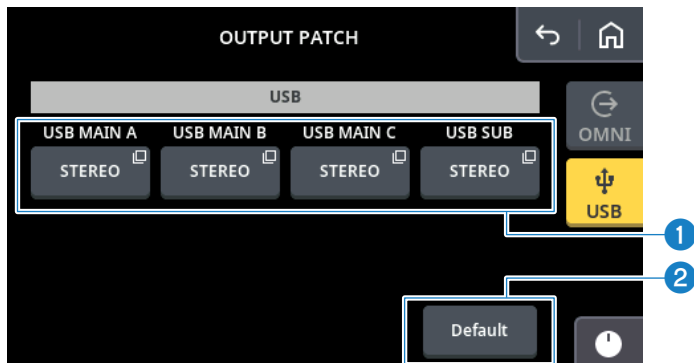


② [Default]ボタン

パッチ設定をリセットします。タッチして、表示されたダイアログで[OK]を押すとリセットされます。

■ USBメニュー

USBの出力端子/出力ポートに出力する信号を設定します。



① 出力ソース選択ボタン

タッチすると出力ソースの選択メニューがポップアップします。表示された画面でソースを選択します。

選択ソース一覧



MGX12V、MGX12にはCH 13/14、CH15/16はありません。

② [Default]ボタン

パッチ設定をリセットします。タッチして、表示されたダイアログで[OK]を押すとリセットされます。

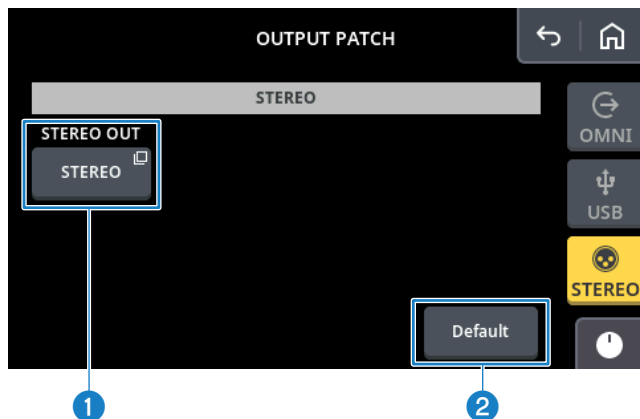
お知らせ

(MGX16V、MGX12V)

著作権保護のため、HDCP保護された音声はUSBに出力できません。いずれかのインプットチャンネルの入力ソースにHDMIを選択すると、すべてのアウトプットチャンネルにHDMIの音声を送られます。HDMI入力信号がHDCP保護されている場合、これらのチャンネルからUSBに送られる音声は自動的にミュートされます。

■ STEREOメニュー

STEREO OUT端子に出力する信号を設定します。



① 出力ソース選択ボタン

タッチすると出力ソースの選択メニューがポップアップします。表示された画面でソースを選択します。

選択ソース一覧



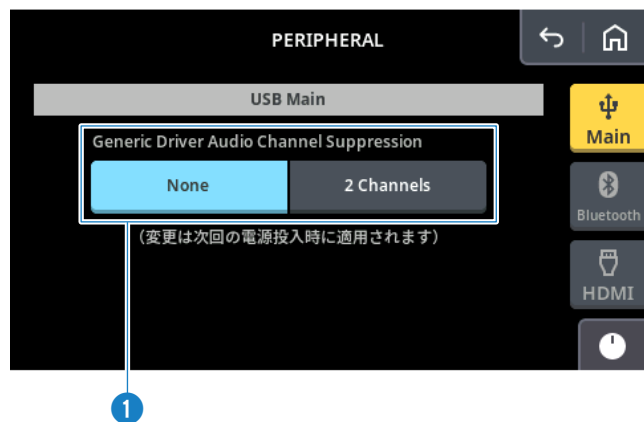
② [Default]ボタン

パッチ設定をリセットします。タッチして、表示されたダイアログで[OK]を押すとリセットされます。

Peripheralメニュー

■ USB Mainメニュー

USB端子の設定をします。



① [Generic Driver Audio Channel Suppression]

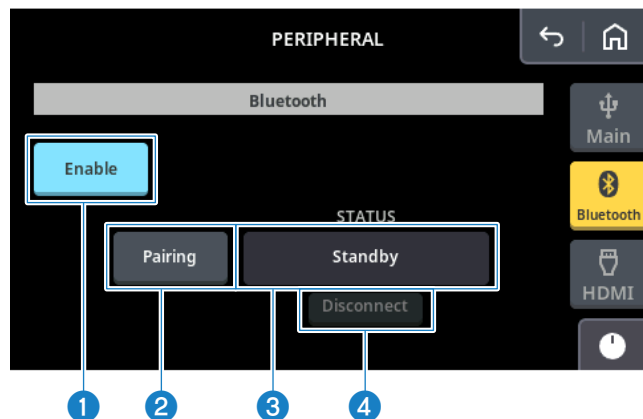
iPad/iPhoneなどの標準ドライバーで接続した際の入出力チャンネル制限を設定します。

- [None] : 制限なし
- [2 Channels] : 2 IN/2 OUTに制限されます。

2 IN/2 OUTのオーディオストリームにのみ対応しているアプリと使用する場合は[2 Channels]を選択してください。

■ Bluetoothメニュー

Bluetoothの設定をします。



① [Enable]ボタン

Bluetooth機能を有効にするボタンです。オフの場合、以下の項目は設定できません。

② [Pairing]ボタン

Bluetoothオーディオ信号を送信する機器とのペアリングを設定します。

ボタンをタッチするとペアリングが開始され、完了すると自動的にオフになります。

③ [Status]表示テキストボックス

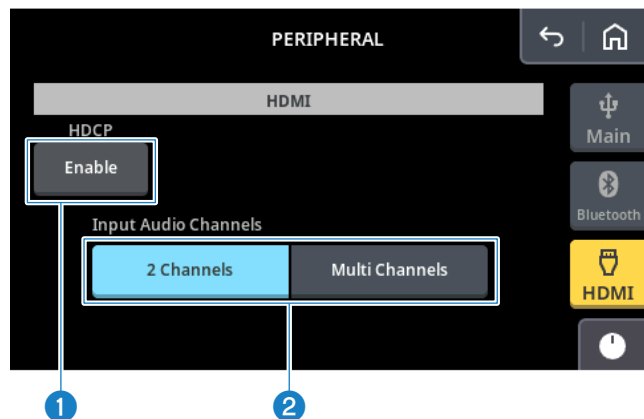
Bluetooth接続が確立すると、相手機器名がテキストボックスに表示されます。

④ [Disconnect]ボタン

機器の接続を解除します。

■ HDMIメニュー(Videoモデルのみ)

HDMIの設定をします。



① HDCP[Enable]ボタン

本製品のHDCP(高帯域デジタルコンテンツ保護)の有効/無効を設定します。ボタンがオンでHDCP有効、オフでHDCP無効になります。

② [Input Audio Channels]

HDMIオーディオ入力のチャンネル数と対応サンプリング周波数を設定します。

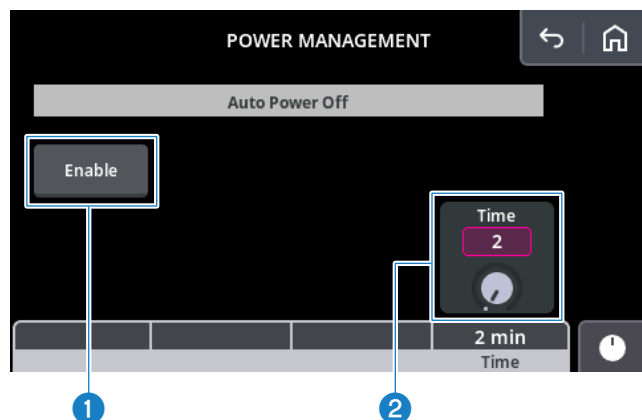
- [2 Channels] : 常に2チャンネル (最大48 kHz)
- [Multi Channels] : 最大192 kHz/8チャンネルまで対応

マルチチャンネル入力の場合でも、ミキサー内部でステレオ(2チャンネル)にダウンミックスされます。

Power Managementメニュー

■ Auto Power Offメニュー

指定した時間、操作がなかったときに自動で電源をオフにできます。



① [Enable]ボタン

オートパワーオフ(自動電源オフ)機能をオンにします。

② [Time]ノブ

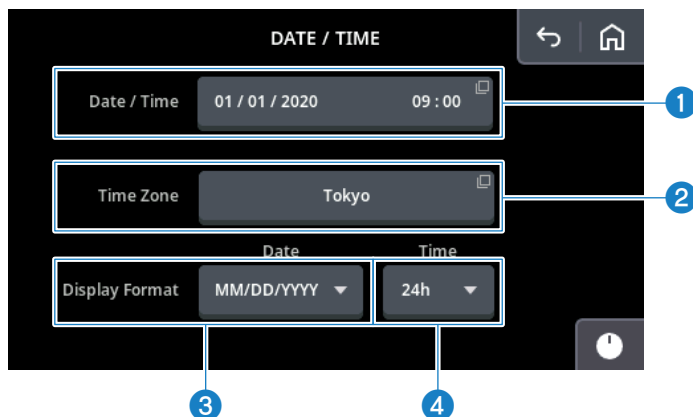
ノブ/テキスト付近をタッチし、フォーカスします。[TOUCH AND TURN]ノブを操作して、最後の操作からオートパワーオフまでの時間(無操作時間)を設定します。2～20分の間を1分単位で設定できます(初期設定は20分)。

お知らせ

オートパワーオフ機能をオフ(Disable)にすると、自動で電源が切れなくなるため、機器は常に動作状態となり、消費電力が増加します。

Date/Time メニュー

本体の日付と時刻を設定します。



① [Date/Time]ポップアップボタン

表示された画面で、日付と時刻を設定します。変更したい項目をタッチして[TOUCH AND TURN]ノブで操作します。設定が完了したら[OK]ボタンをタッチすると、設定が適用されポップアップ画面が閉じます。[Cancel]ボタンをタッチすると、設定が適用されずにポップアップ画面が閉じます。

② [Time Zone]ポップアップボタン

表示された画面で、タイムゾーンの都市名を選択します。

③ [Display Format] Dateボタン

日付表示のフォーマットを選択します。

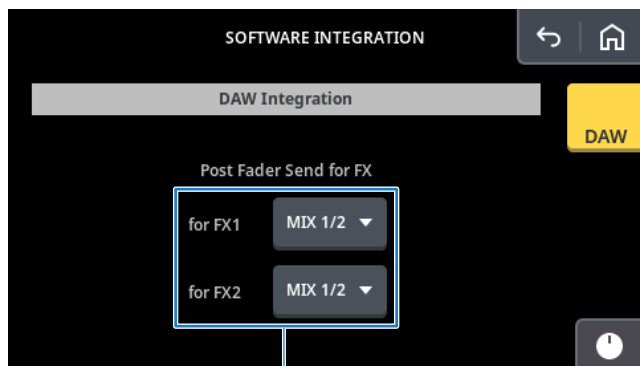
④ [Display Format] Timeボタン

時刻表示のフォーマットを選択します。

Software Integrationメニュー

コンピューターと接続し、対応ソフトウェア(Steinberg Cubase、Nuendo、MixKey)を起動すると表示されます。Software Integrationについての詳細は「Software Integration機能を使用する」(180ページ)をご参照ください。

■ DAW Integrationメニュー



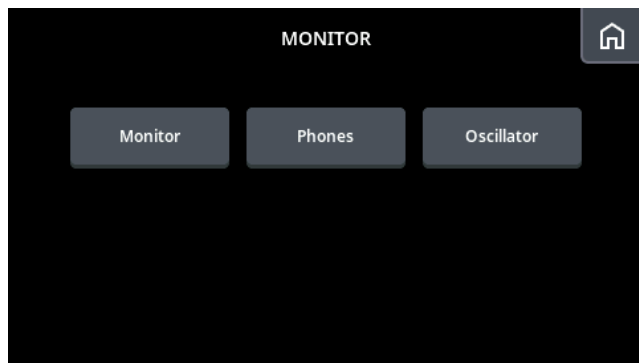
① [Post Fader Send for FX]選択ボタン

FX1とFX2に送るMIXバスを選択します。センドポイントはポストフェーダーです。

MONITOR画面

トップメニュー

ヘッドホンやニアフィールドモニターで確認する信号の操作をします。常時モニターするソースの選択、モニター音のモノラル化、CUE機能などを操作します。

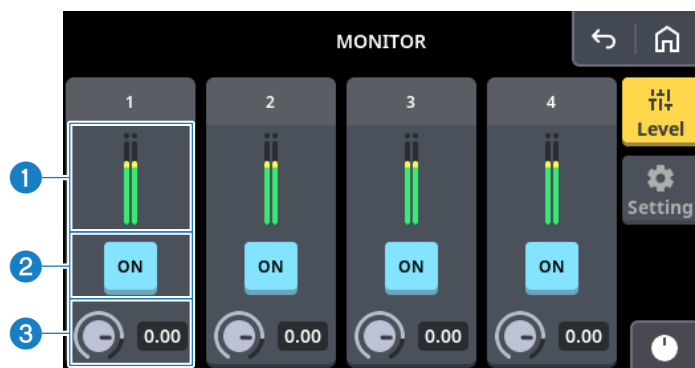


Monitorメニュー

[MONITOR]1～4のソース選択、ボリュームその他の設定をします。

■ Level

MONITORの音量操作パラメーターを表示します。



① レベルメーター

モニターの出力レベルを表示します。

② [ON]ボタン

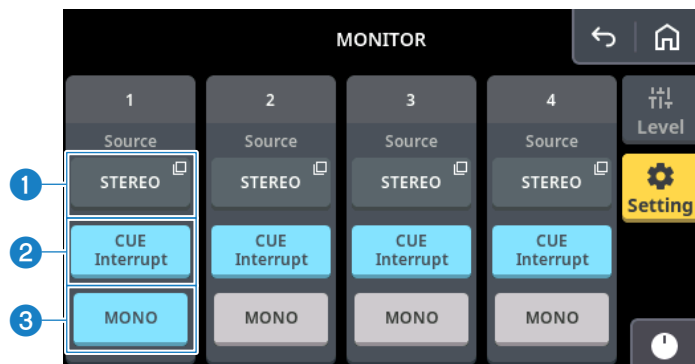
各モニター出力のオン/オフを切り替えます。

③ [レベル調節ノブ/テキストボックス]

[TOUCH AND TURN]ノブまたはマルチファンクションノブで操作します。

■ Setting

モニターのソース選択や、CUE信号の設定をします。



① モニターソース選択ボタン

画面をタッチすると、設定画面が表示されます。表示された画面でモニターソースを選択できます。選択後、画面は自動的に閉じます。

② [CUE Interrupt]ボタン

モニターにCUE信号を割り込ませる機能のオン/オフを切り替えます。オンの状態では、CUEがオンになるとモニターの出力信号がCUE信号に置き換わります。オフの状態では、①モニターソース選択ボタンで選択した信号が常に出力されます。

③ [MONO]ボタン

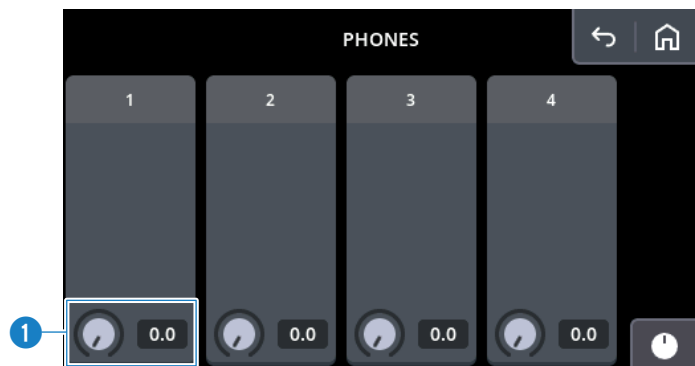
モニターに出力する信号をモノラルに変換する機能のオン/オフを切り替えます。

お知らせ

MONITOR1～4の信号はPHONES1～4から出力されます。OUTPUT端子から出力する場合は「Output Patchメニュー」(63ページ)で設定してください。

Phonesメニュー

[PHONES]1～4のボリュームを設定します。



① レベル調節ノブ/テキストボックス

マルチファンクションノブで、[PHONES]端子から出力される信号のレベルを調節します。

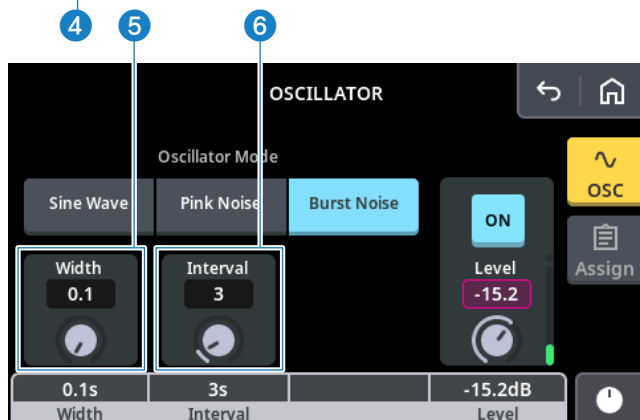
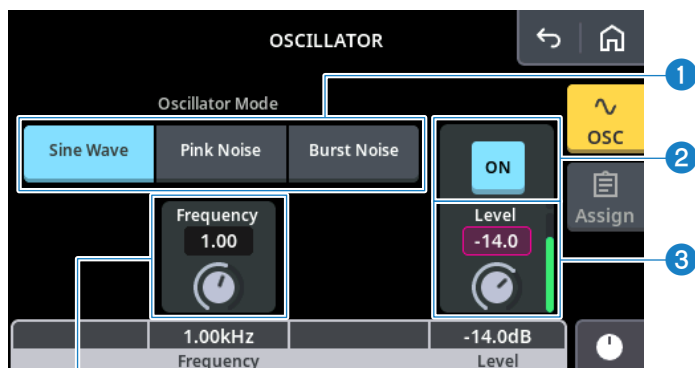
お知らせ

[PHONES] 1～4に出力される信号は、[MONITOR] 1～4で設定された信号と同じになります。信号のレベルのみ独立して操作できます(73ページ)。

Oscillatorメニュー

■ OSC

オシレーターを設定します。



① [Oscillator Mode]

出力するオシレーターの種類を選択します。

- Sine Wave：正弦波を出力します。
- Pink Noise：ピンクノイズを出力します。
- Burst Noise：短い時間のピンクノイズを周期的に出力します。

② [ON]ボタン

オシレーターのオン/オフを切り替えます。

③ [Level]

オシレーター出力レベルを設定します。[TOUCH AND TURN]ノブまたはマルチファンクションノブで操作します。

④ [Frequency]

オシレーターモードが[Sine Wave]の際に表示されます。正弦波の周波数を設定します。[TOUCH AND TURN]ノブまたはマルチファンクションノブで操作します。

⑤ [Width]

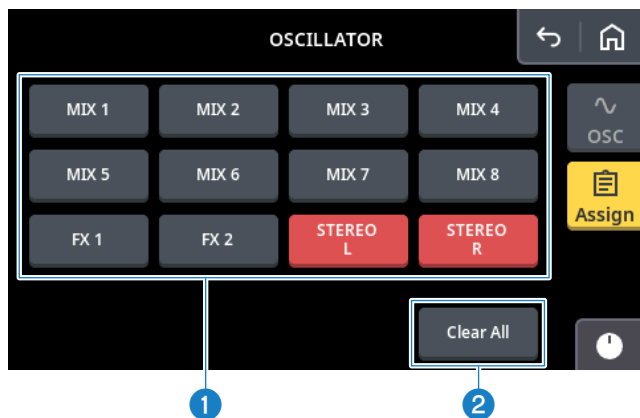
オシレーターモードが[Burst Noise]の際に表示されます。ノイズの長さを設定します。[TOUCH AND TURN]ノブまたはマルチファンクションノブで操作します。

⑥ [Interval]

オシレーターモードが[Burst Noise]の際に表示されます。ノイズの周期を設定します。[TOUCH AND TURN]ノブまたはマルチファンクションノブで操作します。

■ Assign

各バスへのオシレーター出力を設定します。



① 出力バスアサイン ボタン

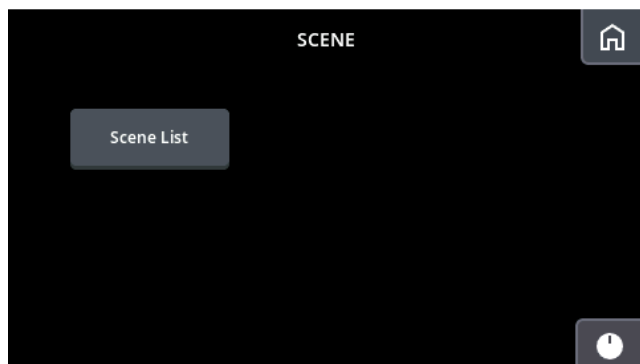
各バスへのオシレーター出力のオン/オフを切り替えます。

② [Clear All]ボタン

すべてのバスアサインをオフにします。

SCENE画面

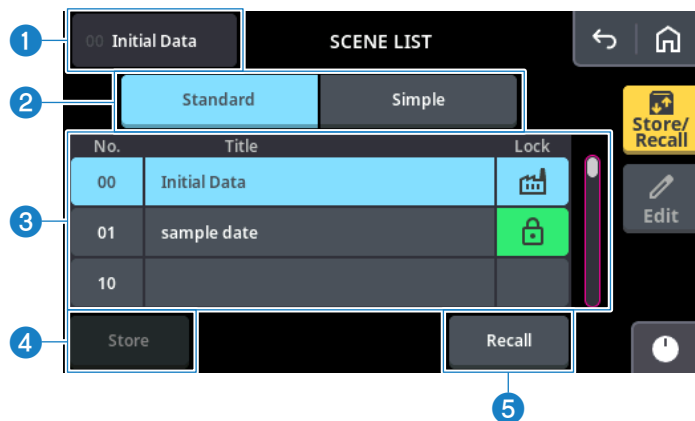
トップメニュー



Scene Listメニュー

■ Store/Recall

ミキサーの設定を保存したシーンを管理する画面です。



① カレントシーン表示

現在選択されているシーン番号と名前を表示します。

お知らせ

選択されているシーン番号と、最後にリコールされたシーン番号が異なる場合には、番号が点滅表示されます。

② リストバンク選択

Scene Listのバンクを切り替えます。Operation Modeごとのシーンがリストに表示されます。

お知らせ

Operation Modeが、Simpleモードの場合、StandardバンクのListは操作できません。

③ シーンリスト

保存されているシーンを表示します。

No.

シーン番号「01～63」を表示します。最後にリコールしたシーンには、[▶]が表示されます。

Title

タイトル名を表示します。

Lock

プロテクトの状態を表示します。プロテクト設定がオンのときは、そのシーンが書き込み禁止になります。



：ファクトリーセット



：プロテクト設定がオンのファイル

お知らせ

シーン番号はStandardモードとSimpleモードで共通となり、同じ番号のシーンは登録できません。例えば、Standardモードでシーン番号[03]を登録すると、Simpleモードの[03]はリストに表示されません。

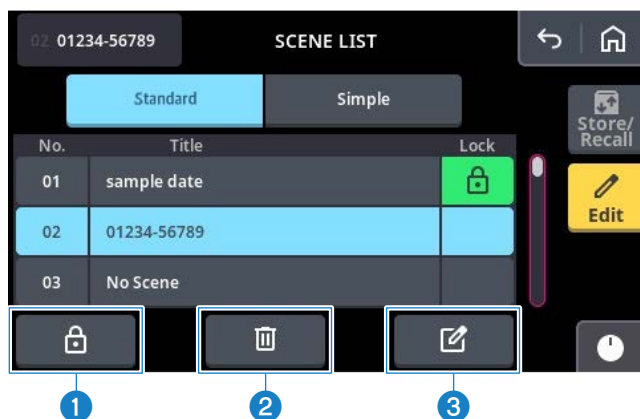
④ [Store]ボタン

リストで選択した番号に現在の設定をストア(保存)します。

⑤ [Recall]ボタン

選択したシーンをリコール(読み込み)します。

■ Edit



① **[Protect]ボタン**

選択したシーンのプロテクト(書き込み禁止)のオン/オフを切り替えます。

② **[Delete]ボタン**

選択したシーンを削除します。

③ **[Title]ボタン**

選択したシーンのタイトル名を編集します。

お知らせ

Standardモードの場合、Simpleモードのシーンリストの参照とリコールはできますが、ストア(保存)と編集(Protect, Delete, Edit)はできません。

■ シーンに保存される設定について

シーンには、主にミキサーのチャンネル設定が保存されます。保存されない設定は次のとおりです。

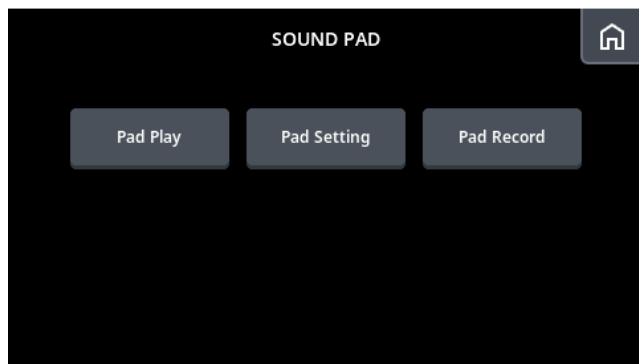
- SETUP画面、MONITOR画面、SOUND PAD画面、microSD画面、STREAMINGチャンネルの設定
- トップパネルのフェーダーで操作するCH1～CH16(またはCH12)、PAD、FX1～2、STEREOチャンネルのチャンネルレベル

Simpleモードの場合は、必要に応じてOutput PatchやMonitorの設定も保存されます。

SOUND PAD画面

トップメニュー

サウンドパッドは、8つのボタンにオーディオファイルを割り当てて再生します。各場面に
に応じたジングルや効果音に使用できます。



Pad Playメニュー

各PADの再生操作、再生音量を設定します。



① PAD再生ボタン

タッチすると、PADに登録した音声再生されます。

ボタンの枠の色は、[Pad Setting]メニューの[Color]で設定した色になります。ボタン左上にPADの番号(1～8)、中央にPAD名、右下にPADのオーディオデータのサンプリング周波数が表示されます。本製品のサンプリング周波数設定と異なる場合は、[!]マークが表示されます。

お知らせ

再生方法は[Pad Setting]メニュー(84ページ)で設定する[Playback Mode]で変更できます。

② メーター

再生音量を表示します。

Pad Settingメニュー



1 PAD設定ボタン

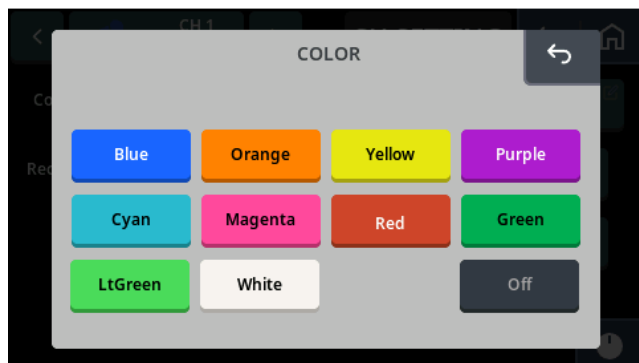
タッチすると、設定メニュー画面が表示されます。

2 PADボタン/メーター

PADに登録された音声を再生します。再生中は音量メーターが表示されます。

3 [Color]

PADボタンの色を選択します。



4 [Name]

PADボタンに表示される名前を設定します。テキスト入力画面を使用して名前を設定してください。



5 [Playback Mode]

PADボタンの再生モードを選択します。

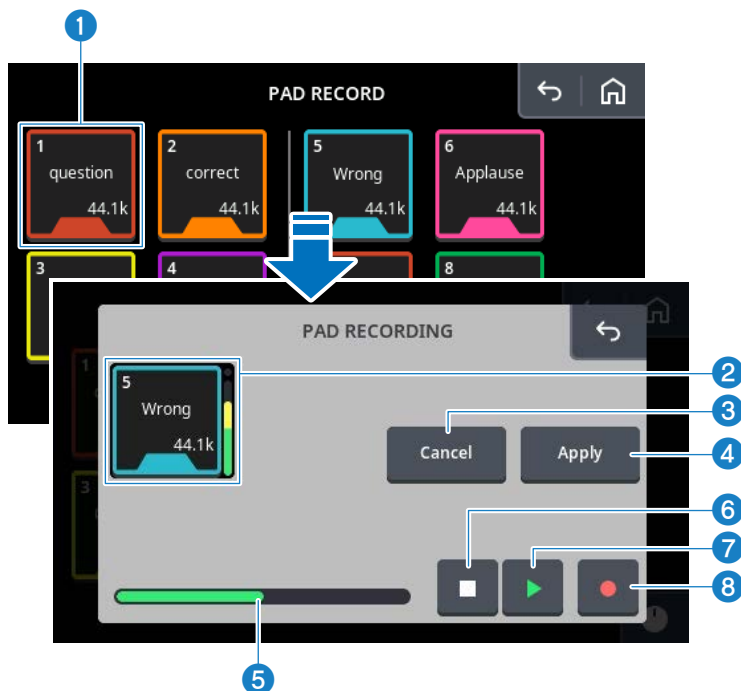
- [One Shot] : ボタンをタッチするたびに、データを先頭から1回再生します。
- [Hold] : ボタンをタッチしている間、データを繰り返し再生します。ボタンを離すと停止します。
- [Loop] : ボタンをタッチすると、データを繰り返し再生します。もう一度タッチすると停止します。

6 パラメーターノブ

- [Level] : 各Padの音量を設定します。
- [FX1 Send] : 各PadからFX1へのセンド量を設定します。
- [FX2 Send] : 各PadからFX2へのセンド量を設定します。
- [Pan] : 各Padの左右の定位を設定します。

Pad Recordメニュー

各PADへ音声を録音します。録音の手順は「サウンドパッドに録音する」(168ページ)をご参照ください。



① PAD録音ボタン

タッチすると、録音メニュー画面が表示されます。

② PADボタン/メーター

PADに登録した音声を再生します。再生中は音量メーターが表示されます。録音中は録音されている音量を表示します。

③ [Cancel]ボタン

録音したデータを破棄し、元のデータを保持した状態に戻ります。

④ [Apply]ボタン

録音したデータを保存します。

⑤ プログレスバー

録音の進捗を表示します。

6 (Stop)ボタン

録音を終了します。

7 (Play)ボタン

録音を開始します。

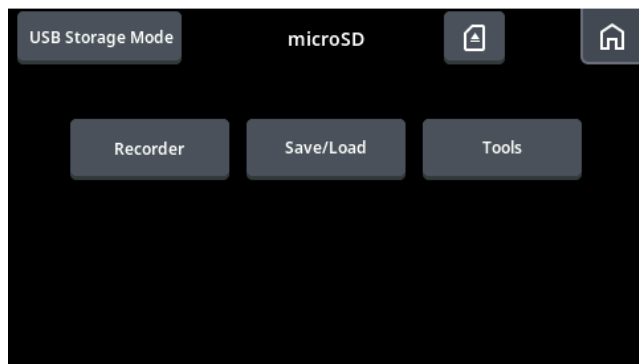
8 (Rec)ボタン

録音準備状態になります。録音が始まると点灯します。

microSD画面

トップメニュー

本製品に挿入しているmicroSDカードの設定をします。



■ 使用できるSD カードについて

MGXシリーズは、microSD カードに対応しています。microSDカードは、以下の性能を満たすSDXCメモリーカードまたはSDHCメモリーカードをご使用ください。

- ・ バスインターフェイスUHS-I以上、SDR104で動作するもの
- ・ UHSスピードクラス1以上
- ・ スピードクラス10以上

お知らせ

- ・ マルチトラック録音を行うには、書き込みスピードが高速で安定するメディアが必要です。
- ・ SDカードは、使用を繰り返すことで書き込みスピードが低下します。大切な録音を行う場合は、必ず本製品でカードをフォーマットしてください。
- ・ 録音するトラック数を制限することで、録音の安定性をより向上させることができます(91ページ)。
- ・ Test機能(100ページ)を使用することで、ご使用になるメディアの性能の目安を知ることができます。

使用するmicroSDカードによっては、正しく録音/再生ができないことがあります。

最新の動作確認情報は次のヤマハウェブサイトをご参照ください。

<https://www.yamaha.com/2/mgx/>

■ SDカードの取扱い

- microSD カードは挿入方向や裏表に注意して確実に奥まで差し込んでください。また、無理に差し込まないでください。
- microSDカードを取り出すときは、 をタッチして、表示されるダイアログに従って操作します。「安全にmicroSDカードを取り出すことができます。」と表示されたら、microSDカードを軽く押し込み、カードが少し飛び出したところを引き抜いてください。

■ フォーマット(初期化)

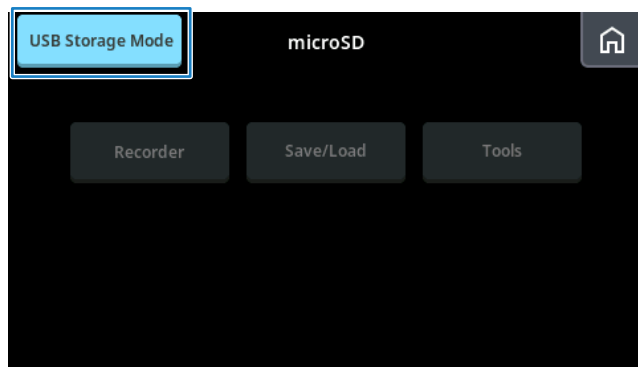
初めてmicroSD カードを使用するときや、サポートされていないファイルシステムでフォーマットされている場合は、フォーマット(初期化)が必要です。

フォーマットを促すダイアログが表示されたら、[OK]をタッチして、フォーマットしてください。フォーマットには時間がかかります。128 GBのmicroSDカードの場合、フォーマット完了まで約3分かかります。

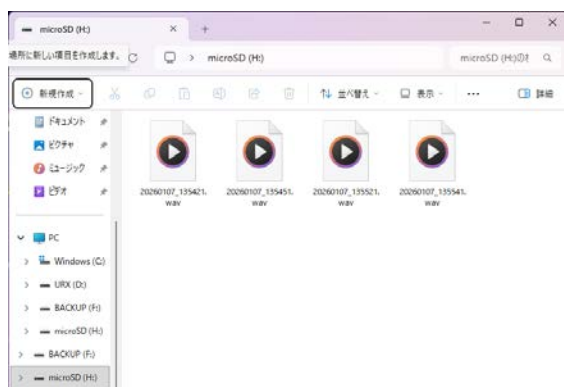
ご注意

- お使いのmicroSDカードによっては、認識されるまでに時間がかかる場合があります。
- microSDカードをフォーマット(初期化)すると、カード内のすべてのデータが完全に消去されます。必要なデータがある場合は、あらかじめコンピューターなどにバックアップしてから、フォーマットしてください。

USB Storage Mode ボタン



USB Storage Modeボタンをオン(水色)にすると、microSDカードがコンピューターからドライブとして認識され、ファイルの読み書きができるようになります。[USB MAIN]端子に接続されたコンピューターが対応しています。



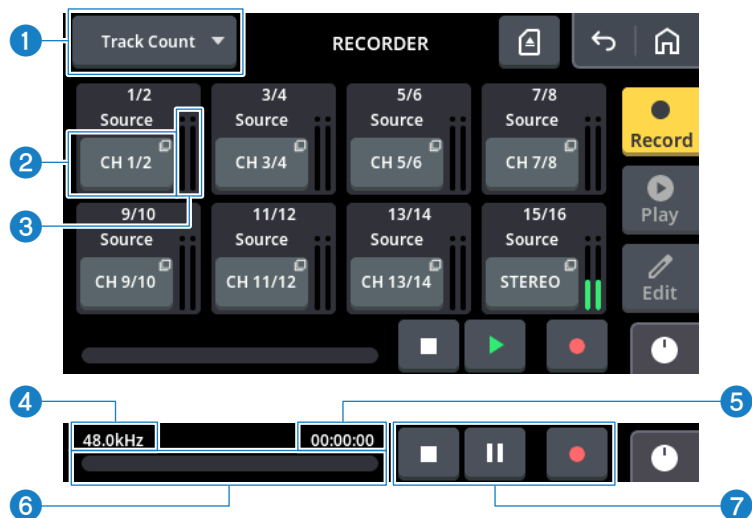
お知らせ

- USB Storage Modeをオンにすると、本製品からは他のメニューが選択できなくなります。
- USB Storage Modeをオフにする前に、コンピューターから本体の microSD ストレージドライブを必ず取り出してください。

RECORDERメニュー

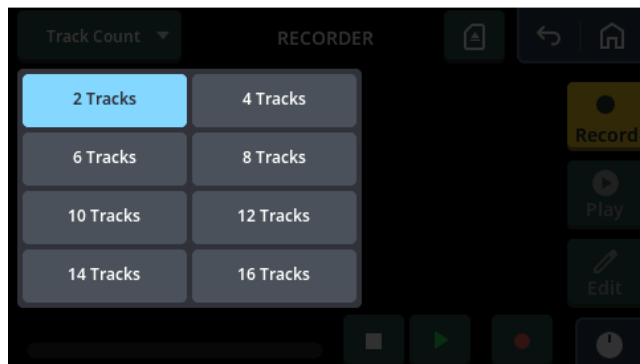
■ Record

microSDカードに録音する録音ソースを設定します。



① [Track Count]

表示されるプルダウンメニューから、2トラック単位で録音するトラック数を選択します。



お知らせ

録音できるトラック数は、本体のサンプリング周波数によって異なります。

44.1 kHz、48 kHz: 2、4、6、8、10、12、14、16トラック

88.2 kHz、96 kHz: 2、4、6、8トラック

② [Source]選択ボタン

タッチして、表示された画面で録音ソースを選択します。

お知らせ

(MGX16V, MGX12V)

著作権保護のため、HDCP保護された音声はSDカードに録音できません。いずれかのインプットチャンネルの入力ソースにHDMIを選択すると、すべてのアウトプットチャンネルにHDMIの音声を送られます。HDMI入力信号がHDCP保護されている場合、これらのチャンネルからSDカードに送られる音声は自動的にミュートされます。

③ 録音ソースメーター

録音ソースのレベルを表示します。

④ サンプリング周波数

録音時のサンプリング周波数を表示します(録音中のみ)。

⑤ カウンター

録音時間を表示します。

⑥ プログレスバー

microSDカードの残り容量を表示します。

7 録音操作ボタン



(Rec): 録音を待機、待機解除します。



(Play/Pause): 録音を開始/一時停止します。



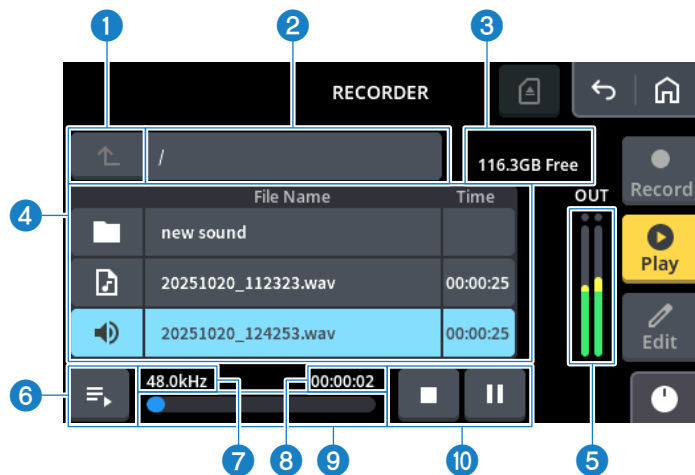
(Stop): 録音を終了します。

お知らせ

2トラックを超えるマルチトラックで録音したオーディオファイルは、本製品で再生ができません。コンピューターにファイルをコピーして、DAWソフトなどで読み込んでご使用ください。

■ Play

録音したデータや再生可能なファイルを選択し、再生を操作します。



① [↑]ボタン

microSDカード内のフォルダー階層を1階層上に移動します。

② フォルダー名表示

ルートディレクトリから現在のフォルダーまでのパスを表示します。表示しきれない場合は、末尾から表示します。

③ ボリューム名/残容量表示

microSDカード名と残容量を表示します。

④ ファイルリスト

選択している階層のファイルと、1階層下のフォルダーを表示します。

リストアイコン

 : 1階層下のフォルダー

 : 再生可能なオーディオファイル

 : 再生中のオーディオファイル

お知らせ

- ・フォルダー内のファイル数は128以下にしてください。
- ・以下の条件のファイルが再生可能です。
 - ・32ビット、24ビット、16ビットステレオのリニアPCMのWAV形式オーディオファイル
 - ・サンプリング周波数が本製品のサンプリング周波数と同じもの

5 メーター

再生しているオーディオのメーターをステレオ表示します。

6 ボタン

ボタンをタッチすると、再生中のファイルにカーソルを合わせることができます。

7 サンプリング周波数表示

再生中のサンプリング周波数を表示します(再生中のみ)。

8 カウンター

再生時間を表示します。

9 プログレスバー

再生中のファイルの再生時間を視覚的に表示します。

10 再生操作ボタン

再生の開始、一時停止などを行います。



(Stop): ファイルの再生を終了します。



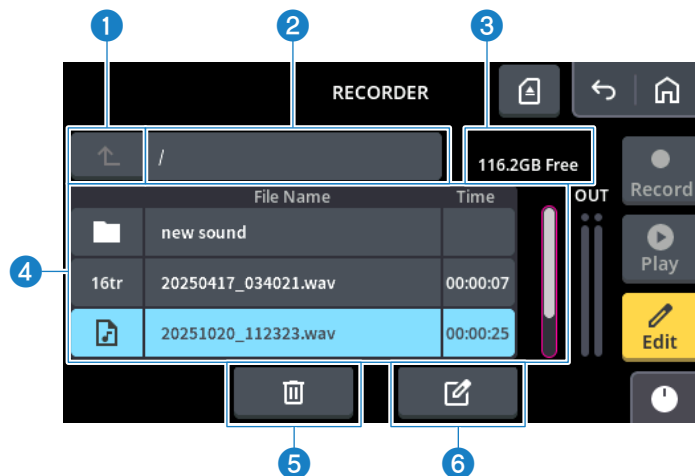
(Play/Pause): 再生を開始/一時停止します。

お知らせ

再生中に別のファイルを再生したい場合は、一旦[]ボタンで再生を終了させてから、[]ボタンで再生を開始させてください。

■ Edit

microSDカード内のファイル名の編集や、ファイルの削除をします。



1 [↑]ボタン

microSDカード内のフォルダー階層を1階層上に移動します。

2 フォルダー名表示

ルートディレクトリから現在のフォルダーまでのパスを表示します。表示しきれない場合は、末尾から表示します。

3 ボリューム名/残容量表示

microSDカード名と残容量を表示します。

4 ファイルリスト

選択している階層のファイルと、1階層下のフォルダーを表示します。

リストアイコン

[Folder Icon] : 1階層下のフォルダー

[File Icon] : 再生可能なオーディオファイル

4tr~16tr: 4トラック以上で録音したオーディオファイル

5 [Trash Icon]ボタン

選択したファイルを削除します。

6 [Edit Icon]ボタン

選択したファイル名を変更します。

SAVE/LOADメニュー

本体の設定ファイルの保存、読み出し、編集をします。

■ 設定ファイルについて

設定ファイルには以下のデータが含まれます。

- ・ 本体にバックアップされる各種設定値一式
- ・ 作成したすべてのシーンメモリー

以下のデータは含まれません。

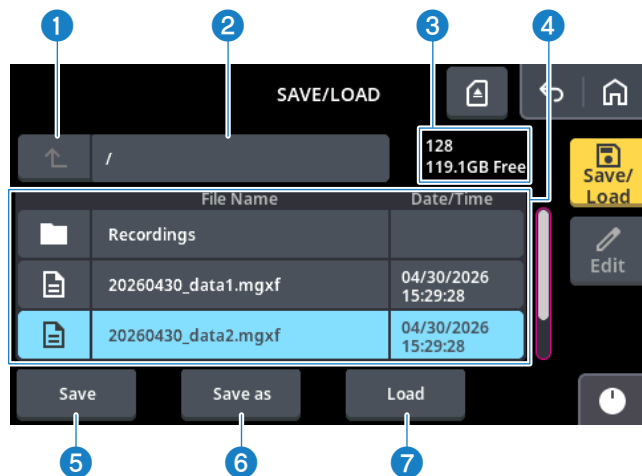
- ・ Sound Padの再生データ

お知らせ

読み出せる設定ファイルは、MGXシリーズモデルのもののみです。

■ Save/Load

設定ファイルの保存、読み出しをします。



① [↑]ボタン

microSDカード内のフォルダー階層を1階層上に移動します。

② フォルダー名表示

ルートディレクトリから現在のフォルダーまでのパスを表示します。表示しきれない場合は、末尾から表示します。

③ ボリューム名/残容量表示

microSDカード名と残容量を表示します。

④ ファイルリスト

選択している階層の読み出し可能なファイルと、1階層下のフォルダーを表示します。
リストアイコン



: 1階層下のフォルダー



: 読み出し可能な設定ファイル

⑤ [Save]ボタン

設定ファイルを選択したファイルに上書き保存します。

⑥ [Save as]ボタン

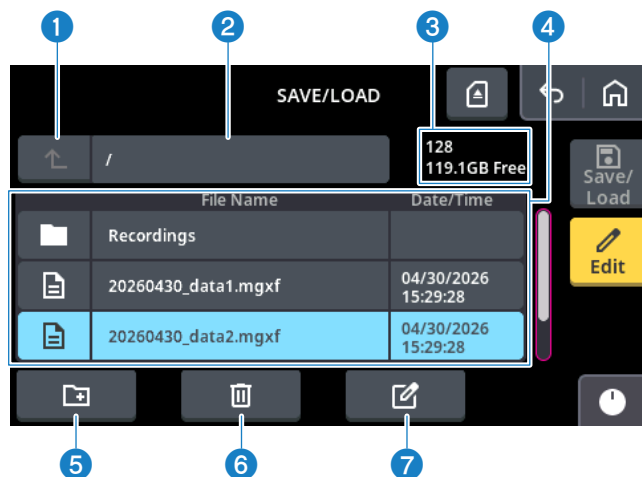
指定した名前で設定ファイルを保存します。

⑦ [Load]ボタン

設定ファイルを読み出します。読み出しを実行すると、本体の設定が上書きされます。

■ Edit

フォルダーの作成、設定ファイルの削除、ファイル名の変更をします。



① [↑]ボタン

microSDカード内のフォルダー階層を1階層上に移動します。

② フォルダー名表示

ルートディレクトリから現在のフォルダーまでのパスを表示します。表示しきれない場合は、末尾から表示します。

③ ボリューム名/残容量表示

microSDカード名と残容量を表示します。

④ ファイルリスト

選択している階層の読み出し可能なファイルと、1階層下のフォルダーを表示します。

リストアイコン



: 1階層下のフォルダー



: 読み出し可能な設定ファイル

⑤ ボタン

選択している階層にフォルダーを作成します。

⑥ ボタン

選択したファイルを削除します。

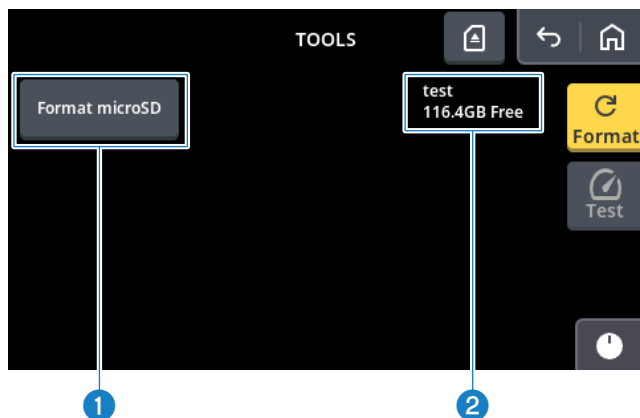
⑦ ボタン

設定ファイル名を変更します。

TOOLSメニュー

■ Format

microSDカードのフォーマット(初期化)をします。



① [Format microSD]ボタン

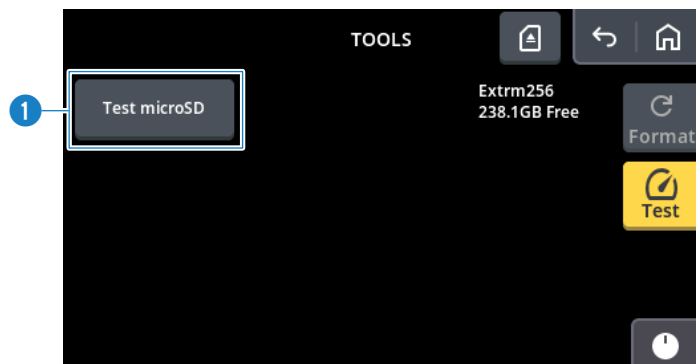
ボリュームラベルを入力し、[OK]ボタンをタッチすると、microSDカードのフォーマットを実行します。

② ボリューム名/残容量表示

microSDカード名と残容量を表示します。

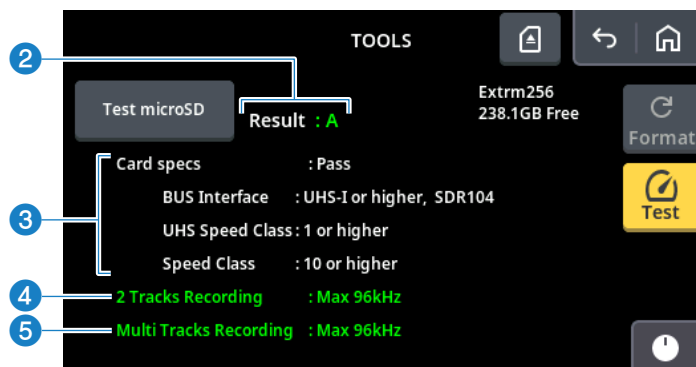
■ Test

microSDカードの書き込み速度の評価をします。



① [Test microSD]ボタン

ボタンをタッチすると、解析が始まり、約10秒後に結果が表示されます。



② [Result]

総合評価を[A]、[B]、[C]、[Fail]で判定します。

[A]判定(緑色): Multi Tracks、2 Tracksともに録音可能で、Card specsがすべてPassの場合

[B]判定(黄色): 周波数を選べばMulti Tracksの録音が可能で、Card specsがすべてPassの場合

[C]判定(オレンジ色): 周波数を選べば2 Tracksの録音が可能で、Card specsがすべてPassの場合

上記以外は[Fail]となります。

3 [Card specs]

カードの仕様として問題があるかないかを[Pass]または[Fail]で判定します。

インターフェースやスピードクラスの仕様を表示し、仕様を満たしていない場合は赤色で表示されます。

4 [2 Tracks Recording]

書き込みテストを行い、2トラックの録音に対応できる最大のSampling Rateを表示します。

判定結果は、次のとおりに表示されます。

- 緑色: すべての周波数で2トラック録音が可能
- 黄色: 現在の本体のサンプリング周波数以上で録音可能
- 赤色: 現在の本体のサンプリング周波数より低い周波数でのみ録音可能
- [Fail] (赤色): すべての周波数で録音不可

例: 本体設定が48 kHzの場合

[Max 96kHz](緑色): 44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHzで録音可能

[Max 88.2kHz](黄色): 44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHzで録音可能、96 kHzは不可

[Max 48kHz](黄色): 44.1 kHz、48 kHzで録音可能、88.2 kHz、96 kHzは不可

[Max 44.1kHz](赤色): 44.1 kHzで録音可能、48 kHz、88.2 kHz、96 kHzは不可

[Fail](赤色): すべての周波数で録音不可

5 [Multi Tracks Recording]

書き込みテストを行い、マルチトラックの録音に対応できる最大のSampling Rateを表示します。

[Max 96kHz]と緑色で表示されている場合は、48 kHz/16トラックと96 kHz/8トラックの録音ができる書き込み速度となります。条件を満たしていない場合は[Fail]と赤文字で表示されます。

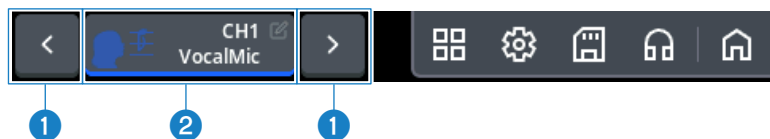
チャンネルビュー

画面構成



- 各チャンネルに応じて、メインエリアの画面表示が変わります。
- メインエリアには、選択したチャンネルのパラメーター概要を表示します。表示項目は、選択したチャンネルによって変わります。
- メインエリアの各オブジェクトをタッチすると、該当パラメーターが操作対象になります。さらにタッチすると、該当機能の詳細画面に移動します。
- 各機能の詳細については、「チャンネル専用画面」(113ページ)をご参照ください。

ツールバー



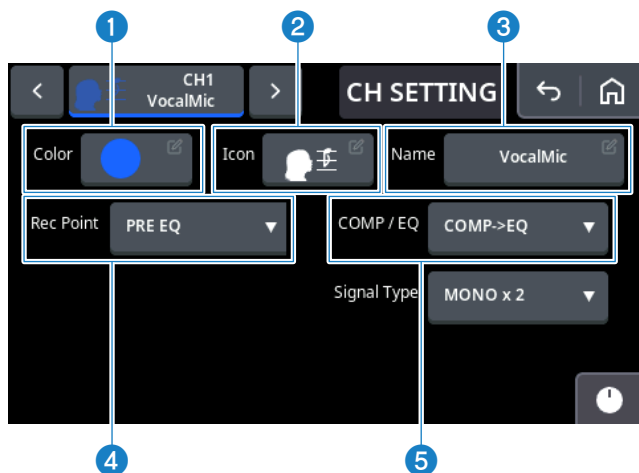
① チャンネル選択ボタン

[<]をタッチすると1つ前のチャンネル、[>]をタッチすると1つ後ろのチャンネルに切り替わります。チャンネル選択はCH1からSTREAMING、またはSTREAMINGからCH1へループします。

② チャンネル設定画面表示ボタン

ボタンをタッチすると、チャンネル設定画面が表示されます。チャンネル設定画面については、次の項をご参照ください。

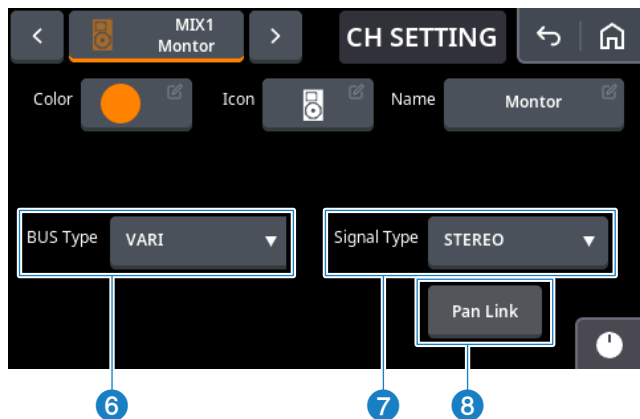
チャンネル設定画面



お知らせ

表示される項目はチャンネルごとに異なります。

- ① **[Color]**
チャンネルカラーを選択します。
- ② **[Icon]**
チャンネルアイコンを選択します。アイコンリストをスクロールして選択してください。
- ③ **[Name]**
チャンネル名を入力します。ボタンをタッチすると、テキスト入力画面が表示されます。
- ④ **[Rec Point]**
チャンネルのダイレクト録音信号の取り出しポイントを選択できます。
- ⑤ **[COMP/EQ]**
チャンネルのCOMP/EQをCOMP->EQとして使用するか、SSMCS(Sweet Spot Morphing Channel Strip)として使用するか選択できます。



6 [BUS Type]

隣り合った2つのMIXバス(MIX1/2、MIX3/4など)のバスタイプを選択できます。バスタイプは、VARI(センドレベルが可変)またはFIXED(センドレベルが固定)から選択できます。

7 [Signal Type]

隣り合った2つのチャンネル(CH1/2、CH3/4、MIX1/2、MIX3/4など)の動作モードを選択できます。ステレオリンク(STEREO)または独立した2チャンネル(MONO×2)から選択できます。

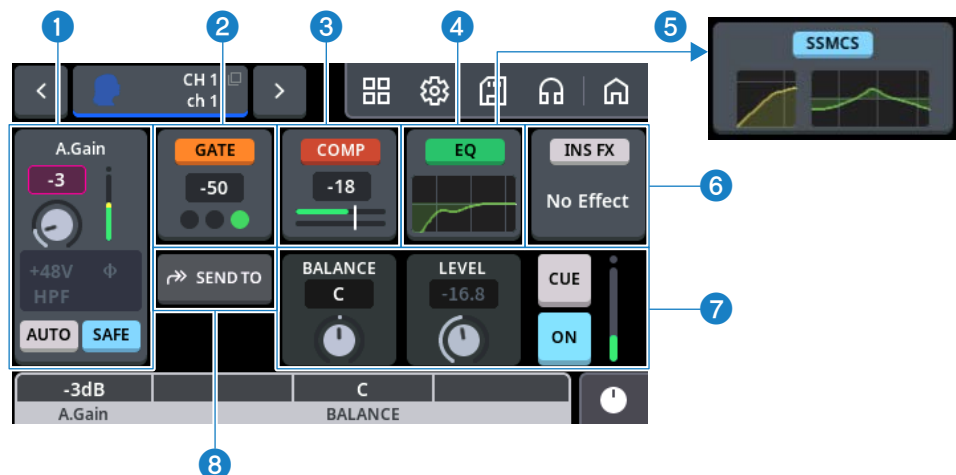
お知らせ

MONO INチャンネルでSTEREOを選択すると、PANかBAL(バランス)を選択できるボタンが表示されます。それぞれのチャンネルをPANとして使用するか、またはL/Rバランスとして使用するかの選択ができます。

8 [Pan Link]

センド元のチャンネルからのセンドPANの設定をチャンネルのPANにリンクする機能を設定できます。この機能は、シグナルタイプがSTEREO、バスタイプがVARIの場合に有効です。ボタンをタッチすると、PAN設定が切り替わります。

メインエリア



① インプットエリア

インプットゲイン、インプットメーター、[+48V]インジケータ、[φ]インジケータ、[HPF]インジケータ、[AUTO]ボタン、[SAFE]ボタンなどで構成されています。

選択したチャンネルによって、表示項目が異なります。

MONO INチャンネル		
MIC/LINE インプットが入力ソースとして選択されている場合	LINE インプット(フォーン端子)が入力ソースとして選択されている場合	左記以外が入力ソースとして選択されている場合
ST INチャンネル		
MIC/LINE インプットが入力ソースとして選択されている場合	LINE インプット(フォーン端子)が入力ソースとして選択されている場合	左記以外が入力ソースとして選択されている場合

■ インジケーター・ボタンの説明

選択したチャンネルによって、表示項目が異なります。ここでは一部のみを説明しています。他のインジケーター・ボタンの説明は「チャンネル専用画面」の「INPUT画面」(114ページ)をご参照ください。

- LOW、HIGH：LINE インプット(フォーン端子)が入力ソースとして選択されているときに、ゲインのLOW(低)、HIGH(高)を表示します。
- AUTO：オートゲインボタンです。オフの状態からボタンをタッチするとオンになり、オートゲインの設定を開始します。適正なインプットゲインが決定すると、アナログゲインの設定値に反映され、ボタンは自動でオフになります。
- SAFE：クリップセーフボタンです。オンにすると、過大入力時に自動でゲインを下げてクリップを回避します。自動でゲインが下がっているときボタンの色は水色からオレンジに変わります。

② GATEエリア(MONO INチャンネルのみ)



[GATE]ボタンをタッチしてゲートのオン/オフを切り替えます。[TOUCH AND TURN]ノブでスレッシュホールドを設定できます。エリア内をタッチするとGATE画面が開きます。

下部のインジケータはGATEの開閉状態を表示します。

-  GATEが閉じ切っている状態 (ゲインリダクションがRANGE以下)
-  GATEが開閉途中の状態 (ゲインリダクションがRANGE以上0 dB未満)
-  GATEが開ききっている状態 (ゲインリダクションが0 dB)
-  GATEがオフの状態

③ COMPエリア(MONO INチャンネルのみ)

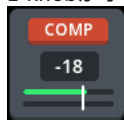
[COMP]ボタンをタッチしてコンプレッサーのオン/オフを切り替えます。[TOUCH AND TURN]ノブで操作するパラメーターは1-knobモードがオンかオフかで異なります。オフのときはスレッシュホールドを設定できます。オンのときは効果の深さを0~100%で設定できます。エリア内をタッチするとCOMP画面が開きます。下部のインジケータは、上が入力レベルを、下がゲインリダクションを表示します。

お知らせ

1-knob機能について

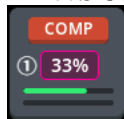
1-knobをオンにすると、複数のパラメーターを[TOUCH AND TURN]ノブで簡単に操作できます。1-knobがオンの場合、各パラメーターを個別に操作できません。1-knobのオン/オフはチャンネル専用画面で設定できます。

- 1-knobがオフのとき



[COMP]ボタン以外の部分をタッチするとピンク色枠でフォーカスされます。[TOUCH AND TURN]ノブを操作してスレッシュホールドの設定をします。

- 1-knobがオンのとき



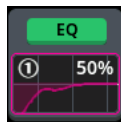
[TOUCH AND TURN]ノブを操作して値の設定をします。エリア内をタッチするとCOMP画面が表示されます。

4 EQエリア

[EQ]ボタンをタッチしてEQのオン/オフを切り替えます。1-knobモードがオンのときは[TOUCH AND TURN]ノブで効果の深さを0~100%で設定できます。下部のグラフはEQの周波数特性を表示します。エリア内をタッチするとEQ画面が開きます。



1-knobモードがオフのとき



1-knobモードがオンのとき

5 SSMCSエリア(MONO INチャンネルのみ)

[COMP/EQ] TYPEがSSMCSのときに、COMPエリアとEQエリアとの差し替えて表示されます。[SSMCS]ボタンをタッチしてSSMCSのオン/オフを切り替えます。エリア内をタッチするとSSMCS画面が表示されます。

お知らせ

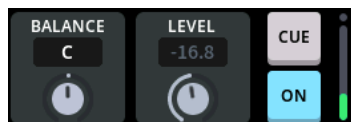
- SSMCS (Sweet Spot Morphing Channel Strip)は、ヤマハのUSBオーディオインターフェースに搭載されている機能で、EQとコンプレッサーを1つのノブで最適なバランスに調節できます。
- [COMP/EQ] TYPEはチャンネルビューの「チャンネル設定画面」(105ページ)で変更できます。

6 INS FXエリア

[INS FX]ボタンをタッチしてオン/オフを切り替えます。エフェクトがインサートされていない場合は[No Effect]と表示されます。エリア内をタッチするとINS FX画面が表示されます。

7 PAN/LEVELエリア

チャンネルのON、CUE、PANの設定、LEVELメーターを表示します。



[PAN]ノブ/[BALANCE]ノブ

信号の定位を表示します。

[TOUCH AND TURN]ノブまたは、マルチファンクションノブでPAN/BALANCEを設定できます。[C]はセンターノミナルです。

お知らせ

Signal Type (105ページ)でSTEREOを選択し、表示されるPAN/BALボタンで[BAL]を選択すると、MONO INチャンネルにBALANCEノブを表示できます。

[LEVEL]ノブ

チャンネルのレベルを表示します。トップパネルのフェーダーで調節します。画面の操作では調節できません。

[CUE]ボタン

チャンネルのCUEのオン/オフを切り替えます。CUEをオンにしたときに点灯します。

[ON]ボタン

チャンネルのオン/オフを切り替えます。オンのときに点灯します。

LEVELメーター

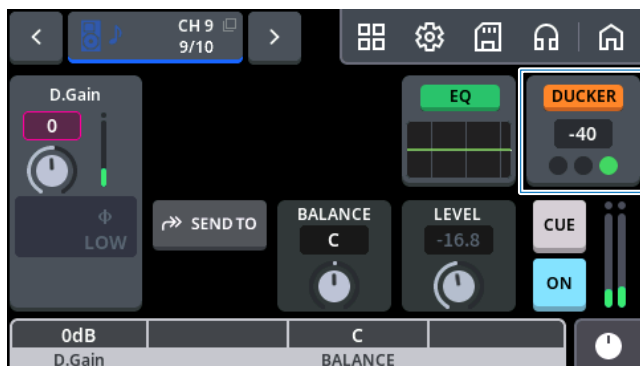
−60 dB〜0 dBまでのレベルインジケータです。

ステレオのチャンネル、ステレオリンクを組んだチャンネルの場合は、ステレオメーターで表示されます。

8 SEND TOボタン

ボタンにタッチすると、SEND TO画面に移動します。

9 DUCKERエリア(ST INチャンネルのみ)



[DUCKER]ボタンをタッチして、オン/オフを切り替えます。[TOUCH AND TURN]ノブでスレッシュホールドを設定できます。エリア内をタッチすると[DUCKER]画面が表示されます。

下部のインジケータは、DUCKERの動作状態を表示しています。

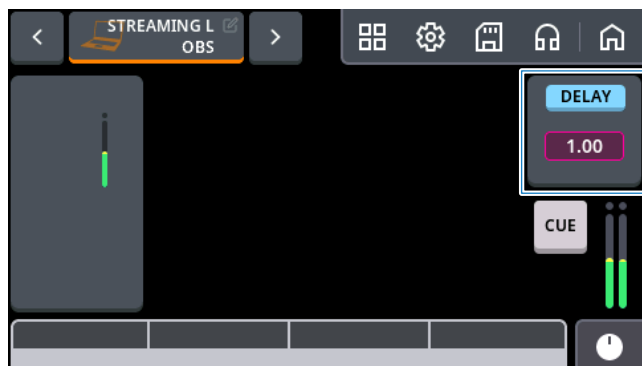
 DUCKERが最大減衰している状態 (ゲインリダクションがRANGE以下)

 DUCKERが減衰中の状態 (ゲインリダクションがRANGE以上0 dB未満)

 DUCKERが動作していない状態 (ゲインリダクションが0 dB)

 DUCKERがオフの状態

10 DELAYエリア(STREAMINGチャンネルのみ)



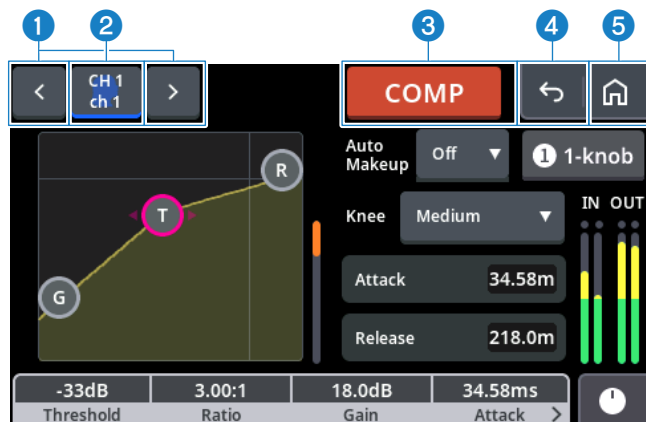
[DELAY]ボタンをタッチして、オン/オフを切り替えます。

[TOUCH AND TURN]ノブでディレイタイムを設定できます。エリア内をタッチするとDELAY画面が表示されます。

チャンネル専用画面

チャンネル設定画面

チャンネルの各モジュールの詳細設定をします。



各画面共通ボタン

① チャンネル選択ボタン

[<]をタッチすると1つ前のチャンネル、[>]をタッチすると1つ後ろのチャンネルに切り替わります。

② チャンネル名表示欄

選択しているチャンネル名を表示します。

③ モジュールオン/オフボタン

モジュール名を表示します。また、以下の機能を選択している場合には、モジュールのオン/オフを切り替えます。タッチしてオフ(グレー表示)にすると、機能が無効になります。

GATE、COMP、EQ、SSMCS、INS FX、DUCKER、DELAY

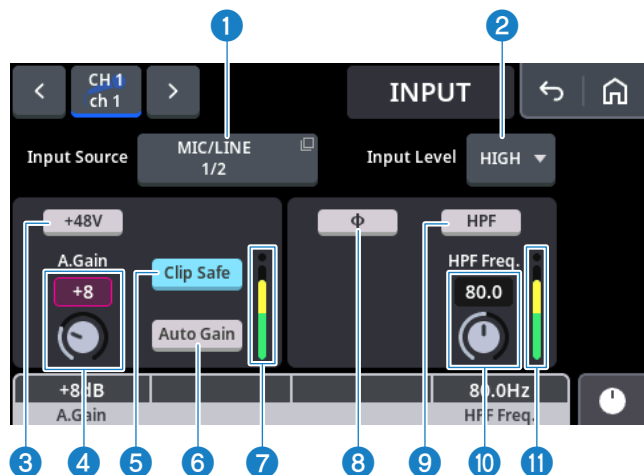
④ 戻るボタン

チャンネルビュー表示に戻ります。

⑤ ホームボタン

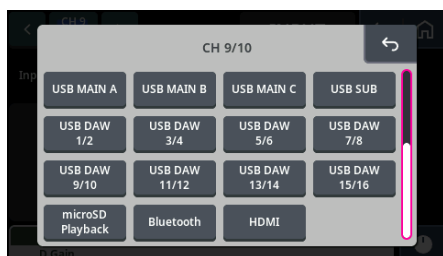
HOME画面を表示します。

INPUT画面



① [Input Source]選択ボタン

入力ソースの選択メニューがポップアップします。入力ソースを選択すると、入力レベルが選択できるようになります。MONO INチャンネルの場合、隣り合った2チャンネルをまとめて設定します。



MGX16V、MGX16のCH 9/10の場合(HDMIはMGX16Vのみ)

- ・ **[All Input]ボタン**: 表示されるダイアログで[OK]を選択すると、入力ソースが下表のように設定されます。

MGX16V、MGX16

CH 1/2	CH 3/4	CH 5/6	CH 7/8
MIC/LINE 1/2	MIC/LINE 3/4	MIC/LINE 5/6	MIC/LINE 7/8
CH 9/10	CH 11/12	CH 13/14	CH 15/16
LINE 9/10	LINE 11/12	LINE 13/14	LINE 15/16

MGX12V、MGX12

CH 1/2	CH 3/4	CH 5/6
MIC/LINE 1/2	MIC/LINE 3/4	LINE 5/6
CH 7/8	CH 9/10	CH 11/12
LINE 7/8	LINE 9/10	LINE 11/12

- ・ **[All USB DAW]ボタン**: 表示されるダイアログで[OK]を選択すると、入力ソースが下表のように設定されます。

MGX16V、MGX16 (MGX12V、MGX12はCH 1/2～CH 11/12)

CH 1/2	CH 3/4	CH 5/6	CH 7/8
USB DAW 1/2	USB DAW 3/4	USB DAW 5/6	USB DAW 7/8
CH 9/10	CH 11/12	CH 13/14	CH 15/16
USB DAW 9/10	USB DAW 11/12	USB DAW 13/14	USB DAW 15/16

お知らせ

(MGX16V、MGX12V)

著作権保護のため、HDCP保護された音声はUSB出力、SDカードへの録音ができません。いずれかのインプットチャンネルの入力ソースにHDMIを選択すると、すべてのアウトプットチャンネルにHDMIの音声を送られます。HDMI入力信号がHDCP保護されている場合、これらのチャンネルからUSBやSDカードに送られる音声は自動的にミュートされます。

② [Input Level]ボタン

①のInput SourceにLINE 9/10、LINE 11/12 (MGX16V、MGX16)、またはLINE 5/6、LINE 7/8 (MGX12V、MGX12)が選択されているときに表示されます。入力レベルのHIGH/LOWが切り替えられます。

③ [+48V]ボタン

ファンタム電源(+48V)のオン/オフを切り替えます。MIC/LINE インプットが入力ソースとして選択されているときに表示されます。

ファンタム電源に関するご注意

- ・ 本製品や外部機器の故障、ノイズを防ぐために、次の注意事項をお守りください。
 - ・ ファンタム電源が不要な場合はオフにする。
 - ・ [INPUT]端子に、ファンタム電源非対応の機器を接続するときは、オフにする。
 - ・ オンにしたまま、[INPUT]端子でケーブルの抜き差しをしない。
 - ・ オン/オフは、出力音量を最小にした状態で行う。

4 [A.Gain]ノブ

アナログゲインを設定します。MIC/LINE インプットが入力ソースとして選択されているときに表示されます。

お知らせ

MIC/LINE INPUT端子以外が選択されている場合、[D.Gain]ノブが表示され、デジタルゲインが設定できます。

5 [Clip Safe]ボタン

オンにすると、過大入力時に自動でゲインを下げてクリップを回避します。自動でゲインが下がっているときは、ボタンの色が水色からオレンジに変わります。MIC/LINE インプットが入力ソースとして選択されているときに表示されます。

6 [Auto Gain]ボタン

オンにすると、オートゲインの測定が始まります。適正なインプットゲインが決定すると、アナログゲインの設定値に反映され、ボタンは自動でオフになります。MIC/LINE インプットが入力ソースとして選択されているときに表示されます。

お知らせ

オートゲインの測定中は、歌声や音声を入力してください。入力音声小さすぎる場合はエラーになり、元のゲイン値に戻ります。

7 インプットメーター

チャンネルへの入力直後のレベルを表示します。

8 [φ]ボタン

φ(フェーズ)のオン/オフを切り替えます(オンのときに逆相/オフのときに正相)。

9 [HPF]ボタン

[HPF](ハイパスフィルター)のオン/オフを切り替えます。

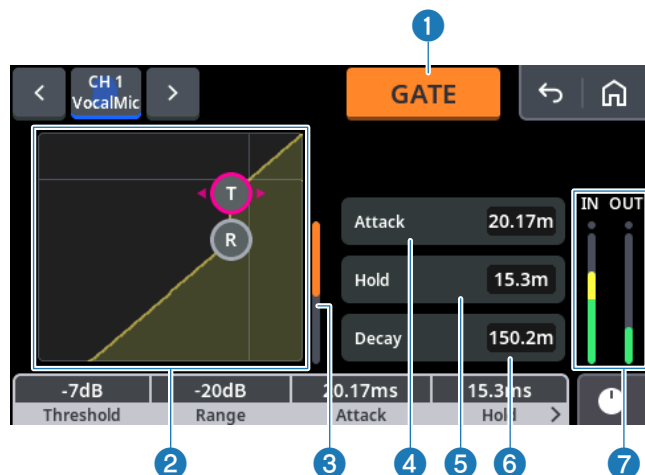
10 [HPF Freq.]ノブ

[HPF Freq.] (HPF周波数) を設定します。

11 アウトプットメーター

φやHPFを通過した後のレベルを表示します。

GATE画面



① [GATE]ボタン

ゲートのオン/オフを切り替えます。

② GATEグラフ

ゲートの入出力特性グラフを視覚的に表示します。グラフを直接操作して、T(スレッシュولد)で効果がかかるしきい値のレベル、R(レンジ)で効果がかかっているときの減衰量を設定します。

③ GR(ゲインリダクション)メーター

ゲインリダクション量を表示します。

④ [Attack]テキストボックス

アタックタイムを設定します。

⑤ [Hold]テキストボックス

ホールドタイムを設定します。

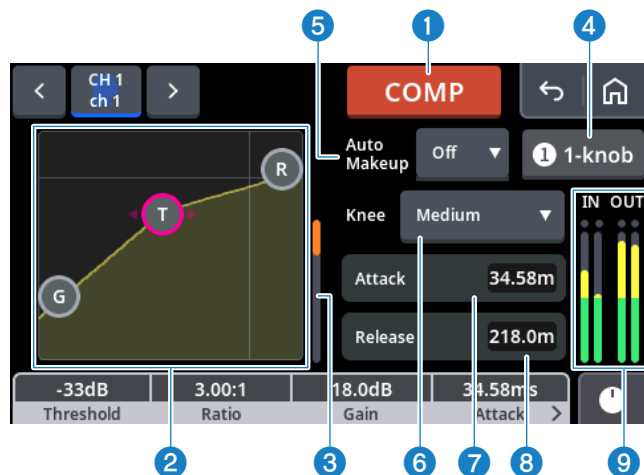
⑥ [Decay]テキストボックス

ディケイタイムを設定します。

⑦ 入出力メーター

ゲートへの入力・出力信号レベルを表示します。

COMP画面



① [COMP]ボタン

コンプレッサのオン/オフを切り替えます。

② COMPグラフ

コンプレッサの入出力特性グラフを視覚的に表示します。グラフを直接操作して、T(スレッシュホールド)、R(レシオ)、G(ゲイン)の値を設定します。

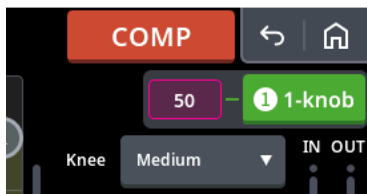
③ GR(ゲインリダクション)メーター

コンプレッサのゲインリダクション量を表示します。

④ [1-knob]ボタン

1-knob機能のオン/オフを切り替えます。

1-knobがオンの場合



1-knob COMPの仕組み

- 1-knobがオンの場合は、コンプレッサーのかかり具合をひとつのノブで簡単に操作できます。1-knobレベル値を大きくするにしたがって、コンプレッションが強くなり、それに応じてレベルが上がります。単にフェーダーやゲインで音量を上げるだけではレベルオーバーが起きてしまうような音量差のある音の粒を揃えて、音が前面に出てくるような効果が得られます。スレッシュホールド、レシオ、ゲインのバランスを自動的にコントロールすることで、難しいコンプレッサーの設定を気にすることなく操作できます。

5 [Auto Makeup]ボタン

Auto Makeup機能のオン/オフを切り替えます。オンにすると、スレッシュホールドとレシオの設定値から適切なゲイン値が自動計算されます。計算されたゲイン値は自動的に適用されます。1-knobがオンのときは操作できません。

6 [Knee]モード選択

ニーパラメーター(スレッシュホールドレベル前後の音量変化)を切り替えます。1-knobがオンのときは操作できません。

7 [Attack]テキストボックス

アタックタイム(入力信号がスレッシュホールドレベルを越えてから圧縮が始まるまでの早さ)を調節します。

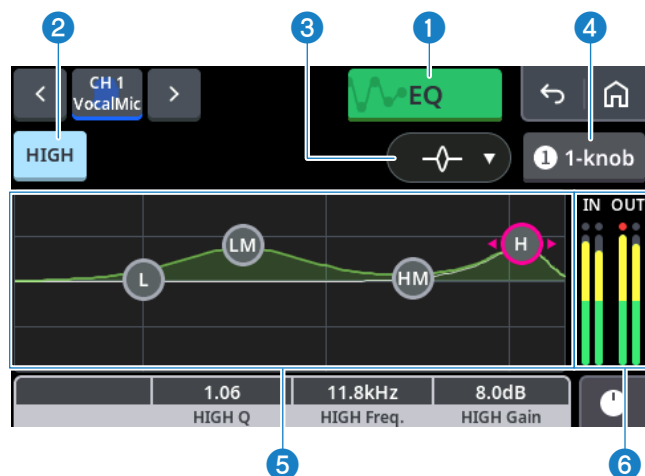
8 [Release]テキストボックス

リリースタイム(入力信号がスレッシュホールドレベル以下に下がってから信号の圧縮が解除されるまでの時間)を調節します。

9 入出力メーター

コンプレッサーへの入力・出力信号レベルを表示します。

EQ画面



① [EQ]ボタン

EQのオン/オフを切り替えます。

② バンド名表示

選択中のバンド名が表示されます。タッチしてバンドのオン/オフを切り替えます。1-knobがオンのときには操作できません。

③ フィルター選択ボタン

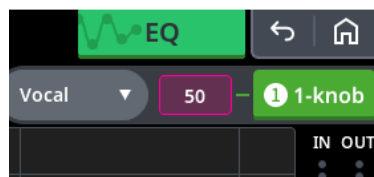
フィルタータイプを選択します。

1-knobがオンのときには操作できません。

④ [1-knob]ボタン

1-knob機能のオン/オフを切り替えます。

1-knobがオンの場合



1-knob EQの仕組み

- 1-knobがオンの場合は、複数のパラメーターを同時に1つのノブで操作できます。これにより、複雑なEQの調節を簡単に操作できます。
1-knobをオフにして、EQ設定を作成した後、1-knobのタイプをIntensityに切り替えると、そのEQ設定は50%(中間値)として登録されます。この状態では、0%(EQがかかっていない状態)～100%(中間値よりも強調)の範囲で、[TOUCH AND TURN]ノブを使ってEQ設定を調節できます。あらかじめ作ったEQ設定の微調節を、1つのノブで操作できるので便利です。
1-knobのタイプをVocalやLoudnessに変更すると、あらかじめ用意されたEQカーブで0% (EQがかかっていない状態)～100% (EQのかかり具合が最大の状態)の間で操作できます。

5 EQグラフ

EQグラフをドラッグしてゲイン/周波数特性を操作します。1-knobがオンのときにはグラフは操作できません。

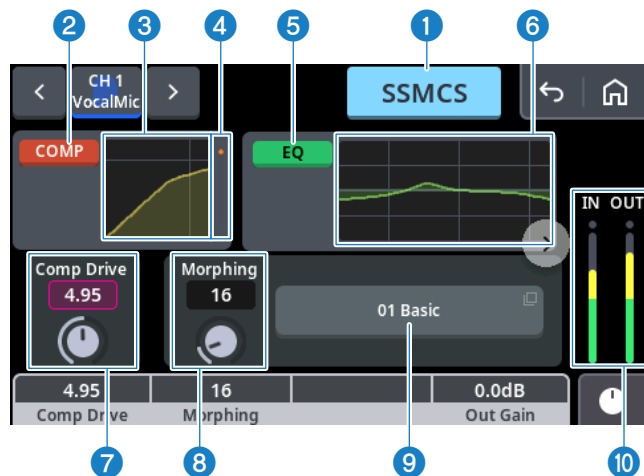
6 入出力メーター

EQへの入力・出力信号レベルを表示します。

SSMCS (Sweet Spot Morphing Channel Strip)画面

メイン画面

Sweet Spot Morphing Channel Stripは、ヤマハが開発したSweet Spot Morphing Technologyを採用したChannel Strip エフェクトです。コンプレッサーやイコライザーなど、専門的な知識がないと最適な効果を得るのが難しいエフェクトに対して、1つのノブ操作で、EQとコンプレッサーを最適なバランスに調節できます。



① [SSMCS]ボタン

SSMCS (Sweet Spot Morphing Channel Strip)のオン/オフを切り替えます。

② [COMP]ボタン

コンプレッサーのオン/オフを切り替えます。

③ COMPグラフ

コンプレッサーの入出力特性グラフを直接操作して表示します。

④ GR(ゲインリダクション)メーター

ゲインリダクション量を表示します。

⑤ [EQ]ボタン

EQのオン/オフを切り替えます。

⑥ EQグラフ

EQの周波数特性のグラフを表示します。

7 [Comp Drive]ノブ

Channel Stripのコンプレッサーのかかり具合を設定します。

8 [Morphing]ノブ

Sweet Spot Dataのパラメーターを調節します。このノブを回すと、ノブのまわりの5つの点それぞれに保存されたコンプレッサーとイコライザーの設定(Sweet Spot Data)を同時に動かすことができます。2点の中間にノブを合わせた場合、コンプレッサーとイコライザーの設定は、2点の中間の設定になります。

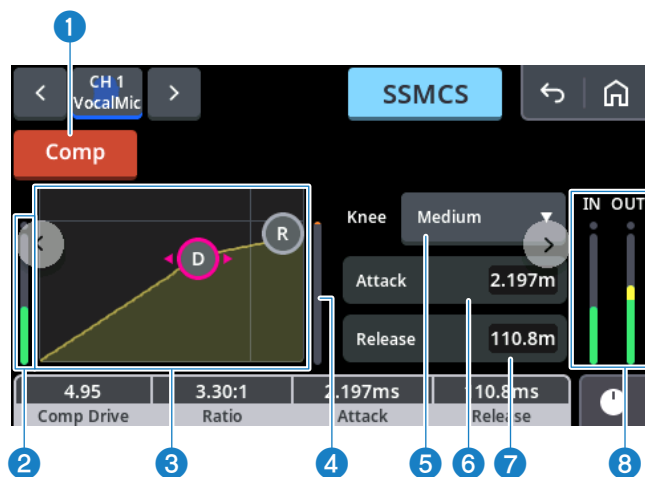
9 [Sweet Spot Data]ボタン

表示されるリストからSweet Spot Dataを選択します。

10 入出力メーター

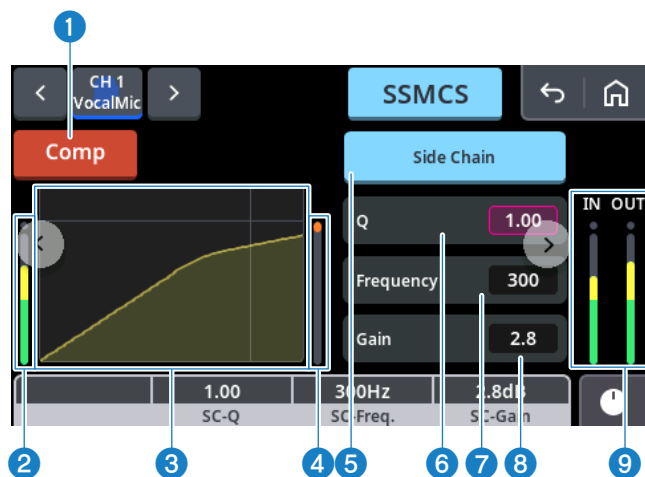
SSMCSへの入力・出力信号レベルを表示します。

COMP画面



- ① **[Comp]ボタン**
コンプレッサーのオン/オフを切り替えます。
- ② **SCメーター**
サイドチェーンのメーターを表示します。
- ③ **Compグラフ**
コンプレッサーの入出力特性グラフを直接操作して設定します。
- ④ **GR(ゲインリダクション)メーター**
ゲインリダクション量を表示します。
- ⑤ **[Knee]モード選択**
ニーパラメーター (スレッシュホールドレベル前後の音量変化)を切り替えます。
- ⑥ **[Attack]テキストボックス**
アタックタイムを設定します。
- ⑦ **[Release]テキストボックス**
リリースタイムを設定します。
- ⑧ **入出力メーター**
SSMCSへの入力・出力信号レベルを表示します。

COMP Side Chain画面



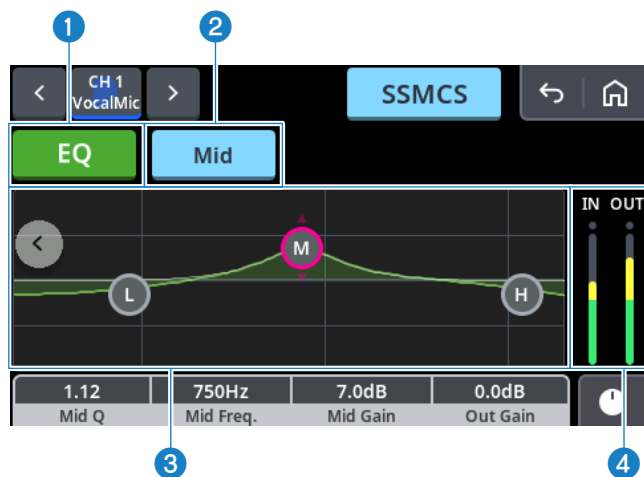
- ① **[Comp]ボタン**
コンプレッサーのオン/オフを切り替えます。
- ② **SCメーター**
サイドチェーンのメーターを表示します。
- ③ **COMPグラフ**
コンプレッサーの入出力特性グラフを表示します。
- ④ **GR(ゲインリダクション)メーター**
ゲインリダクション量を表示します。
- ⑤ **[Side Chain]ボタン**
サイドチェーンフィルターのオン/オフを切り替えます。
- ⑥ **[Q]テキストボックス**
Qの値を設定します。
- ⑦ **[Frequency]テキストボックス**
周波数を設定します。
- ⑧ **[Gain]テキストボックス**
ゲインを設定します。

チャンネル専用画面 > SSMCS (Sweet Spot Morphing Channel Strip)画面

9 入出力メーター

SSMCSへの入力・出力信号レベルを表示します。

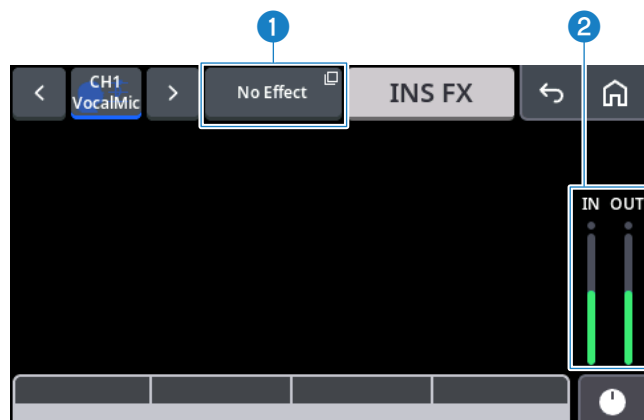
EQ画面



- ① **[EQ]ボタン**
EQのオン/オフを切り替えます。
- ② **バンド名表示**
選択中のバンド名が表示されます。タッチしてバンドのオン/オフを切り替えます。
- ③ **EQグラフ**
EQグラフを直接操作して各バンドを設定します。
- ④ **入出力メーター**
SSMCSへの入力・出力信号レベルを表示します。

INS FX画面

インサートされたエフェクトの設定をします。



① Effectメニューポップアップボタン

エフェクトタイプを選択する画面が表示されます。選択したチャンネルによって、表示されるエフェクトは異なります。エフェクト選択後は、アサインしたエフェクト名を表示します。

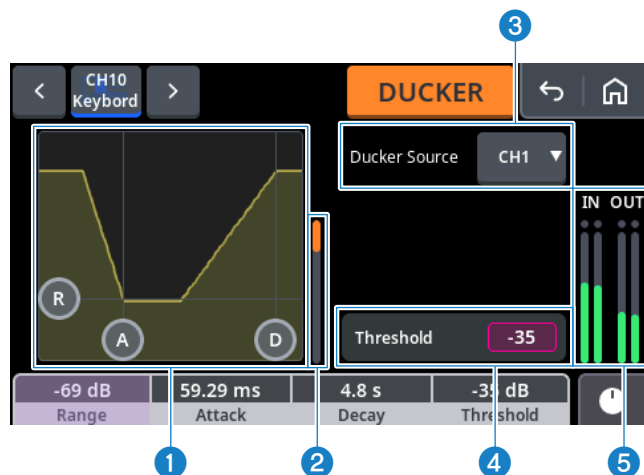
② 入出力メーター

INS FXへの入力・出力信号レベルを表示します。

お知らせ

各エフェクトのパラメーター設定の詳細については、「エフェクトリファレンスガイド」(下記URL)、エフェクトの制限については「エフェクトリスト」(209ページ)をご参照ください。
https://manual.yamaha.com/audio/music_audio_production/effect_rg/

DUCKER画面



① [DUCKER]グラフ

ダッカーの設定を視覚的に表示します。グラフを直接操作して、R(レンジ)で効果がかかっているときの減衰量、A(アタックタイム)でしきい値を超えてから減衰しきるまでの時間、D(ディケイタイム)でしきい値以下になってから元の音量に戻るまでの時間を設定します。

② GR(ゲインリダクション)メーター

ゲインリダクション量を表示します。

③ [Ducker Source]選択ボタン

ダッカーのソースを選択します。

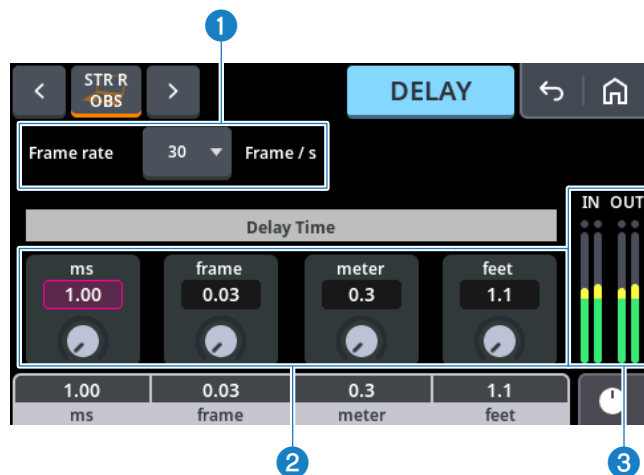
④ [Threshold]テキストボックス

スレッシュホールドを設定します。

⑤ 入出力メーター

ダッカーへの入力・出力信号レベルを表示します。

DELAY画面



- ① **[Frame rate]選択ボタン**
フレームレートを設定します。
- ② **[Delay Time]ノブ**
各単位のディレイタイムを設定します。
- ③ **入出力メーター**
ディレイへの入力・出力信号レベルを表示します。

SEND TO画面

SEND TO STEREO、SEND TO MIX、SEND TO FXの設定をします。



① センド切り替えボタン(サイドメニュー)

画面内に表示するセンド先のチャンネル(バス)を切り替えます。切り替え可能なセンド先は、センド元のチャンネルによって異なります。

センド元のチャンネル	切り替え可能なセンド先
MONO IN、ST IN、PAD	STEREO、MIX1-8、FX1-2
FX	STEREO、MIX1-8
MIX	STEREO

② [ON]ボタン

センドのオン/オフを切り替えます。

③ [PRE]ボタン

センド先のチャンネルへのセンドポイントをプリフェーダーにします。センド先がバスタイプ FIXEDのMIXチャンネル(バス)、またはSTEREOチャンネル(バス)の場合は、センドポイントがポストフェーダーで固定されるため、[PRE]ボタンは表示されません。

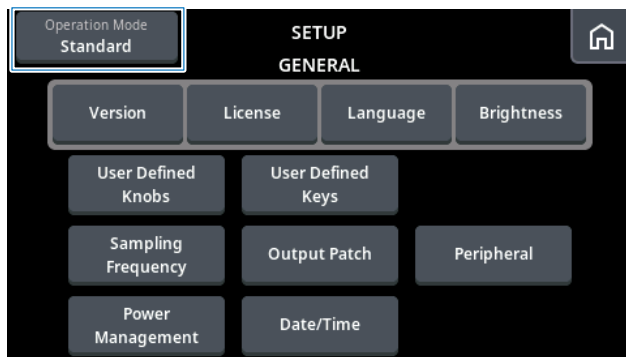
④ [Pan]スライダー

センドのパンを設定します。センド先のバスタイプがVARIで、Signal TypeがSTEREOのMIXチャンネル(バス)のときに表示/操作できます。MONO INチャンネル、ST INチャンネル、PADチャンネル、FXチャンネルからSTEREOにセンドするときにも表示/操作できます。

Simpleモード操作ガイド

Simpleモードの入り方

- 1 [SETUP]画面を開き、画面左上の[Operation Mode]をタッチします。



- 2 [Simple Mode]を選択して、[次へ]をタッチします。



3 表示された画面から、ミキサーの設定方法を選択します。



プリセット：ユースケースに合わせたデフォルト設定をすぐに呼び出して使用できます。複雑な設定を行わず、簡単にスタートしたい場合に便利です。

セットアップアシスタント：画面の案内に従って、入力機器、ヘッドホン、スピーカーなどを接続します。初めてミキサーを使う方におすすめです。

シーン：過去に保存した設定を呼び出して使用できます。

お知らせ

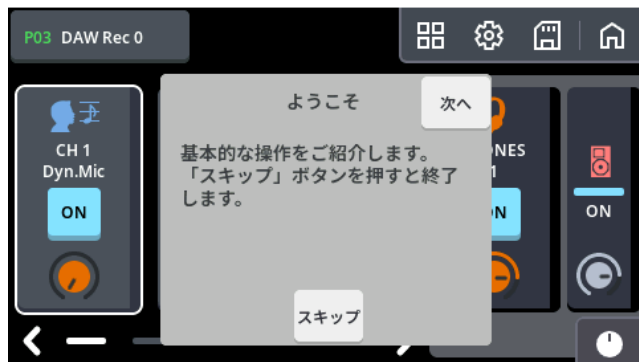
プリセットやユースケースの概要説明については、「プリセット、ユースケースの選択」(135ページ)をご覧ください。

4 画面に表示される案内に従って設定を進めます。

各画面では、必要な項目を選択または入力し、[次へ]をタッチすると次の手順に進みます。設定が完了すると、SimpleモードのHOME(Overview)画面が表示されます。

■ クイックツアー

Simpleモードでは、ミキサー画面を使うための簡単な解説(クイックツアー)が表示されます。クイックツアーは「セットアップアシスタント」または「プリセット」を選択時に毎回表示されます。



お知らせ

「シーン」選択時には表示されません。

クイックツアーの最後で[今後表示しない]を選択すると、クイックツアーが次回以降表示されなくなります。クイックツアーを再表示する場合は、メンテナンス画面で初期化が必要です(193ページ)。



プリセット、ユースケースの選択

選択メニュー画面

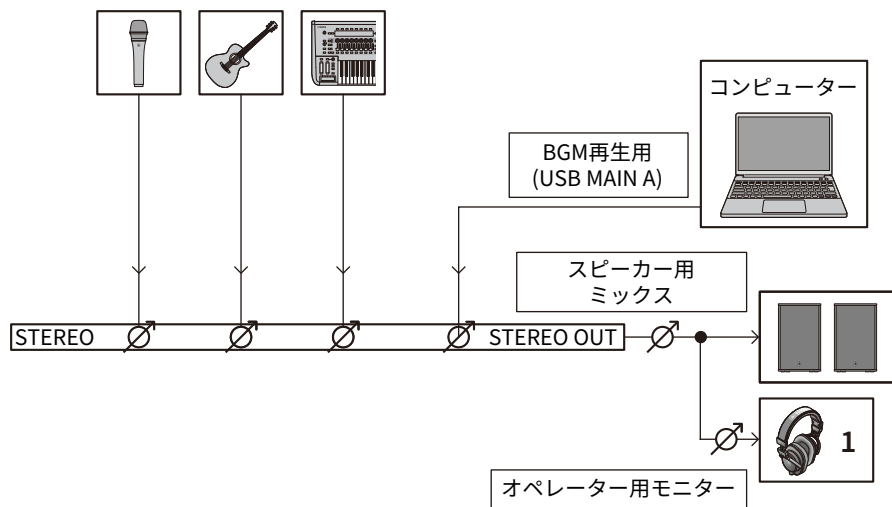
「設定の開始」で「プリセット」または「セットアップアシスタント」を選択すると、プリセットまたはユースケースの選択メニューが表示されます。各メニューの説明は次の項をご参照ください。



「ライブ音楽、イベント」の概要

店舗などでの小さな音楽ライブ、小中規模のステージで行う音楽ライブ、会場や広場でのイベントなどを想定した設定です。シンプルに音量バランスを調節できます。

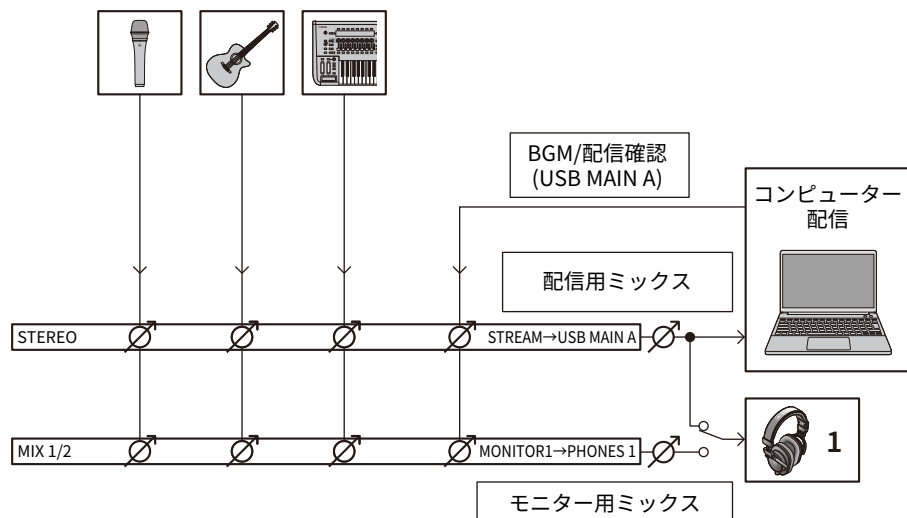
ミキサーのルーティング図



「配信」の概要

配信者が一人で行う、カラオケ配信、楽器演奏配信、雑談配信などのシンプルな配信を想定した設定です。配信者は、配信用ミックスと、ヘッドホンでのモニター用ミックスの2つの音量バランスを調節できます。

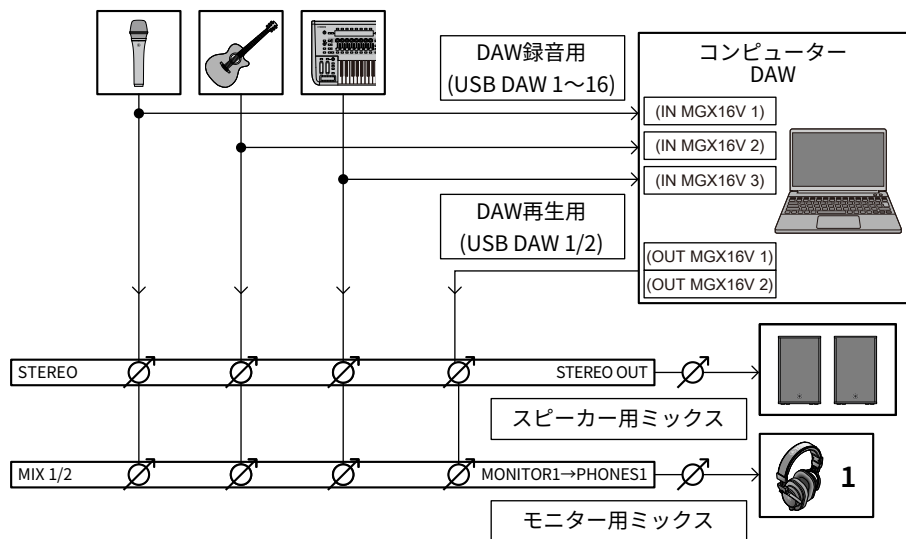
ミキサーのルーティング図



「DAW録音」の概要

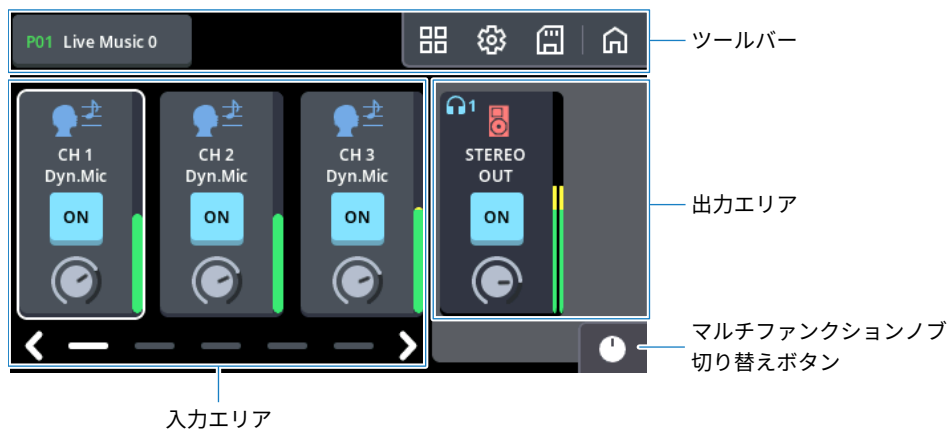
DAWを使って簡単にマルチトラック録音することを想定した設定です。マイクやギターなどの音をヘッドホンでモニターしながら、DAWへ録音します。DAWからの再生音をスピーカーに出力し、録音や編集、ミキシングの結果を確認することもできます。

ミキサーのルーティングは下図のとおりです。



Simpleモード画面

HOME(Overview)画面構成



ツールバー



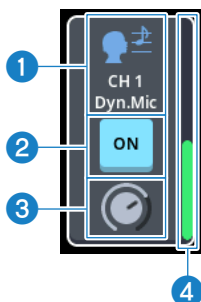
- ① [SCENE]画面を表示します。(78ページ)
- ② [SOUND PAD]画面を表示します。(82ページ)
- ③ [SETUP](設定)画面を表示します。(55ページ)
- ④ [microSD]画面を表示します。microSDの再生中/録音中は  /  が表示されます。(88ページ)
- ⑤ 各画面から[HOME]画面を表示します。

入力エリア



[ON]ボタン、レベルノブ以外をタッチしてSEL(選択)します。選択したチャンネルを再度タッチすると「チャンネルビュー画面」(147ページ)が表示されます。

■ チャンネル表示



① チャンネルネームエリア

選択したチャンネルの名前を表示します。Simpleモードでは名前の変更はできません。

② [ON]ボタン

チャンネルのオン/オフを設定します。

③ レベルノブ

ディスプレイ下のマルチファンクションノブでチャンネルのレベルを操作します。

STEREOミックスの音量バランスはトップパネルのフェーダーで設定します。画面では操作できません。

④ インプットメーター

チャンネルへの入力直後のレベルを表示します。

ステレオチャンネルの場合は、ステレオメーターで表示します。

お知らせ

- セッティングアシスタントで入力なしを選択したチャンネルは無効化されています。「+」ボタンをタッチすると、再度セッティングアシスタントを呼び出せます。



- PADチャンネル、FX1チャンネルは、エリアにタッチしても、チャンネルビュー画面に切り替わりません。

■ 表示チャンネル切り替え



[<][>]ボタンを押すと、表示中のインプットチャンネルが3チャンネルずつ切り替わります。

MGX16V, MGX16 の場合

1, 2, 3, | 4, 5, 6, | 7, 8, 9/10, | 11/12, 13/14, 15/16, | PAD, FX1, (BLANK)

MGX12V, MGX12 の場合

1, 2, 3, | 4, 5/6, 7/8, | 9/10, 11/12, PAD, | FX1, (BLANK), (BLANK)

お知らせ

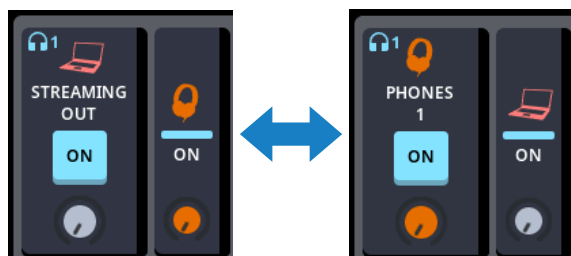
- インプットチャンネルの表示部分を左右にスワイプすることでも切り替えが可能です。
- 「-----」の各ボタンを押すことでも、インプットチャンネルの表示を切り替えることができます。

ミックス選択と出力エリア

■ ミックス選択

音量バランスを調節するミックスを選択します。調節中のミックスが左側に表示されます。

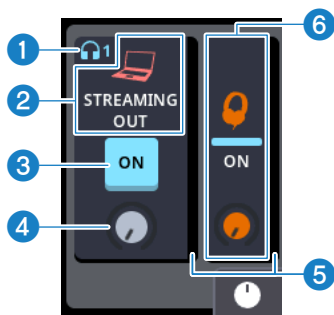
右側のミックスをタッチすると、ミックスが入れ替わります。



お知らせ

「ライブ音楽、イベント」を選択した場合は、1つのミックスしか使用しないため、調節中のミックスのみ表示されます。

■ 出力エリア



① アイコン

調節中のミックスを[PHONES 1]でモニターしていることを示します。

② 出力先アイコン/ポート名

出力先ポートのアイコンと、ポート名を表示します。

③ ONボタン

ミックス出力のオン/オフを行います。

④ レベルノブ

ディスプレイ下のマルチファンクションノブで、出力レベルを調節します。

STEREO OUTが選択されているときは、トップパネルのフェーダーで設定します。設定されたチャンネルレベルが表示されます。

⑤ アウトプットメーター

音量を調節した後の出力レベルを表示します。ステレオチャンネルの場合は、ステレオメーターで表示します。

⑥ ミックス表示

調節していない方のミックスを表示します。出力ポートのアイコン、オン/オフのインジケータ、出力レベル、出力メーターを表示します。このボタンをタッチすると、左側のミックスと入れ替わり、音量バランスを調節する対象になります。

■ マルチファンクションノブ切り替えボタン

[PHONES 1]の音量調節は、このボタンをタッチして、対象のパラメーターを操作してください。



お知らせ

マルチファンクションノブをUSER DEFINED KNOBSモードオンにしている場合、④レベルノブの操作はできません。

パラメーター操作例：「配信」ユースケース

STREAMING OUTとPHONES 1のパラメーター操作は、出力エリアのミックスをタッチして、切り替えます。

■ [STREAMING OUT]ミックスが選択されているとき

各チャンネルのフェーダーを操作してSTREAMING OUTの音量バランスを調節します。マルチファンクションノブでは操作できません。



■ [PHONES 1]ミックスが選択されているとき

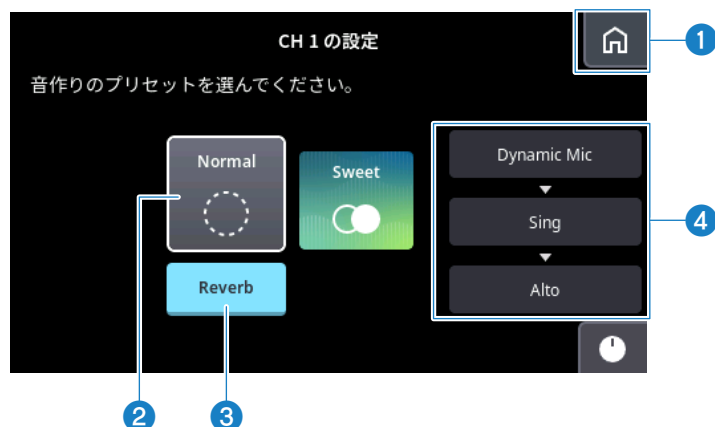
各チャンネルの[SEND]ノブを操作してPHONES1の音量バランスを調節します。マルチファンクションノブでも操作できます。各チャンネルのレベルノブがオレンジ色の状態は、PHONES1のミックスの音量バランスを調節していることを示します。



お知らせ

配信用のSTREAMING OUTミックスと、ヘッドホンでのモニター用のPHONES 1ミックスの2つの音量バランスをそれぞれ柔軟に調節できます。例えば、カラオケ配信の際に、CH1マイク入力音をSTREAMING OUTミックスには大きくし、PHONES 1ミックスには小さめにする、といった音量調節ができます。

チャンネルビュー画面



1 (HOME)ボタン

SimpleモードのHOME(Overview)画面に戻ります。

2 メインエリア

音声を入力しながら音色を選択します。アイコンをスワイプすることで音色を変えることができます。選択されている音色は白枠で表示されます。

お知らせ

- 同じ音色でも、4 チャンネル設定エリアの選択値によって音が変わります。
- DAWモードでは、入力した音をそのままDAWに送るため、音色が[Dry]のみになります。リバーブボタンも無効化されます。



③ [Reverb]ボタン

リバーブをオン/オフします。水色がオンです。

お知らせ

- リバーブ全体の強さは、SimpleモードのHOME(Overview)画面(139ページ)の[FX 1 Reverb] を選択した状態で、マルチファンクションノブを使って調節します。
- 選択した音色によっては自動的にリバーブがオンになるものもあります。

④ チャンネル設定エリア

各ボタンをタッチすると、接続や使い方の再設定をする画面が表示されます。

画面例



音に関する操作

HOME画面(Overview)からゲートを操作する

- 1** Overviewから、ゲートを設定したいチャンネルを選択し、チャンネルインジケーターエリアにタッチして、チャンネルビューにします。
- 2** [GATE]ボタンをタッチして、ゲートをオンにします。
- 3** ゲートの値を調節する場合は、[GATE]エリアをタッチし、表示されるGATE画面で設定します。

関連リンク

「GATE画面」(117ページ)

HOME画面(Overview)からコンプレッサーを操作する

- 1** Overviewからコンプレッサーを設定したいチャンネルを選択し、チャンネルインジケーターエリアにタッチして、チャンネルビューにします。
- 2** [COMP]ボタンをタッチして、コンプレッサーをオンにします。
- 3** コンプレッサーの値を調節する場合は、[COMP]エリアをタッチし、表示されるCOMP画面で設定します。

関連リンク

「COMP画面」(118ページ)

HOME画面(Overview)からゲインを操作する

- 1** Overviewから、ゲインを設定したいチャンネルを選択し、チャンネルインジケータエリアにタッチして、チャンネルビューにします。
- 2** INPUT(インプット)エリアを選択します。
- 3** 表示されたINPUT画面で、[A.Gain]/[D.Gain]ノブを使ってゲインの値を調節します。

関連リンク

「INPUT画面」(114ページ)

HOME画面(Overview)からEQを操作する

- 1** Overviewから、EQを設定したいチャンネルを選択し、チャンネルインジケーターエリアにタッチして、チャンネルビューにします。
- 2** [EQ]ボタンをタッチして、EQをオンにします。
- 3** EQの値を調節する場合は、EQグラフエリアにタッチし、表示されるEQ画面で設定します。

関連リンク

「EQ画面」(120ページ)

HOME画面(Overview)からインサートを操作する

- 1** Overviewから、エフェクトを設定したいチャンネルを選択し、チャンネルインジケーターエリアにタッチして、チャンネルビューにします。
- 2** INS FXエリアをタッチしてINS FX画面を表示します。
- 3** Effectメニューポップアップボタンをタッチして、エフェクト選択画面を表示し、インサートしたいエフェクトを選択します。
- 4** エフェクトパラメーターを操作する場合は、エフェクトエリアにタッチし、パラメーター設定画面で設定します。

インサートできるエフェクトについては「エフェクトリスト」をご参照ください。

関連リンク

- ・「エフェクトリスト」(209ページ)
- ・「INS FX画面」(128ページ)

HOME画面(Overview)からSSMCSを操作する

- 1 Overviewから、SSMCSを設定したいチャンネルを選択し、チャンネルインジケータエリアにタッチして、チャンネルビューにします。**

お知らせ

SSMCSが表示されていない場合は、画面左上のチャンネル設定画面表示ボタンをタッチして、チャンネル設定画面を表示し、[COMP/EQ]の設定を[COMP->EQ]から[SSMCS]に切り替えてください。[]をタッチすると、チャンネルビューに戻ります。

- 2 [SSMCS]ボタンをタッチし、SSMCSをオンにします。**
- 3 SSMCSの値を調節する場合は、SSMCSエリアにタッチし、表示されるSSMCS画面で設定します。**

関連リンク

- ・「チャンネル設定画面」(105ページ)
- ・「SSMCS (Sweet Spot Morphing Channel Strip)画面」(122ページ)

HOME画面(Overview)からダッカーを操作する

- 1** Overviewから、ダッカーを設定したいチャンネルを選択し、チャンネルインジケーターエリアにタッチして、チャンネルビューにします。
- 2** [DUCKER]ボタンをタッチし、DUCKERをオンにします。
- 3** DUCKERの値を調節する場合は、DUCKERエリアにタッチし、表示されるDUCKER画面で設定します。

関連リンク

「DUCKER画面」(129ページ)

HOME画面(Overview)からディレイを操作する

- 1** Overviewから、STREAMINGチャンネルを選択し、チャンネルインジケーターエリアにタッチして、チャンネルビューにします。
- 2** [DELAY]ボタンをタッチし、DELAYをオンにします。
- 3** DELAYの値を調節する場合は、DELAYエリアにタッチし、表示されるDELAY画面で設定します。

関連リンク

「DELAY画面」(130ページ)

HOME画面(Overview)からSEND TOを設定する

- 1** Overviewから、SEND TOを設定したいチャンネルを選択し、チャンネルインジケーターエリアにタッチして、チャンネルビューにします。
- 2** [SEND TO]ボタンをタッチし、表示されるSEND TO画面で設定します。

関連リンク

「SEND TO画面」(131ページ)

その他の操作

シーンをストアする

- 1** SCENE画面→[Scene List](シーンリスト)から、保存したい番号のスロットを選択します。
- 2** [Store]ボタンをタッチして、シーンタイトル入力画面を表示します。
- 3** 表示された画面に、任意のタイトル名を入力し[OK]ボタンをタッチします。
- 4** 確認画面が表示されたら、[OK]をタッチしてシーンをストアします。

関連リンク

「SCENE画面」(78ページ)

シーンをリコールする

- 1** SCENE画面→シーンリストから、リコールしたい番号のロットを選択します。
- 2** [Recall]ボタンをタッチして、シーンをリコールします。

関連リンク

「SCENE画面」(78ページ)

シーンを削除する

- 1** SCENE画面→シーンリストから、削除したい番号のロットを選択します。
- 2** サイドメニューで、[Edit]を選択します。
- 3** シーンリストから、削除したい番号のロットを選択します。
- 4**  をタッチして、表示されたダイアログで[OK]をタッチしてシーンを削除します。

関連リンク

「SCENE画面」(78ページ)

シーンタイトルを変更する

- 1** SCENE画面→シーンリストから、編集したい番号のスロットを選択します。
- 2** サイドメニューで、[Edit]を選択します。
- 3** シーンリストから、編集したい番号のスロットを選択します。
- 4**  をタッチし、表示された画面で新しいタイトル名を入力後、[OK]ボタンをタッチしてシーンタイトルを変更します。

関連リンク

「SCENE画面」(78ページ)

microSDカードに録音する

- 1 ツールバーから、 をタッチし、表示された画面で[Recorder]をタッチします。
- 2 表示された一覧から[Source]をタッチして、チャンネルごとに録音したいソースを選択します。
- 3 [](Rec)ボタンをタッチして、録音待機状態にします。待機状態になると [] ボタンが点滅します。
- 4 [](Play/Pause)ボタンをタッチして、録音を開始します。録音中は、録音時間が表示され、カウンターが進みます。
- 5 録音を終了する場合は、[](Stop)ボタンをタッチします。作成した録音データには、自動でファイル名が付きます。

お知らせ

録音中に[]ボタンをタッチして、録音を一時停止できます。一時停止中は[]ボタンが赤色になります。

関連リンク

「microSD画面」(88ページ)

microSDカードに録音した音声を再生する

- 1** ツールバーから、 をタッチし、表示された画面で[Recorder]をタッチします。
- 2** サイドメニューから[Play]をタッチします。
- 3** 再生可能ファイルリストから、再生したいファイルを選択します。
- 4** [Play/Pause]ボタンをタッチして、ファイルを再生します。

お知らせ

- ファイルを再生中に、[TOUCH AND TURN]ノブを押して他のファイルを選択すると、再生中のファイルを停止します。その後、選択されたファイルが再生されます。
- 再生中のファイルを選択した状態では、ノブを押すたびに、再生/一時停止を繰り返します。

関連リンク

「microSD画面」(88ページ)

モニター機能を使用する

- 1** トップパネルのOMNI OUT端子にモニターシステムを接続します。
- 2** ツールバーにある  をタッチし、MONITOR画面の[Monitor]メニューから操作します。
- 3** サブメニューの[Setting]で、Source からモニターソースを選択します。
- 4** モニターを有効にするには、[ON]ボタンをタッチします。
- 5** ノブを使用してモニターレベルを調節します。

関連リンク

「Monitorメニュー」(73ページ)

PHONESを使用する

- 1** ツールバーにある  をタッチし、MONITOR画面の[Phones]メニューから操作します。
- 2** PHONESのソースをMONITOR1～4で確認します。
PHONESのソースはMONITOR1～4から出力されます。
- 3** ノブを使用してモニターレベルを調節します。

関連リンク

「Phonesメニュー」(75ページ)

オシレーターを使用する

スピーカーへの出力の確認や、ラインチェックに使用します。

- 1 ツールバーにある  をタッチし、MONITOR画面の[Oscillator]メニューから操作します。**
- 2 Oscillator Modeで再生したいモードを選択します。**
モードによって周波数などの設定ができます。

お知らせ

オシレーターの出力先は、サブメニューの[Assign]で任意のチャンネルをアサインできます。

- 3 [ON]ボタンをタッチすると出力されます。**
- 4 ノブを使用してオシレーターレベルを調節します。**

関連リンク

「Oscillatorメニュー」(76ページ)

キュー機能を使用する

HOME画面(Overview)や、チャンネル専用画面の[CUE]ボタンを使って、キュー信号をモニターする方法を説明します。

- 1** [Monitor]メニューの[Setting]から[CUE Interrupt]をオンにします。
- 2** HOME画面(Overview)やチャンネル専用画面の[CUE]ボタンをタッチして、[CUE]をオンにします。

お知らせ

HOME画面(Overview)では、[CUE]がオンのとき、CUEインジケーターが表示されCUEバスのメーターを表示します。このときメーターエリアにタッチするとすべての[CUE]をオフにできます。

関連リンク

- 「メインエリア」(49ページ)
- 「Monitorメニュー」(73ページ)

SOUND PAD(サウンドパッド)を使用する

サウンドパッドに録音する

- 1 ツールバーの  をタッチし、表示されたメニューの[Pad Record]をタッチします。
- 2 録音したいPad番号をタッチすると録音メニュー画面が表示されます。
- 3 録音準備
[](Rec)ボタンをタッチすると、ボタンが点滅し録音準備状態になります。
録音準備を解除するときは、[](Stop)ボタンをタッチします。
- 4 録音開始
[](Play)ボタンをタッチすると、[]ボタンが点灯し、録音が始まります。
[]ボタンをタッチすると、録音が終了します。[]ボタンをタッチしなくても、録音可能時間が経過すると、録音は自動で終了します。
- 5 録音終了と保存
録音が終了したら、[Apply]ボタンをタッチしてデータを保存します。
録音データを破棄して録音準備状態に戻すときは、[Cancel]ボタンまたは  をタッチします。
- 6 録音したデータの調節
必要に応じて、録音したデータの長さをDevice Centerで調節します。データの最初や最後の無音部分を削除したりするのに便利です。詳細は「サウンドパッドの設定をする」(171ページ)をご参照ください。

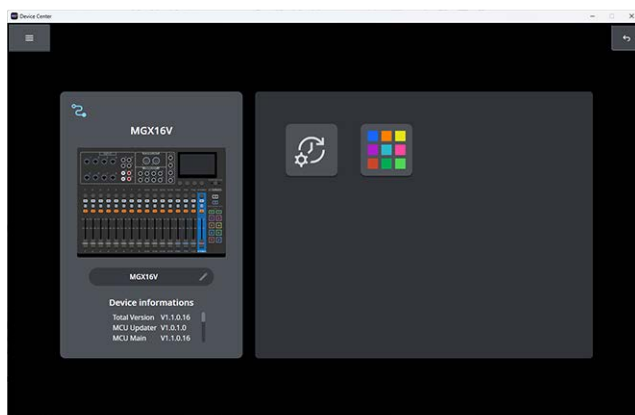
お知らせ

- STEREOチャンネルの音声(フェーダーなどを通過した後)をモノラルに変換して録音します。
- 録音可能時間は、データサイズを固定しているため、サンプリング周波数によって異なります。
 - ・ 44.1 kHz/48 kHz: 約10秒
 - ・ 88.2 kHz/96 kHz: 約5秒

オーディオファイルをサウンドパッドに割り当てる

Device Centerを使用すると、コンピューターに保存されているオーディオファイルを読み込み、本体のSOUND PAD [1]～[8]に割り当てられます。

- 1 本製品と、TOOLS for MGX/URXをインストールしたコンピューターが、USBケーブルで接続されていることを確認します。**
- 2 Device Centerを起動し、デバイスリスト画面を表示します。**
以下の手順でDevice Centerを起動し、デバイスリスト画面を表示します。
 - Windows: タスクバーの通知領域、スタートメニューまたはデスクトップのショートカットからDevice Centerを起動
 - Mac: アプリケーションフォルダー、Spotlight、またはLaunchpadからDevice Centerを起動
- 3 Device Centerのデバイスリスト画面で、オーディオファイルを割り当てたいMGXを選択します。**
- 4  (Sound Pad Editor)をクリックします。**



- 5 画面上部で、オーディオファイルを割り当てたいパッドを選択します。**



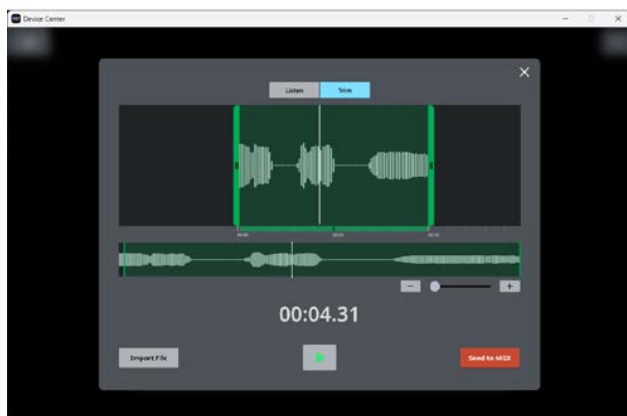
- 6 Sound Pad Editor画面下部の  (波形)フィールドをクリックします。**

その他の操作 > SOUND PAD(サウンドパッド)を使用する

7 [Import File]をクリックして、割り当てたいオーディオファイルを選択します。

8 必要に応じて、オーディオファイルの長さを調節します。

[Trim]タブを開き、左右のハンドルを操作するとオーディオファイルの長さを調節できます。調節した結果は[▶]をクリックして確認できます。



9 [Send to MGX]をクリックし、本体にデータを送信します。

お知らせ

- データの送信中はMGX本体のSOUND PAD[1]～[8]の操作はできません。
- 割り当てられるオーディオファイルの形式はwav、flac、mp3です。
- 保存できるデータは、MGX本体のサンプリング周波数に依存します。
MGX本体には、最大約10秒の16ビット44.1 kHz、48 kHz、または最大約5秒の88.2 kHz、96 kHzモノラルのリニアPCMのデータで保存されます。
- 上記のデータの長さを超えるオーディオファイルは読み込めません。

ご注意

- データの送信中は本製品の電源をオフにしたり、Device Centerを終了したり、USBケーブルを抜いたりしないでください。

サウンドパッドの設定をする

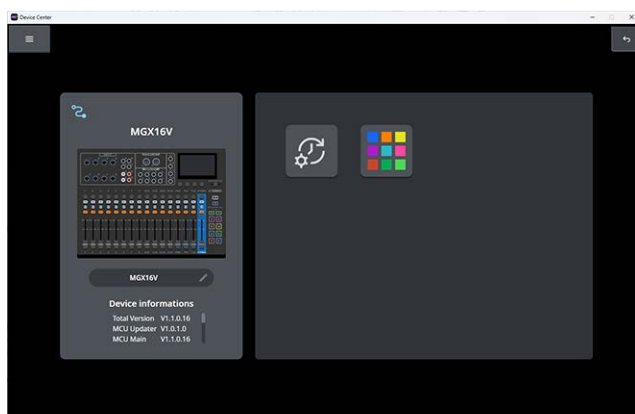
本体またはDevice Centerから、サウンドパッドの設定をします。

■ 本体で設定する

- 1 ツールバーの  をタッチし、表示されたメニューの[Pad Setting]をタッチします。
- 2 設定したいPad番号をタッチします。
- 3 選択したパッドの設定をします。
設定内容は「Pad Settingメニュー」(84ページ)をご参照ください。

■ Device Centerで設定する

- 1 本製品と、TOOLS for MGX/URXをインストールしたコンピューターが、USBケーブルで接続されていることを確認します。
- 2 Device Centerを起動し、デバイスリスト画面を表示します。
以下の手順でDevice Centerを起動し、デバイスリスト画面を表示します。
 - Windows: タスクバーの通知領域、スタートメニューまたはデスクトップのショートカットからDevice Centerを起動
 - Mac: アプリケーションフォルダー、Spotlight、またはLaunchpadからDevice Centerを起動
- 3 Device Centerのデバイスリスト画面で、サウンドパッドの設定をしたいMGXを選択します。
- 4  (Sound Pad Editor)をクリックします。

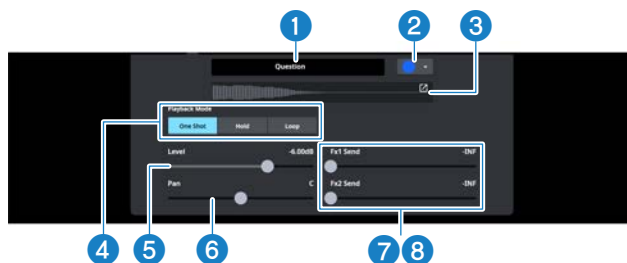


その他の操作 > SOUND PAD(サウンドパッド)を使用する

5 画面上部で、設定したいパッドを選択します。



6 画面下部で、パッドの設定をします。



① パッド表示名

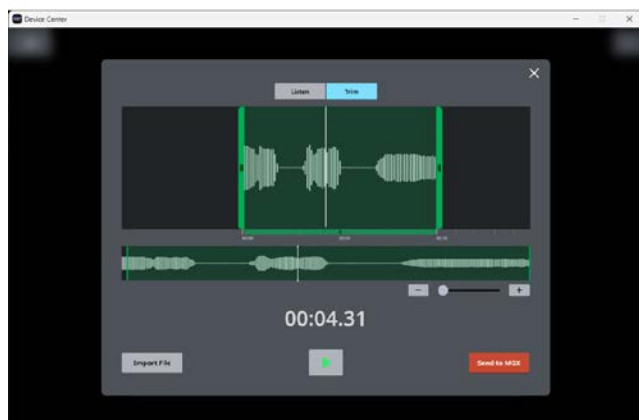
パッドに表示される名前を設定します。

② パッド色選択

パッドの色を選択します。

③ パッドの編集

オーディオファイルの割り当て、オーディオデータの長さの調節ができます。クリックすると編集画面が開きます。



その他の操作 > SOUND PAD(サウンドパッド)を使用する

④ [Playback Mode]

パッドの再生方法を選択します。

再生方法のモード

[One Shot]: ボタンをタッチするたびに、データを先頭から1回再生します。

[Hold]: ボタンをタッチしている間、データを繰り返し再生します。ボタンを離すと停止します。

[Loop]: ボタンをタッチすると、データを繰り返し再生します。もう一度押すと停止します。

⑤ [LEVEL]

パッドの音量を設定します。

⑥ [PAN]

パッドの左右の定位を設定します。

⑦⑧ [FX1、FX2 Send]

パッドからFX1、FX2へのセンド量を設定します。

お知らせ

③以外の設定内容は「Pad Settingメニュー」(84ページ)と同じです。

サウンドパッドの音源を再生する

- 1 ツールバーの  をタッチし、表示されたメニューの[Pad Play]をタッチします。
- 2 再生したいPad番号をタッチして、音声を再生します。
音声の再生方法は設定したモードにより異なります。再生方法の設定については、「Pad Settingメニュー」(84ページ)をご参照ください。

再生方法のモード

[One Shot]: ボタンをタッチするたびに、データを先頭から1回再生します。

[Hold]: ボタンをタッチしている間、データを繰り返し再生します。ボタンを離すと停止します。

[Loop]: ボタンをタッチすると、データを繰り返し再生します。もう一度押すと停止します。

お知らせ

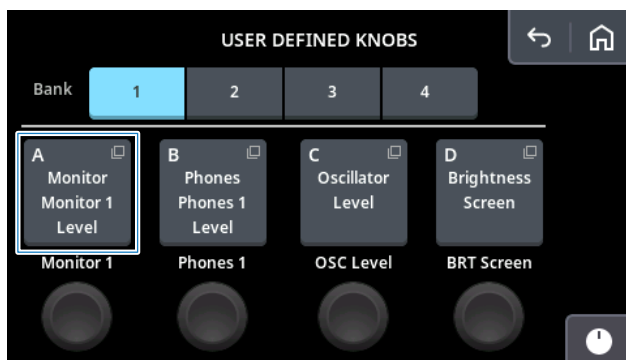
User DefinedキーにSound Padを割り当てると、トップパネルのボタンを直接押してSound Padの音源を再生できます。詳細は「User Definedキーに機能をアサインする」(177ページ)をご参照ください。

関連リンク

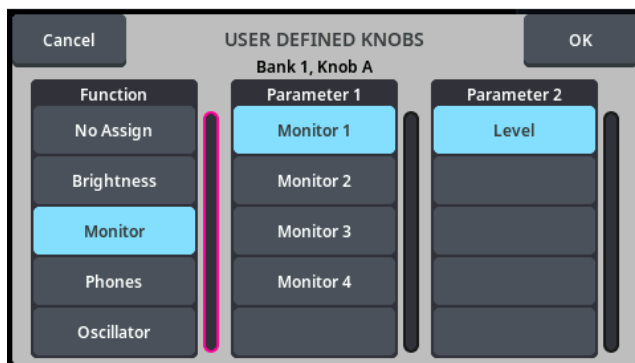
「SOUND PAD画面」(82ページ)

User Definedノブに機能をアサインする

- 1 ツールバーの  をタッチして、表示されたメニューの[User Defined Knobs]をタッチします。
- 2 [Bank]から、設定したいバンク番号をタッチします。
- 3 選択したバンクのノブID (A~D)が表示されたら、設定したいノブIDをタッチします。



- 4 表示された画面で、アサインする機能を選択します。設定が完了したら、[OK]ボタンをタッチしてダイアログを閉じてください。



選択したFunction(機能)名とParameter(パラメーター)名は、USER DEFINED KNOBSモードをオンにすると、略記で画面下部に表示されます。

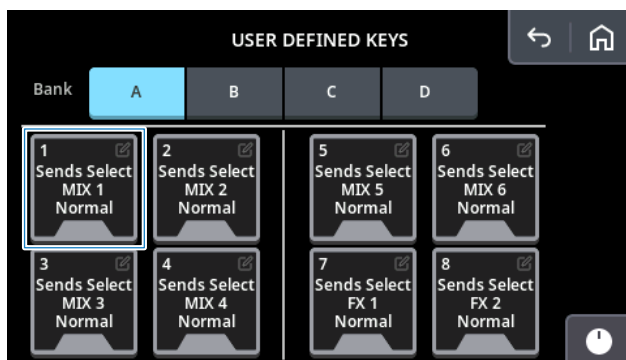


その他の操作 > User Defined ノブに機能をアサインする

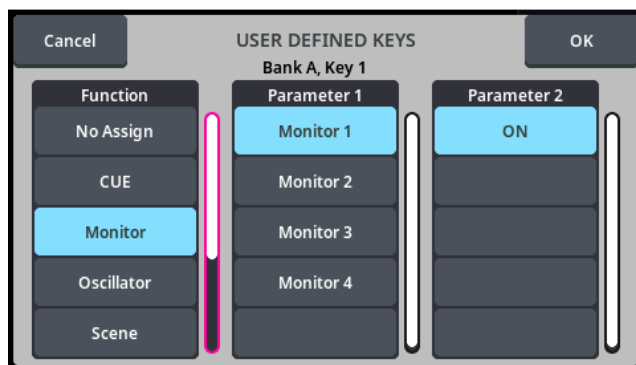
5 同様の手順でノブID(B～D)に機能を設定します。

User Definedキーに機能をアサインする

- 1 ツールバーの  をタッチし、表示されたメニューの[User Defined Keys]をタッチします。
- 2 [Bank]から、設定したいバンク記号をタッチします。
- 3 選択したバンクのボタン1～8が表示されたら、設定したいボタン番号をタッチします。



- 4 表示された画面で、アサインする機能を選択します。設定が完了したら、[OK]ボタンをタッチしてダイアログを閉じてください。



- 5 同様の手順でボタン1～8に機能を設定します。

ファームウェアをアップデートする

1 本製品と、TOOLS for MGX/URXをインストールしたコンピューターが、USBケーブルで接続されていることを確認します。

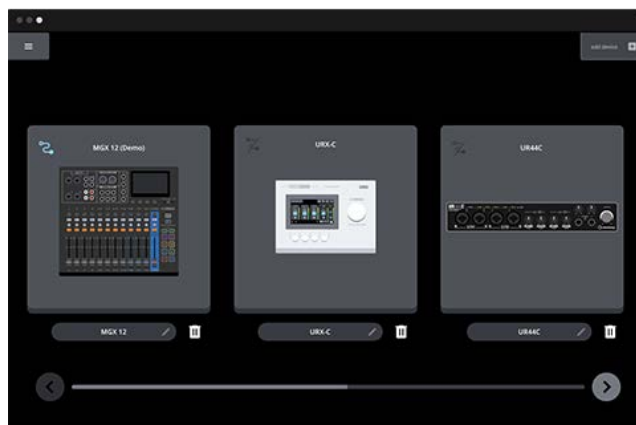
2 Device Centerのデバイスリスト画面を表示します。

本製品のファームウェアをアップデートするには、デバイス設定ソフトウェアDevice Centerを使用します。Device CenterはTOOLS for MGX/URXに含まれています。

以下の手順でDevice Centerを起動し、デバイスリスト画面を表示します。

- Windows: タスクバーの通知領域、スタートメニューまたはデスクトップのショートカットからDevice Centerを起動
- Mac: アプリケーションフォルダー、Spotlight、またはLaunchpadからDevice Centerを起動

3 Device Centerのデバイスリスト画面で、ファームウェアをアップデートしたいMGXを選択します。



4 選択したMGX以外のヤマハ製品をコンピューターから取り外します。

その他の操作 > ファームウェアをアップデートする

5 [](ファームウェアアップデート)をクリックします。



6 画面の指示に従って、ファームウェアアップデートを実行します。

7 アップデートの完了を示す画面が表示されたら、[Close]をクリックします。

以上で、ファームウェアのアップデートは完了です。

Software Integration機能を使用する

準備 (DAW Integration)

DAW Integrationは、DAWソフトウェアと入出力、ルーティングを連携することで、ソフトウェアから本製品を制御できる機能です。DAW Integrationの対応ソフトウェアはSteinberg Cubase、Nuendo、MixKeyです。この機能を使えば、ハードウェアミックスによるレイテンシーのない快適なモニター環境を構築できます。

DAW Integration機能を使用するためには、次の3つの準備が必要です。必要に応じて準備してください。

- **TOOLS for MGX/URXのインストール**(23ページ)

TOOLS for MGX/URX V1.1.0以降がインストールされている必要があります。バージョンが古い場合は、最新バージョンをインストールしてください。

- **本製品のファームウェアのアップデート**(178ページ)

最新のファームウェアにアップデートしてください。

- **対応ソフトウェアのインストール**

TOOLS for MGX/URX V1.1.0以降がインストールされたコンピューターに、Steinberg Cubase、NuendoまたはMixKeyをインストールします。各ソフトウェアの案内は、次のURLをご覧ください。

- Cubase/Nuendo : <https://www.yamaha.com/2/mgx-software-1/>
- MixKey : <https://www.steinberg.net/mixkey/>

DAW Integration設定手順

- 1 本体の[USB MAIN]端子に、対応ソフトウェアをインストールしたコンピューターを接続します。
- 2 対応ソフトウェアを起動します。
- 3 ソフトウェアで、ドライバーを下記のように選択します。

Windows

[Yamaha Steinberg USB ASIO]を選択

Mac

[Yamaha MGXxxx DAW]または[Yamaha MGXxxx DAW (High Precision)]を選択

本体とソフトウェアが連携され、DAW Integrationの画面が表示されます。



- 4 ソフトウェアを操作して本体の設定をします。
ソフトウェアでの設定方法や連携機能については、「DAWとの連携」(183ページ)をご参照ください。

お知らせ

DAW Integration動作時の制限について

Standardモード時と異なり、主に次の機能が使用できなくなります。

- 本体トップパネルのフェーダー、[ON]キー(ON固定)、[CUE]キーなど
- Stereoバス、STEREOチャンネル
- SCENE(シーン)機能
- microSDのレコーダー機能
- サウンドパッドの録音機能
- 対応ソフトウェアのダイレクトモニタリングがオンの場合：MONO IN対象チャンネルからMIXバスへのセンドは、ソフトウェアから操作します。本体では下記画面が表示され、操作できなくなります。



■ DAW Integration動作時の信号の流れについて

DAWソフトウェアからの信号はMIXバス、FXバスに直接接続されます。各チャンネルの入力ソースではUSB DAWが選択できなくなります。

DAWアプリで見える信号名がどのバスに接続されているかは、「ブロックダイアグラム」(218ページ)をご参照ください。

■ DAW Integrationの解除

ソフトウェアを終了した場合や、コンピューターとの通信が途絶した場合は、DAW Integrationが自動的に解除され、Standardモードに戻ります。

DAWとの連携

Cubaseシリーズ専用画面

本体の設定をCubaseシリーズから操作するための画面です。入力設定画面とハードウェア設定画面の2つがあります。



入力設定画面



ハードウェア設定画面

画面の開き方

入力設定画面

Cubaseシリーズのメニューから、[プロジェクト] → [トラックを追加] → [Audio]でオーディオトラックを作成し、画面左側のインスペクターに表示される[MGXxxx]タブをクリックします(xxxにはお使いのモデル名が入ります)。

ハードウェア設定画面

Cubaseシリーズのメニューから

[スタジオ] → [スタジオ設定]を開き、左側の[Steinberg I/O]で[Yamaha MGX/URX]を選択します。

入力設定画面

ヘッダーエリア

接続された機器名を表示します。

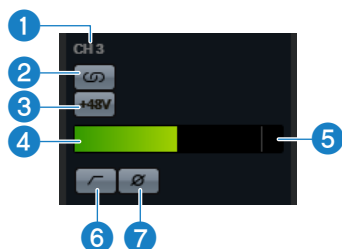


① モデル

操作対象のモデル名(MGXxxx)を表示します。クリックすると入力設定画面の表示/非表示が切り替わります。

ハードウェア入力設定エリア

本体のインプットに関連するパラメーターを設定します。



① ポートネーム

入力バスのデバイスポート名を表示します。

② ステレオリンク

隣り合った2つのチャンネル(CH1/2、CH3/4など)の動作モードを設定できます。オンのときはステレオリンク(STEREO)となり、オフのときは独立した2チャンネル(MONO×2)となります。

③ [+48V]

+48Vのオン/オフを切り替えます。

④ インプットメーター

入力レベルを表示します。

⑤ クリップインジケータ

入力信号がクリップすると点灯します。クリックすると消灯します。

⑥ ハイパスフィルター

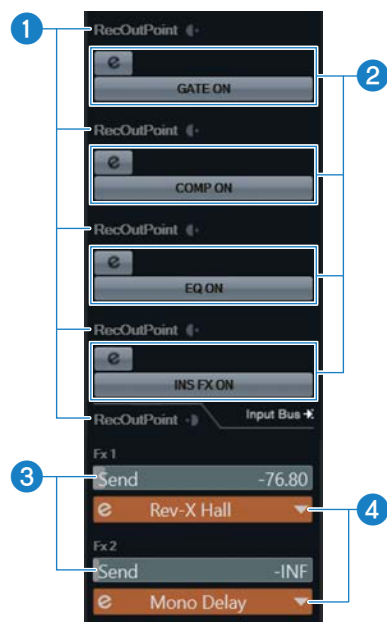
HPF(ハイパスフィルター)のオン/オフを切り替えます。

⑦ フェーズ

信号の位相反転(180°)のオン/オフを切り替えます。ステレオの場合はLRを表示します。

チャンネルストリップ設定エリア

本体のチャンネルストリップ(チャンネルの信号処理)に関するパラメーターを設定します。



① RecOutPoint

チャンネルのダイレクト録音信号の取り出しポイントを選択します。アイコンをクリックすると取り出しポイントが切り替わります。

② エフェクトのオン/オフ切り替え、設定

エフェクト(GATE、COMP、EQ、SSMCS、INS FX)のオン/オフを切り替えます。

[] ボタンをクリックすると、エフェクトの設定画面が開きます。

COMPとEQは、本体のCOMP/EQ設定がCOMP->EQの場合に表示されます。

SSMCSは、本体のCOMP/EQ設定がSSMCSの場合に表示されます。

③ FX1/FX2センド

FX1/FX2に送る信号の量(エフェクトのかかり具合)を調節します。

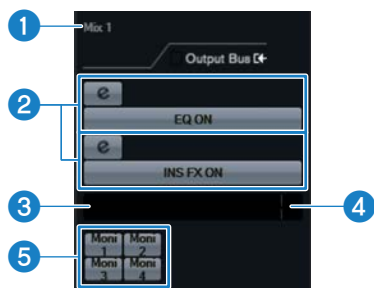
範囲: -∞ dB～+10.00 dB

④ FX1/FX2エフェクト選択、設定

FX1/FX2のエフェクトを選択します。[]ボタンをクリックすると、選択したエフェクトの設定画面が開きます。

アウトプットエリア

本体のアウトプットチャンネルに関連するパラメーターを設定します。



① Mix Busネーム

本体のハードウェアMix Busを表示します。このMix Busには、トラックの出力バスが接続されている必要があります。

② エフェクトのオン/オフ切り替え、設定

エフェクト(EQ、INS FX)のオン/オフを切り替えます。

[]ボタンをクリックすると、エフェクトの設定画面が開きます。

③ アウトプットメーター

トラックの出力バスが接続された本体のMIXチャンネルのメーターを表示します。

④ クリップインジケーター

入力信号がクリップすると点灯します。クリックすると消灯します。

⑤ モニター(Monitor)セレクトボタン

信号を出力するモニターを1～4の中から選択します。

■ ダイレクトモニタリング機能の設定

ダイレクトモニタリングをオンにすることで、レイテンシーのないモニタリング環境が構築できます。以下の方法で設定できます。

Windows

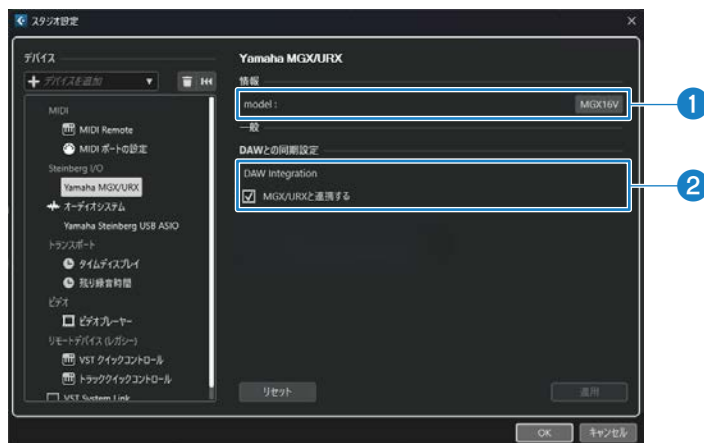
Cubaseシリーズのメニューから、[スタジオ] → [スタジオ設定] → [Yamaha Steinberg USB ASIO] → [ダイレクトモニタリング]にチェックを入れる → [OK]

Mac

Cubaseシリーズのメニューから、[スタジオ] → [スタジオ設定] → [Yamaha MGXxxx DAW] または [Yamaha MGXxxx DAW (High Precision)] → [ダイレクトモニタリング]にチェックを入れる → [OK]

ハードウェア設定画面

本体の設定やCubaseとの連携機能に関わる設定、情報を表示します。



1 model

接続しているモデル名を表示します。

2 DAW Integration

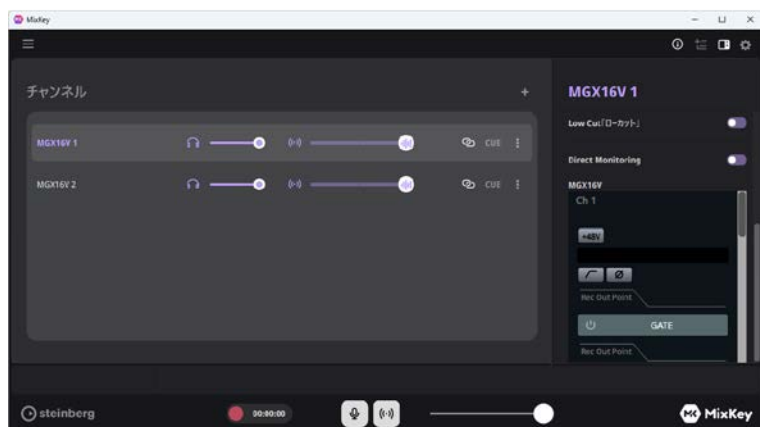
チェックが入っているときは、DAW Integration拡張機能が有効になります。チェックを外すと拡張機能が無効になり、次回起動時からCubaseとの連携ができなくなります。

お知らせ

その他Cubaseシリーズの詳しい使い方は、Cubaseシリーズの取扱説明書をお読みください。

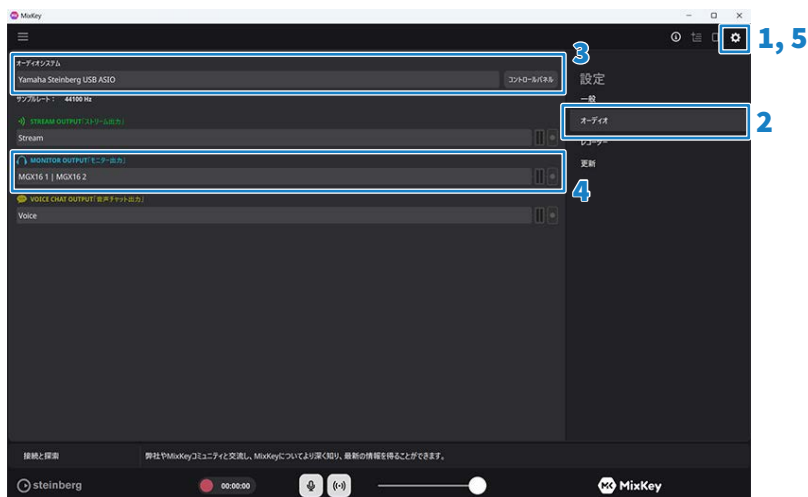
MixKeyチャンネルエディター

MixKeyアプリのチャンネルエディターを使うと、本体のパラメーターをMixKeyアプリから設定できます。



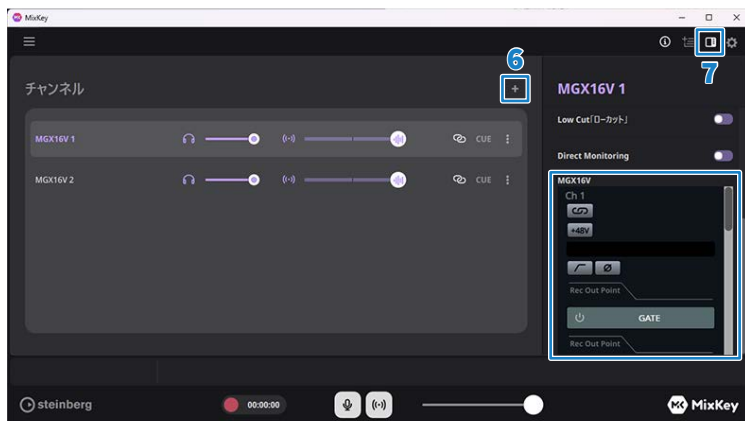
画面の開き方

- 1  をクリックして、ミキサー/設定画面を開きます。
- 2 [設定]から[オーディオ]をクリックします。
- 3 [オーディオシステム]でドライバーを下記のように選択します。
Windows
[Yamaha Steinberg USB ASIO]を選択
Mac
[Yamaha MGXxxx DAW]または[Yamaha MGXxxx DAW (High Precision)]を選択
- 4 [MONITOR OUTPUT「モニター出力」]でASIO Output Devices のMGXモデルのポートを選択します。
- 5  をクリックして、ミキサー/設定画面を閉じます。



- 6  をクリックして、サウンド入力ソースを追加します。ソースには、Yamaha Steinberg USB ASIO(Windows)またはYamaha MGXxxx DAW/Yamaha MGXxxx DAW (High Precision)(Mac)からMGXモデルのポートを選択します。

- 7** をクリックして、チャンネルエディターを開きます。
チャンネルエディターの右下に本体の入力設定画面が表示されます。



表示される設定画面は、Cubaseシリーズの「入力設定画面」(185ページ)と同じです。
MixKeyにはCubaseシリーズのハードウェア設定画面に相当する画面はありません。

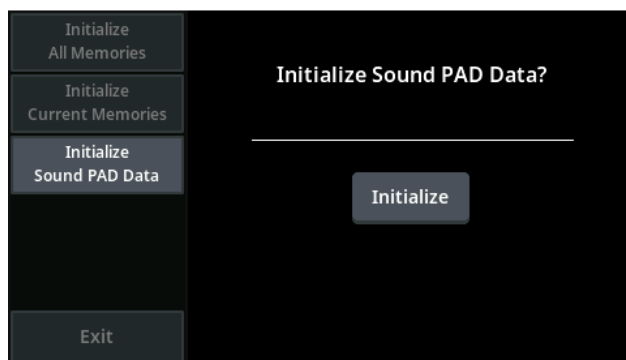
工場出荷時の状態に戻す

本体を初期化する

お知らせ

工場出荷時の状態に戻すと、本体に保存した内容がすべて消えてしまうので、慎重に判断してください。

- 1 [HOME]キーを押した状態で電源を入れます。または、一番右のマルチファンクションノブを押した状態で電源を入れます。
- 2 初期化画面が表示されたら、画面左から実行するメニューを選択して、[Initialize]ボタンをタッチします。



[Initialize All Memories]

Sound Padの再生データを除く、すべてのメモリーを工場出荷時の状態に戻します。

[Initialize Current Memories]

シーンメモリー、Sound Padの再生データを除くカレントメモリーを工場出荷時の状態に戻します。

[Initialize Sound Pad Data]

Sound Padの再生データのみを工場出荷状態に戻します。

- 3 実行を確認するダイアログが表示されたら、[OK]をタッチします。
初期化が実行されます。

EIA標準ラックにマウントする

別売品のラックマウントキットRK-MGX16、RK-MGX12を取り付ける



注意

- 本ガイドで指示された説明を必ず読み、手順どおりに組み立てる。また、定期的にネジやボルトを締め直す。落下や転倒して、けがや破損の原因になります。
- ネジなどの小さな部品は、乳幼児の手の届くところに置かないでください。お子様が誤って飲み込むおそれがあります。

ご注意

• ラックマウント時の注意

本製品が動作保証する室温は0～40℃です。他の機器と一緒にEIA標準のラックにマウントする場合、各機器からの熱でラック内の温度が上昇し、十分な性能を発揮できないことがあります。本製品に熱がこもらないように、必ず以下の条件でラックにマウントしてください。

- パワーアンプなどの発熱しやすい機器と一緒にマウントする場合は、他の機器との間を1U以上空けてください。また、このスペースは通風パネルを取り付けたり、開放したりして、十分な通気を確保してください。
- ラックマウントすることで本体内蔵のアンテナが隠れると、Bluetooth機能が使用できません。

1 電源がオフになっていることを確認します。

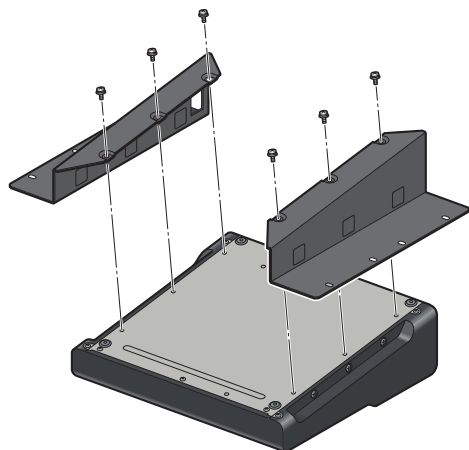


注意

- ラックマウントキットを取り付けるときは、必ず本体の電源をオフにし、付属のネジを使用してください。故障や感電の原因になります。

2 ラックマウント金具を取り付けます。

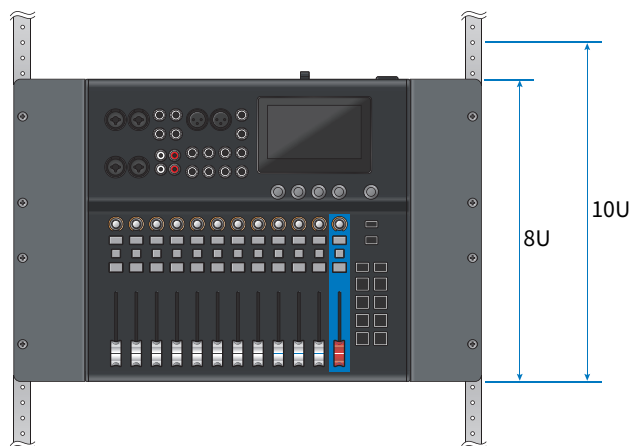
ラックマウントキットに付属のネジ(計6本)で、ラックマウント金具を本体に固定します。ラックマウント金具にガタつきがないか確認してください。



3 本体をラックへ取り付けます。

ラックにマウントする場合はケーブルを接続するために、10U*以上のスペースを確保することをおすすめします。

*10Uは約445 mmです。



よくあるご質問

困ったときは(音声のトラブル)

音が出ない

■ 接続に関する原因

● 機器の接続が適切でない

マイクなどの外部機器やモニタースピーカーを正しく接続してください。

● ケーブルが破損している

ケーブルがショートまたは断線していないかを確認してください。

■ 外部機器に関する原因

● モニタースピーカーの電源がオフになっている

モニタースピーカーの電源をオンにしてください。

■ 本体の設定に関する原因

● 入力/出力信号の設定が適切でない

「INPUT画面」(114ページ)/「Output Patchメニュー」(63ページ)で、入力/出力ソースが適切に選択されているかを確認してください。

● 入力ゲインが低すぎる

「INPUT画面」(114ページ)でゲインを調節してください。

● 該当チャンネルの[ON]キーがオフになっている

[ON]キーを押してください。

● ファンタム電源がオフになっている

コンデンサーマイクを使用する場合は、「INPUT画面」(114ページ)で[+48V]ボタンをオンにしてください。

● 出力レベルが低すぎる

出力レベルを調節してください。

■ コンピューター、ソフトウェアに関する原因

● コンピューターにドライバーがインストールされていない

下記のヤマハウェブサイトから、TOOLS for MGX/URXをインストールしてください。Yamaha Steinberg USB Driverが自動でインストールされます。

<https://www.yamaha.com/2/mgx/>

● バッファサイズが小さい

Yamaha Steinberg USB Driverの設定画面を開き、バッファサイズを調節してください。

設定画面の開き方

Windows

- ・ スタートメニューから、[Yamaha Steinberg USB Control Panel]
- ・ Cubaseシリーズのメニューから、[スタジオ] → [スタジオ設定] → [Yamaha Steinberg USB ASIO] → [コントロールパネル]

Mac

- ・ Cubaseシリーズのメニューから、[スタジオ] → [スタジオ設定] → [Yamaha MGXxxx DAW]または[Yamaha MGXxxx DAW (High Precision)] → [コントロールパネル]

(xxxにはお使いのモデル名が入ります)

● DAWソフトのオーディオ設定が適切でない

DAWソフトのオーディオ設定を確認してください。

Cubaseの場合

Cubaseシリーズのメニューから、[スタジオ] → [スタジオ設定] → [オーディオシステム]を開き、右側の[ASIOドライバー]に[Yamaha Steinberg USB ASIO] (Windows)、[Yamaha MGXxxx DAW]または[Yamaha MGXxxx DAW (High Precision)] (Mac)が選ばれていることを確認してください。

(xxxにはお使いのモデル名が入ります)

● 入出力のルーティングが適切でない

DAWソフトで入力と出力の設定を確認してください。

Cubaseの場合

[スタジオ] → [オーディオコネクション]を開き、入力と出力の設定を確認してください。

● Audio Format is Unmixableのメッセージが表示される(Macのみ)

Cubaseが正常に終了しなかった場合、Yamaha Steinberg USB Driverのコントロールパネルに「Audio Format is Unmixable」のエラーメッセージが表示されます。この場合は、[Revert to Mixable]を押してエラーを解消してください。

● 配信ソフトウェアの音量が小さすぎる

配信ソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア側での音量の調節をしてください。

音が歪む

- **本体に接続した機器の音量が大きすぎる**

接続した機器の音量を下げてください。

- **ゲインの設定が適切でない**

INPUT画面でゲインを調節してください。

困ったときは(その他のトラブル)

■ ディスプレイが暗い

[Brightness]メニューからScreen、Panelの数値を調節してください。

■ microSDカードの録音日時が正しく設定されない

内蔵バッテリーが消耗すると、本体の時計が停止するため、microSDカード録音の録音日時が正しく設定されません。ディスプレイに「Low Battery」または「No Battery」のワーニングが表示されたときは、お買い上げの販売店、または修理ご相談センターに連絡して、時計用のバッテリーの交換を依頼してください。

■ ファームウェアをアップデートできない

アップデートに失敗した場合は、エラー画面が表示されます。再度アップデートを実行する場合は[Retry]ボタンを、そのまま終了する場合は[OK]ボタンをクリックしてください。

■ 電源が自動でオフになる

[Power Management]メニュー(69ページ)をご確認ください。オートパワーオフ機能の設定が変更できます。

■ アプリケーションとの連携がうまくいかない

サウンドパッドへのオーディオファイルの割り当てや、ソフトウェアとの連携機能が使えない場合は、以下の手順でDevice Centerを再起動してください。

Windows

- 1 タスクバーの通知領域にあるDevice Centerのアイコンを右クリックして、「Exit」をクリックする
- 2 スタートメニューまたはデスクトップのショートカットからDevice Centerを起動する。または、Users\xxxxxx\AppData\Local\Yamaha\DeviceCenterに移動し("xxxxxx" はユーザー名)、DeviceCenter.exeをダブルクリックして起動する

Mac

- 1 メニューバーのDevice Centerのアイコンを右クリックして、「Exit」をクリックする

よくあるご質問 > 困ったときは(その他のトラブル)

- 2** アプリケーションフォルダー(Applications/)内のDeviceCenter.appをダブルクリックしてDevice Centerを起動する。または、Spotlight、LaunchpadからDevice Centerを起動する

資料

商標

Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Mac、macOS、iPad、iPhone、iPadOS、App Store、Lightningは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。

日本では、iPhoneは、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されている商標です。

AndroidはGoogle LLCの商標です。

SteinbergおよびCubaseは、Steinberg Media Technologies GmbHの登録商標です。



HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface、HDMIのトレードドレスおよびHDMIのロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc.の商標または登録商標です。



Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。ヤマハ株式会社は使用許諾の下でこれらのマークおよびロゴを使用しています。

MIDIは、社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。

microSDおよびmicroSDロゴは、SD-3C, LLCの商標です。

USB Type-C™およびUSB-C™はUSB Implementers Forumの商標です。

Blu-ray™(ブルーレイ)は、Blu-ray Disc Associationの商標です。

その他、本ガイドに記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

一般仕様

0 dBu = 0.775 Vrms

		MGX16V、MGX16	MGX12V、MGX12
ミキシングキャパシティ	入力チャンネル	8 mono + 4 stereo + 1 Sound Pad + 2 FX	4 mono + 4 stereo + 1 Sound Pad + 2 FX
	バス	8 MIX + 2 FX + 1 CUE + 1 STEREO	
入出力コネクター	アナログ入力	8 Mic/Line (8 XLR/TRS Phones Combo) 8 Line (4 TRS Phone, 4 RCA)	4 Mic/Line (4 XLR/TRS Phones Combo) 8 Line (4 TRS Phone, 4 RCA)
	アナログ出力	2 XLR、8 TRS Phone	2 XLR、6 TRS Phone
	USB to HOST	2 (USB Type-C)	
	Phones	4 (Stereo Phone)	
	DC 電源入力	1	
	HDMI IN	1 (MGX16V、MGX12Vのみ)	
	HDMI THRU	1 (MGX16V、MGX12Vのみ)	
	SD Card スロット	1 microSD Card スロット	
	Bluetooth	1	
ユーザーインターフェース	ディスプレイ	4.3インチ タッチスクリーン	
	フェーダー	16 x 60 mm fader	12 x 60 mm fader
	ノブ	5 x Rotary Encoder (4 x screen knob, 1 x TOUCH AND TURN), 16 x SEND knob	5 x Rotary Encoder (4 x screen knob, 1 x TOUCH AND TURN), 12 x SEND knob
録音、再生機能	USB MAIN	録音 最大22トラック 再生 最大22トラック	録音 最大18トラック 再生 最大18トラック
	USB SUB	録音 2トラック / 再生 2トラック	
	microSD Card	録音 最大16トラック / 再生 2トラック	
サンプリング周波数	周波数	44.1 kHz / 48 kHz / 88.2 kHz / 96 kHz	
	精度	±50 ppm	
シグナルディレイ		0.4 ms未満、INPUT to STEREO OUT (@ fs=96 kHz)	
周波数特性		+0.0 / -0.5 dB (20 Hz~20 kHz) Reference to the nominal output level @ 1 kHz, MIC/LINE INPUT to STEREO OUT	
全高調波歪率 (THD+N) ^{*1}		0.002% @ 4 dBu (20 Hz~20 kHz), MIC/LINE INPUT to STEREO OUT, インプットゲイン= 最小	

ハム & ノイズ ^{*2}	入力換算ノイズ: -128 dBu typ., MIC/LINE INPUT to STEREO OUT, インプットゲイン=最大 出力残留ノイズ: -108 dBu, STEREO OUT=オフ	
ダイナミックレンジ ^{*3}	125 dB typ., DAC to STEREO OUT, 115 dB typ., MIC/LINE INPUT to STEREO OUT, インプットゲイン=最小	
クロストーク @ 1 kHz ^{*4}	-120 dB, adjacent INPUT/STEREO OUT channels, インプットゲイン=最小	
ADコンバーター(MIC/LINE)	ダイナミックレンジ: 120 dB, THD+N: -112 dB	
DAコンバーター(STEREO OUT)	ダイナミックレンジ: 130 dB, THD+N: -120 dB	
電源電圧	DC 16 V/2.4 A、電源アダプター PA-300 (100 V~240 V, 50 Hz/60 Hz)	
消費電力	MGX16V: 38.4 W MGX16: 38.4 W	MGX12V: 38.4 W MGX12: 38.4 W
寸法 (幅 x 高さ x 奥行き)	419 mm x 96 mm x 319 mm	335 mm x 96 mm x 319 mm
質量	MGX16: 4.7 kg MGX16V: 4.9 kg	MGX12: 3.9 kg MGX12V: 4.1 kg
動作温度	0~40°C	
保管温度	-20~60°C	
同梱品	スタートガイド x 1 セーフティーガイド x 1 Cubase AI License Card x 1 Steinberg Plus License Card x 1 Basic FX Suite License Card x 1 電源アダプター (PA-300 電源コード含む) x 1	
オプション(別売)品	ラックマウントキット RK-MGX16	ラックマウントキット RK-MGX12

*1 全高調波歪率は20 Hzハイパスフィルターと20 kHzローパスフィルターで測定。

*2 ノイズは20 kHzローパスフィルターとA-weightingフィルターで測定。

*3 ダイナミックレンジは20 kHzローパスフィルターとA-weightingフィルターで測定。

*4 クロストークは1 kHz バンドパスフィルターで測定。

本ガイドは、発行時点での最新仕様で説明しています。

入出力仕様

アナログ入力規格

0 dBu = 0.775 Vrms

入力端子 (MGX16V、 MGX16)	入力端子 (MGX12V、 MGX12)	ゲイン	入力インピー ダンス	適合インピー ダンス	入力レベル			端子形状
					感度 ^{*1}	ノミナル レベル	最大ノン クリップ レベル	
MIC/LINE 1-8	MIC/LINE 1-4	+70 dB	4 k Ω	150 Ω Mics	−94 dBu (15.5 μV)	−74 dBu (155 μV)	−62 dBu (616 μV)	コンボ端子 ^{*2} (Balanced)
		−16 dB			−8 dBu (309 mV)	+12 dBu (3.09 V)	+24 dBu (12.3 V)	
LINE 9/10, 11/12	LINE 5/6, 7/8	High	10 k Ω	600 Ω Lines	−26 dBu (38.8 mV)	−6 dBu (389 mV)	+6 dBu (1.55 V)	フオーン端子 ^{*2} (Balanced)
		Low			−8 dBu (309 mV)	+12 dBu (3.09 V)	+24 dBu (12.3 V)	
LINE 13/14, 15/16	LINE 9/10, 11/12	-	10 k Ω	600 Ω Lines	−20 dBu (77.5 mV)	0 dBu (0.775 V)	+12 dBu (3.09 V)	RCA Pin端子 (Unbalanced)

*1 入力感度：最大レベル設定(レベルコントロールがすべて最大)時で+4 dBu (1.23 V)、またはノミナルレベルを出力するときの最小入力レベル

*2 コンボ端子およびフオーン端子のピン割り当て: 1&Sleeve=GND, 2&Tip=HOT, 3&Ring=COLD

アナログ出力規格

0 dBu = 0.775 Vrms

出力端子 (MGX16V、 MGX16)	出力端子 (MGX12V、 MGX12)	出力インピーダンス	適合インピーダンス	出力レベル		端子形状
				ノミナルレベル	最大ノンクリップレベル	
STEREO OUT		300 Ω	10 k Ω Lines	+4 dBu (1.23 V)	+16 dBu (12.3 V)	XLR-3-32端子 ^{*1} (Balanced)
OMNI OUT 1-8	OMNI OUT 1-6	150 Ω	10 k Ω Lines	−2 dBu (616 mV)	+10 dBu (2.45 V)	フーン端子 ^{*2} (Impedance Balanced)
PHONES 1-4		10 Ω	40 Ω Phones	6 mW + 6 mW	100 mW+100 mW	ステレオフーン 端子 ^{*3}

*1 XLR-3-32端子のピン割り当て: 1=GND, 2=HOT, 3=COLD

*2 フーン端子のピン割り当て: Tip=HOT, Ring=COLD, Sleeve=GND

*3 ステレオフーン端子のピン割り当て: Tip=LEFT, Ring=RIGHT, Sleeve=GND

デジタル入出力規格

端子	フォーマット	データ長	規格	オーディオ	端子形状
USB to Host [MAIN]	PCM	32-bit / Up to 96 kHz	Yamaha Steinberg USB Driver	MGX16V, MGX16: Up to 22 in / 22 out MGX12V, MGX12: Up to 18 in / 18 out	USB (Type-C, USB 2.0 : High Speed)
		32-bit / Up to 96 kHz	USB Audio Class (UAC 2.0)	MGX16V, MGX16: 18 in / 16 out MGX12V, MGX12: 14 in / 12 out	
USB to Host [SUB]	PCM	16-bit / Up to 48 kHz	USB Audio Class (UAC 1.0)	2 in / 2 out	USB (Type-C, USB 2.0 : Full Speed)
microSD Card Slot	WAV	24-bit / Up to 96 kHz	microSDHC/ microSDXC (UHS-I or higher, Class 10 or higher), exFAT supported	Recording: 16 tracks @ 44.1/48 kHz 8 tracks @ 88.2/96 kHz Playback: 2 tracks	microSD Card Slot
Bluetooth Audio Input	AAC, SBC	16-bit / Up to 48 kHz	Bluetooth 5.0 A2DP	2 in	-
HDMI IN *MGX16V、MGX12Vのみ	PCM	Up to 24-bit / 192 kHz	HDMI, HDCP	8 in	HDMI (Type A)
HDMI THRU (パススルー) *MGX16V、MGX12Vのみ	PCM	Up to 24-bit / 48 kHz	HDMI, HDCP	2 out	HDMI (Type A)

HDMI、BluetoothおよびUSB SUBから入力された音声信号は、自動的に本製品の音声フォーマットに変換されます。

ビデオ入出力規格 (MGX16V、MGX12V)

端子	解像度	規格	特長	端子形状
HDMI IN	Up to 4K60, 1440p120, 1080p240	HDMI, HDCP	HDR10, HLG, VRR	HDMI (Type A)
HDMI THRU (パ ススルー)	Up to 4K60, 1440p120, 1080p240	HDMI, HDCP	HDR10, HLG, VRR	HDMI (Type A)
USB to HOST [MAIN]	Up to 4K60, 1440p120, 1080p240	USB Video Class (UVC 1.1) ^{*1}	HDR10, HLG	USB (Type-C, USB3.2 Gen1, 5Gbps)

*1 WindowsおよびmacOSではドライバーのインストールは不要です。

本ガイドは、発行時点での最新仕様で説明しています。

Bluetooth仕様

Bluetooth	ファンクション	Classic Audio
	プロファイル	A2DP
	コーデック	SBC, AAC
	Bluetoothバージョン	5.0
	無線周波数範囲	2402～2480 MHz
	無線出力	Class 1
	無線最大出力電力	+10.4 dBm (11 mW)

本ガイドは、発行時点での最新仕様で説明しています。

エフェクトリスト

COMPANDER-H、COMPANDER-S

対応サンプリング周波数	44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz
対応チャンネル	MONO INチャンネル、アウトプットチャンネルのINS FXで使用できます。 Signal TypeがSTEREOのチャンネルペアにインサートするとステレオ動作になります。 ただし、2つのMONOチャンネルにインサートすることはできません。
同時使用可能数	MONO INチャンネルで1スロット、アウトプットチャンネルで1スロット ただし、MULTI-BAND COMPRESSORと同時に使用できません。

MULTI-BAND COMPRESSOR

対応サンプリング周波数	44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz
対応チャンネル	アウトプットチャンネルのINS FXで使用できます。 Signal TypeがSTEREOのチャンネルペアにインサートするとステレオ動作になります。 ただし、2つのMONOチャンネルにインサートすることはできません。
同時使用可能数	1スロット ただし、COMPANDER-H、COMPANDER-Sと同時に使用できません。

PITCH FIX

対応サンプリング周波数	44.1 kHz、48 kHz
対応チャンネル	MONO INチャンネルのINS FXで使用できます。 Signal TypeがSTEREOの場合は使用できません。
同時使用可能数	1スロット

GUITAR AMP CLASSICS (Clean, Crunch, Lead, Drive)

対応サンプリング周波数	44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz
対応チャンネル	MONO INチャンネルのINS FXで使用できます。 Signal TypeがSTEREOの場合は使用できません。
同時使用可能数	1スロット

REV-X (HALL/ROOM/PLATE)

対応サンプリング周波数	44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz
対応チャンネル	FX1で使用できます。 ただし、MONO DELAY、PING PONG DELAYと同時に使用できません。

REV-R3 (HALL/ROOM/PLATE)

対応サンプリング周波数	44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz
対応チャンネル	FX2で使用できます。 ただし、MONO DELAY、PING PONG DELAYと同時に使用できません。

MONO DELAY

対応サンプリング周波数	[FX1]:44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz [FX2]:44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz
対応チャンネル	FX1、FX2で使用できます。 FX1では、REV-XおよびPING PONG DELAYと同時に使用できません。 FX2では、REV-R3およびPING PONG DELAYと同時に使用できません。

PING PONG DELAY

対応サンプリング周波数	[FX1]:44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz [FX2]:44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz
対応チャンネル	FX1、FX2で使用できます。 FX1では、REV-XおよびMONO DELAYと同時に使用できません。 FX2では、REV-R3およびMONO DELAYと同時に使用できません。

User Definedノブに割り当て可能な機能

User Definedノブに割り当て可能な機能を次に示します。

ファンクション	Parameter 1	Parameter 2	
		MGX16V、MGX16	MGX12V、MGX12
No Assign	---	---	---
Brightness	Screen	---	---
	Panel	---	---
Monitor	Monitor 1-4	Level	Level
Phones	Phones 1-4	Level	Level
Oscillator	Level	---	---

User Definedキーに割り当て可能な機能

User Definedキーに割り当て可能な機能を次に示します。

ファンクション	Parameter 1	Parameter 2		解説
		MGX16V、MGX16	MGX12V、MGX12	
No Assign	---	---	---	割り当てなし
CUE	Clear CUE	---	---	CUEをクリアする。
Monitor	Monitor 1-4	ON	ON	Monitorのオン/オフを切り替える。
Oscillator	ON	---	---	オシレーターのオン/オフを切り替える。
	Direct Assign	MIX 1-8	MIX 1-8	選択したチャンネルにオシレーターをアサインする。
		FX 1-2	FX 1-2	
		ST L	ST L	
		ST R	ST R	
Scene	Direct Recall	[Standard] 01-63	[Standard] 01-63	任意のシーンを直接リコール。
		[Simple] 01-63	[Simple] 01-63	
Sends Select	MIX 1-8	Normal, With CUE	Normal, With CUE	センド先をMIX 1-8 / STEREOに切り替える。 Parameter 2で With CUEを選択した場合は、該当MIXのCUEのオン/オフも連動します。
	FX 1-2	Normal, With CUE	Normal, With CUE	センド先をFX 1-2 / STEREOに切り替える。 Parameter 2で With CUEを選択した場合は、該当FXのCUEのオン/オフも連動します。
Sound Pad	PAD 1-8	---	---	サウンドパッドを設定する。
Tap Tempo	Tempo 1-2	---	---	TAP Tempo を設定する。

USB MAIN信号名対照表

Windows

使用可能領域				MGX16V、MGX16 (44.1 kHz、48 kHz)	MGX16V、MGX16 (88.2 kHz、96 kHz) MGX12V、MGX12 (全サンプリング周波数)
コンピューター側 出力 信号名	A Yamaha MGX**	B Yamaha MGX**	C Yamaha MGX**	MGX** 1～16	MGX** 1～12
	サウンドの出力デバイスとしてコンピューターに認識されます			Yamaha Steinberg USB ASIOデバイスとしてDAWなどで使用	
本体側入力 信号名	USB MAIN A	USB MAIN B	USB MAIN C	USB DAW 1～16	USB DAW 1～12
本体側出力 信号名	USB MAIN A	USB MAIN B	USB MAIN C	(CH 1～16 Rec Out)	(CH 1～12 Rec Out)
コンピューター側入力 信号名	A Yamaha MGX**	B Yamaha MGX**	C Yamaha MGX**	MGX** 1～16	MGX** 1～12
	サウンドの入力デバイスとしてコンピューターに認識されます			Yamaha Steinberg USB ASIOデバイスとしてDAWなどで使用	

**にはモデル名(16V、16、12V、12)が入ります

Mac

使用可能領域				MGX16V、 MGX16 (44.1 kHz、48 kHz)	MGX16V、 MGX16 (88.2 kHz、96 kHz) MGX12V、 MGX12 (全サン プリング周波数)
コンピューター側出力信号 名	Yamaha MGX** A		Yamaha MGX** B	Yamaha MGX** C	Yamaha MGX** DAW
	MGX** A L	MGX** A R	MGX** B L	MGX** B R	MGX** 1～16
本体側入力信 号名	USB MAIN A		USB MAIN B	USB MAIN C	USB DAW 1～16
本体側出力信 号名	USB MAIN A		USB MAIN B	USB MAIN C	(CH 1～16 Rec Out)

使用可能領域						MGX16V、 MGX16 (44.1 kHz、48 kHz)	MGX16V、 MGX16 (88.2 kHz、96 kHz) MGX12V、 MGX12 (全サン プリング周波数)
コンピューター側入力信号名	Yamaha MGX** A		Yamaha MGX** B		Yamaha MGX** C		Yamaha MGX** DAW
	MGX** A L		MGX** B L		MGX** C L		Yamaha MGX** DAW
	MGX** A R	MGX** B R	MGX** C R				MGX** 1～16
							MGX** 1～12

**にはモデル名(16V、16、12V、12)が入ります

iPad/iPhone (MGX16V、MGX16)

Generic Driver Audio Channel Suppression = Noneの場合

機器側出力信号	-	-	-	CH 1～16
本体側入力信号名	USB MAIN A	USB MAIN B	USB MAIN C	USB DAW 1～16
本体側出力信号名	USB MAIN A	USB MAIN B	USB MAIN C	(CH 1～16 Rec Out)
機器側入力信号	CH 17、18	-	-	CH 1～16

Generic Driver Audio Channel Suppression = 2 Channelsの場合

機器側出力信号	CH 1、2	-	-	-
本体側入力信号名	USB MAIN A	USB MAIN B	USB MAIN C	USB DAW 1～16
本体側出力信号名	USB MAIN A	USB MAIN B	USB MAIN C	(CH 1～16 Rec Out)
機器側入力信号	CH 1、2	-	-	-

iPad/iPhone (MGX12V、MGX12)

Generic Driver Audio Channel Suppression = Noneの場合

機器側出力信号	-	-	-	CH 1～12
本体側入力信号名	USB MAIN A	USB MAIN B	USB MAIN C	USB DAW 1～12
本体側出力信号名	USB MAIN A	USB MAIN B	USB MAIN C	(CH 1～12 Rec Out)
機器側入力信号	CH 13、14	-	-	CH 1～12

Generic Driver Audio Channel Suppression = 2 Channelsの場合

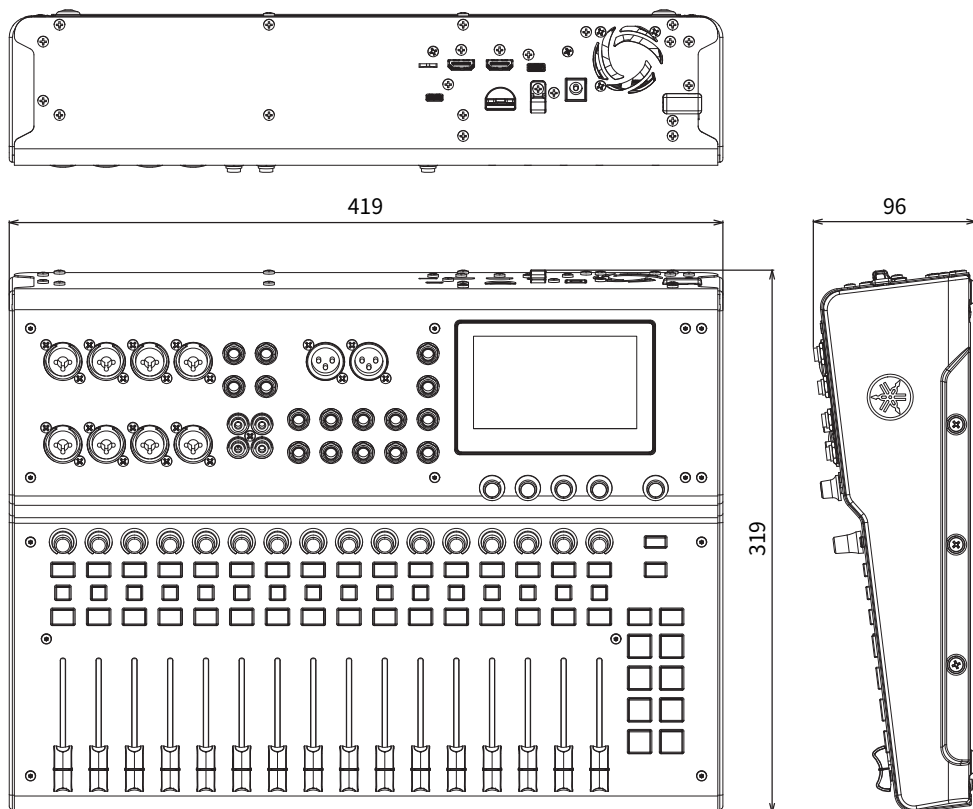
機器側出力信号	CH 1、2	-	-	-
本体側入力信号名	USB MAIN A	USB MAIN B	USB MAIN C	USB DAW 1～12

資料 > USB MAIN信号名对照表

本体側出力信号名	USB MAIN A	USB MAIN B	USB MAIN C	(CH 1～12 Rec Out)
機器側入力信号	CH 1、 2	-	-	-

寸法図

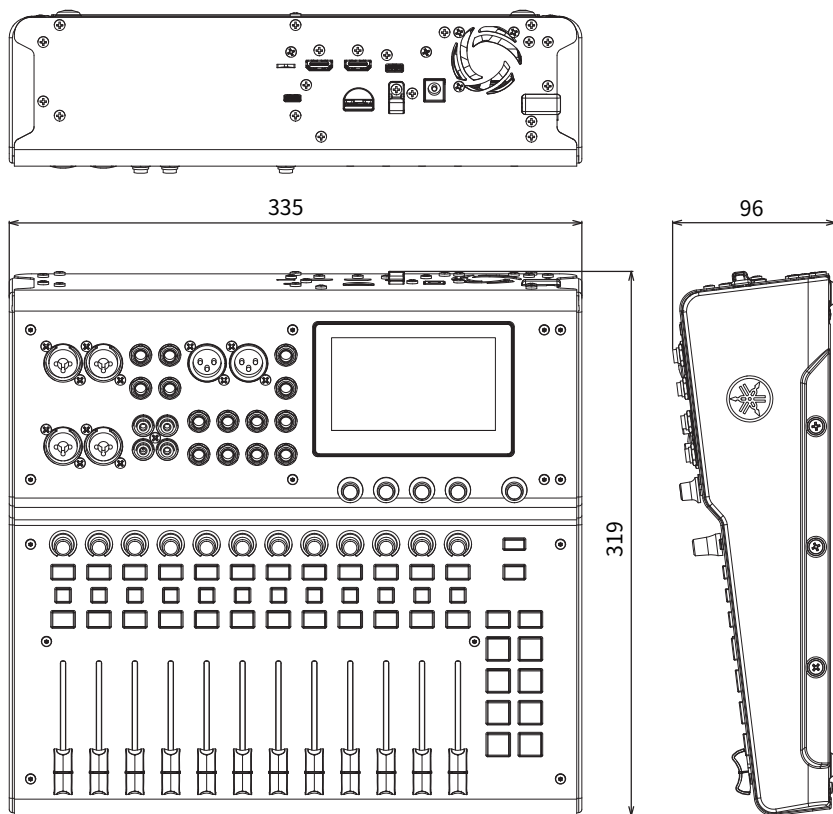
■ MGX16V、MGX16



単位: mm

イラストはMGX16Vを使用しています。

■ MGX12V、MGX12



単位: mm

イラストはMGX12Vを使用しています。

ブロックダイアグラム

MGXシリーズ ブロックダイアグラムは下記のヤマハウェブサイトをご覧ください。

<https://www.yamaha.com/2/mgx/>

ブロックダイアグラムは、「ダウンロード」メニューの「取扱説明書」内、「Technical Specifications」(英語版のみ)に記載されています。

Yamaha Global Site
<https://www.yamaha.com/>

Yamaha Downloads
<https://download.yamaha.com/>

© 2025 Yamaha Corporation

2026年6月 発行 AM-D0